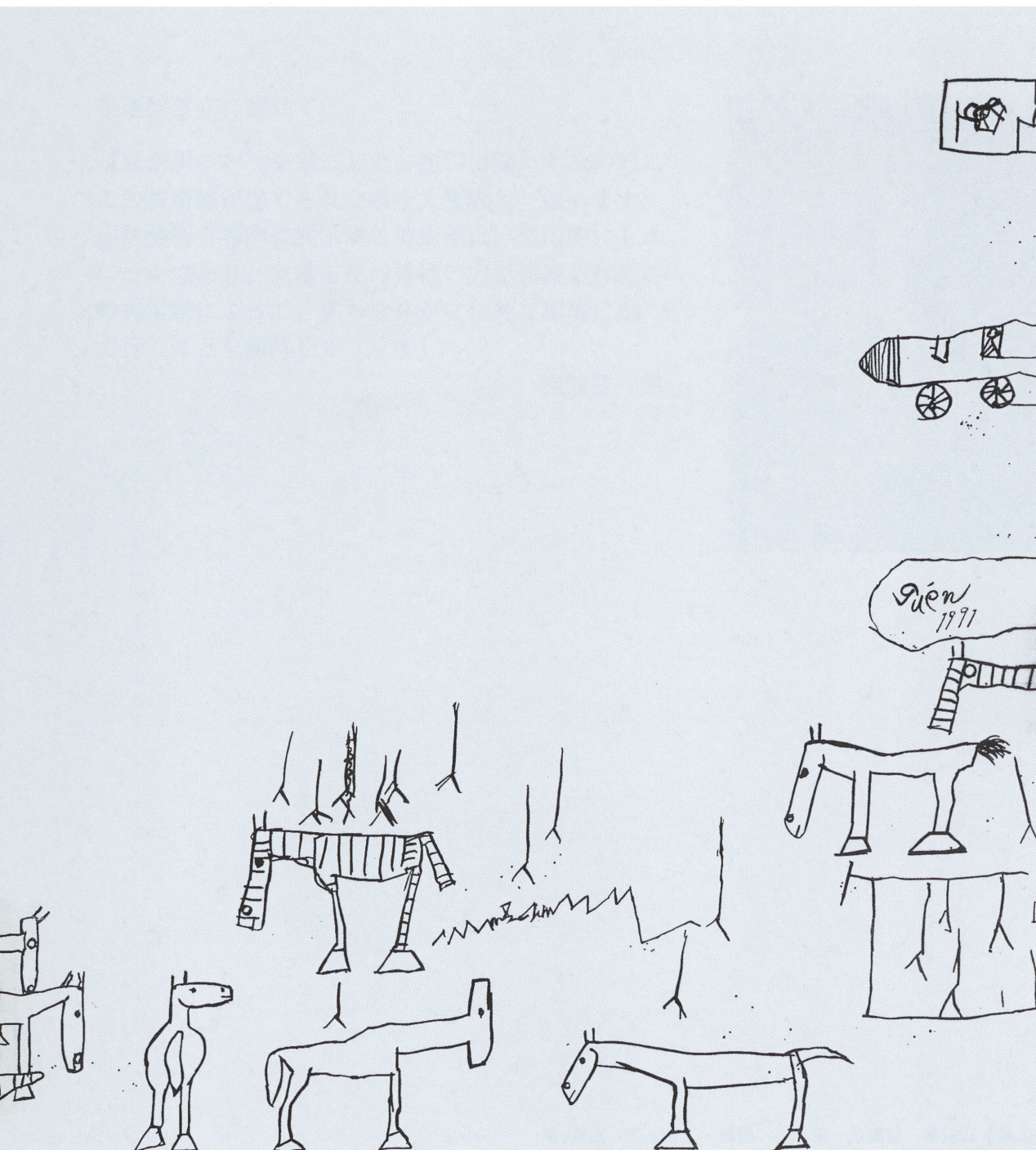
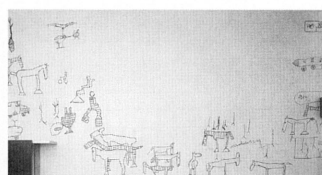


丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 年報2005-2008



表紙 壁画『創造の広場』1991年 猪熊弦一郎 撮影 フォトス 高橋 章



縦 1150cm

横 2157cm

材質 大理石（ギリシア産）

御影石（岐阜・美濃産）

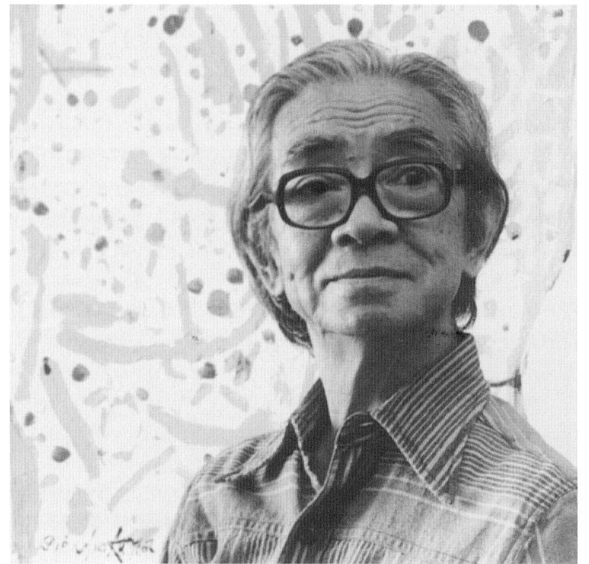
『壁画の主題になっている馬は、人間をはじめとする生き物の代表として描いたものです。壁画のあるゲートプラザには、壁画のほかに彫刻類もあり、この広場に立ったとき、空間の広さと美しさを感じ、それぞれの人に新たな創造の意欲がわき出るような広場にしたいかったです』

猪熊弦一郎

美術館設立に寄せて

『私が少年時代を過ごした、思い出深い丸亀の地にこの美術館が建てられた事を大変嬉しく思います。現代美術を専門に展示する美術館は、全国的にもユニークであり、丸亀市民の皆様の方で建設されたこの美術館によって、まち全体が文化的な環境になって行くことを期待しています』

猪熊弦一郎



©Francis Haar

凡例

カタログを刊行していない展覧会については、作品リストを掲載した。
作品リストを掲載していない展覧会については、「刊行物一覧」(76頁～)にあるカタログを参照のこと。

目次

I	沿革	1
II	展覧会事業	
	i 展覧会一覧(2005-2008)	2
	ii 特別展	
	2005年度	
	84 ニューヨーク近代美術館[MoMA]巡回建築展 谷口吉生のミュージアム	4
	85 花人 中川幸夫の写真・ガラス・書-いのちのかたち	6
	86 猪熊弦一郎展 若き情熱の証	7
	87 ドイツ写真の現在 かわりゆく「現実」と向かいあうために	8
	2006年度	
	88 猪熊弦一郎展 具象と抽象の狭間で	10
	89 スティーヴ・マックイーン Caresses[愛撫]	11
	90 須田悦弘展	12
	91 無言館-戦没画学生 いのちの叫び	13
	92 猪熊弦一郎展『いのくまさん』	18
	2007年度	
	93 奏でる身体	23
	94 エルネスト・ネット展	25
	95 マルレーネ・デュマス-ブローケン・ホワイト	27
	96 猪熊弦一郎展 Confusion and Order[混乱と秩序]	30
	97 Focus 2 エイヤ=リーサ・アハティラ展	31
	2008年度	
	98 ノイエ・フォトグラフィー 1920-30年代のドイツ写真	33
	99 ピピロッティ・リスト:ゆうゆう	34
	100 時間の形	36
	101 猪熊弦一郎展 ○×○×	37
	102 MIMOCA'S EYE vol.2 小金沢健人展 動物的	38
	iii 常設展「猪熊弦一郎展」	
	2004-2005年度 屋外と室内	40
	2005年度 ニューヨーク、建築、MIMOCA(ミモカ)	42
	テーマの変化	43
	「角」「丸」・・・「顔」	44
	ハワイ時代	45
	2006年度 戸外の景色や人々を描く	46
	街	47
	作風の変化	48
	いのくまさんはたのしいな	49
	2007年度 ●▲■	50
	妻を描く	51
	猪熊作品大集合	52
	色いろいろ	53
	2008年度 ニューヨーク時代	54
	宇宙と生物	55
	回顧展	56
	顔	57
III	美術作品整理・管理	
	i 貸出し	58
IV	教育普及事業	
	i ワークショップ	62
	ii オープン・スタジオ「美術館であそぼう」	69
	iii イベント	70
	iv 刊行物一覧	
	iv-i 当館発行刊行物	76
	iv-ii その他関連刊行物	80
	v 美術図書室利用状況	82
	vi ミモカフレンド	84
	vii キッズパスポート	86
	viii 市内教職員対象解説会	88
	ix 博物館実習	89
	x 鑑賞教育について考える会	89
V	その他事業	
	i ミュージアムショップ	90
	ii カフェ	91
VI	入館者状況	92
VII	組織図	96
VIII	施設概要	100
IX	利用案内	101

I

沿革

- 1987年(昭和62年)10月 丸亀市が市制90周年事業として猪熊弦一郎美術館の建設を発表
- 1988年(昭和63年)1月 美術館建設懇談会設置
- 7月 美術館建設懇談会、市長に意見書提出
- 8月 美術館建設基本構想策定
- 9月 美術館基本設計委託
- 9月 丸亀駅前地下駐車場建設工事着工
- 11月 美術館準備室設置
- 1989年(平成元年)2月 美術館基本設計完了
- 3月 美術館実施設計委託
- 5月 美術館基本設計変更案決定
- 9月 美術館実施設計完了
- 11月 美術館建設工事着工
- 12月 美術館建設工事起工式
- 12月 猪熊弦一郎から丸亀市へ《夜》《猫に寄せる歌》
《Two Shores A》等、第一回分として作品1000点を寄贈
- 1990年(平成2年)3月 丸亀駅地下駐車場建設工事竣工
- 1991年(平成3年)3月 J R丸亀駅南口広場の整備工事完成
- 3月 定礎式と壁画「創造の広場」除幕式
- 3月 猪熊弦一郎に名誉市民証授与される(丸亀市第1号)
- 6月 美術館建設工事竣工
- 9月 丸亀市美術館条例制定
- 10月 美術館の愛称が「MIMOCA」に決定
- 11月 落成式
- 11月 一般公開(23日)
- 1992年(平成4年)3月 入館者5万人達成(28日)
- 5月 猪熊弦一郎から丸亀市長とのかねてからの約束に
基づき所有する作品等を市に寄贈する主旨の文書提出
- 10月 入館者10万人達成(9日)
- 12月 第26回サイン・デザイン賞受賞
- 1993年(平成5年)4月 財団法人ミモカ美術振興財団設立
- 5月 猪熊弦一郎、東京にて死去(17日、満90歳)
- 9月 第34回建築業協会賞受賞
- 1994年(平成6年)5月 第7回村野藤吾賞受賞
- 8月 入館者30万人達成(4日)
- 1995年(平成7年)4月 ミモカフレンド発足
- 1996年(平成8年)4月 第5回公共建築賞(主催:社団法人・公共建築協会)、特別賞受賞(3日)
- 5月 休館日改定(月曜日休館を廃止し、元旦より開館へ)
料金体系改定(大学生料金を一般料金と分離し、高校生以下無料に)
開館時間変更(午前10時から午後6時まで)
- 5月 入館者50万人突破(15日)
- 9月 ホームページ開設(5日)
- 1997年(平成9年)7月 美術館南北の市道の愛称を「美術館通り」、「いのくま通り」と設定
- 1998年(平成10年)11月 建設省設立50周年記念「公共建築百選」に選出
- 2000年(平成12年)9月 入館者100万人突破(26日)
- 2001年(平成13年)11月 香川県教育文化功労者受賞(1日)
- 2001年(平成13年)11月 開館10周年を迎える
- 2003年(平成15年)11月 生誕100周年記念猪熊弦一郎回顧展開催(23日)
- 2006年(平成18年)4月 財団法人ミモカ美術振興財団が本館の指定管理者となる

II

展覧会事業

i

展覧会一覧 (2005-2008)

特別展

No	展覧会名	会期
83	風景遊歩 sight-cruising (年報2003-2004参照)	2005年3月13日～2005年6月12日
2005年度	84 ニューヨーク近代美術館[MoMA]巡回建築展 谷口吉生のミュージアム	2005年7月10日～2005年9月25日
85	花人 中川幸夫の写真・ガラス・書-いのちのかたち	2005年10月9日～2006年1月9日
86	猪熊弦一郎展 若き情熱の証	2006年1月15日～2006年3月5日
87	ドイツ写真の現在 かわりゆく「現実」と向かいあうために	2006年3月12日～2006年5月7日
2006年度	88 猪熊弦一郎展 具象と抽象の狭間で	2006年5月14日～2006年7月9日
89	スティーヴ・マックイーン Caresses[愛撫]	2006年5月14日～2006年7月9日
90	須田悦弘展	2006年7月16日～2006年10月1日
91	無言館一戦没画学生 いのちの叫びー	2006年10月8日～2006年12月17日
92	猪熊弦一郎展『いのくまさん』	2007年1月1日～2007年4月15日
2007年度	93 奏でる身体	2007年4月22日～2007年6月24日
94	エルネスト・ネット展	2007年7月15日～2007年10月8日
95	マルレーネ・デュマスーブローケン・ホワイト	2007年10月21日～2008年1月20日
96	猪熊弦一郎展 Confusion and Order[混乱と秩序]	2008年2月3日～2008年3月23日
97	Focus 2 エイヤ＝リーサ・アハティラ展	2008年2月3日～2008年3月23日
2008年度	98 ノイエ・フォトグラフィー 1920-30年代のドイツ写真	2008年4月6日～2008年6月22日
99	ピピロッティ・リスト：ゆうゆう	2008年7月13日～2008年10月13日
100	時間の形	2008年10月26日～2009年1月12日
101	猪熊弦一郎展 ○×○×	2009年1月18日～2009年4月5日
102	MIMOCA'S EYE vol.2 小金沢健人展 動物的	2009年1月18日～2009年4月5日

常設展 「猪熊弦一郎展」

テ　ー　マ

会　期

2004－2005年度	屋外と室内	2005年3月13日～2005年7月3日
2005年度	ニューヨーク、建築、MI MOCA（ミモカ）	2005年7月10日～2005年10月2日
	テーマの変化	2005年10月9日～2006年1月9日
	「角」「丸」・・・「顔」	2006年1月15日～2006年3月5日
	ハワイ時代	2006年3月12日～2006年5月7日
2006年度	戸外の景色や人々を描く	2006年5月14日～2006年7月9日
	街	2006年7月16日～2006年10月1日
	作風の変化	2006年10月8日～2006年12月22日
	いのくまさんは たのしいな	2007年1月1日～2007年4月15日
2007年度	●▲■	2007年4月22日～2007年7月8日
	妻を描く	2007年7月15日～2007年10月14日
	猪熊作品大集合	2007年10月21日～2008年1月27日
	色いろいろ	2008年2月3日～2008年3月23日
2008年度	ニューヨーク時代	2008年4月6日～2008年7月6日
	宇宙と生物	2008年7月13日～2008年10月19日
	回顧展	2008年10月26日～2009年1月12日
	顔	2009年1月18日～2009年4月5日

II

展覧会事業

ii

特別展

84

ニューヨーク近代美術館[MoMA]巡回建築展 谷口吉生のミュージアム

- 会 期 2005年7月10日(日)～9月25日(日)
- 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団、
四国新聞社、K S B瀬戸内海放送、西日本放送、日本経済新聞社、
ニューヨーク近代美術館、谷口吉生展実行委員会
- 後 援 アメリカ大使館、日本建築学会、日本建築家協会、日本建築士会
連合会、建築業協会
- 特別協賛 竹中工務店、大林組、鹿島建設、NEC
- 協 賛 清水建設、大成建設
- 協 力 キヤノン販売、日本航空、NHKエンタープライズ、ソニー
- 展示デザイン 谷口建築設計研究所
- 企画協力 デルファイ研究所
- 巡 回 先 2005年4月8日(金)～6月26日(日) 東京オペラシティアートギャラリー
2005年10月22日(土)～12月25日(日) 豊田市美術館



*この展覧会はニューヨーク近代美術館により、国際協議会の協力のもと企画・構成された。

本展では、建築家・谷口吉生(1937-)がそれまでに手がけたMoMAと国内計12のミュージアムのプロジェクトを建築模型、図面、写真、映像などによって紹介するとともに、MoMAについては、その建築の歴史、設計コンペの様相、谷口案が採択されてから建設に至るまでを多角的に検証した。谷口自身の手による美術館の内部空間での展示は、来訪者の感性を深く揺さぶり、静かな感動を呼び起こす谷口建築の真髄を体験する好機となるとともに、12のプロジェクトにおける丸亀の位置付けを読み取る機会ともなった。

刊行物 カタログ

また谷口が設計した当館および香川県立東山魁夷せとうち美術館ほか、香川県内の当館とゆかりの深い建築を谷口とともに巡るツアーを行い、好評を博した。

入場者数 **15,948**人

関連企画

— レクチャー1 —

7月10日(日) 14時～15時30分
テ ー マ 「ニューヨークから丸亀へ—MI
MOCAの建設経緯、目的とその
意義を改めて見つめ、今後のあ
るべきMIMOCA像を考える」
講 師 谷口吉生、加藤源(日本都市総合
研究所代表取締役)、白川洋二
(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
副館長)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 356人

— 谷口吉生と巡る谷口吉生のミュージアムin香川 —

8月19日(金)
香川県庁(丹下健三設計)
香川県立東山魅夷せとうち美術館
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
8月20日(土)
イサム・ノグチ庭園美術館
香川県立東山魅夷せとうち美術館
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
講 師 谷口吉生
参加者数 80人(2日間合計)
参 加 費 10,000円

— レクチャー2 —

7月24日(日) 14時～15時30分
テ ー マ 「MoMAの歴史を知ること
で、谷口吉生が増改築を担当した新
生MoMAを学ぶ」
講 師 植松由佳(本展担当学芸員)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 61人

— ワークショップ —

8月6日(土)、7日(日)13時～15時30分(い
ずれか一日)
テ ー マ 「マイ・ミモカ・マップ～ミモカ
のココが好き!～」
講 師 戸室太一、道面実香(谷口建築
設計研究所所員)
会 場 2階造形スタジオ
参加者数 25人(2日間合計)

— レクチャー3 —

9月18日(日) 14時～15時30分
テ ー マ 「アーティストの視点から谷口
建築を探る」
講 師 港千尋(写真家・多摩美術大学教
授)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 82人

— キュレーターズ・トーク(担当学芸員による) —

7月17日(日)、18日(月・祝)、31日(日)、
8月14日(日)、21日(日)、28日(日)、
9月4日(日)、11日(日)、19日(月・祝)、
25日(日) 14時～
参加者数 217人(10日間合計)

85 花人 中川幸夫の写真・ガラス・書—いのちのかたち

会 期 2005年10月9日(日)～2006年1月9日(月・祝)
 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
 後 援 朝日新聞高松総局、産経新聞高松支局、山陽新聞社、四国新聞社、
 日本経済新聞社高松支局、毎日新聞高松支局、読売新聞高松総局、
 NHK高松放送局、OHK岡山放送、KSB瀬戸内海放送、
 RSK山陽放送、TSCテレビせとうち、西日本放送
 企画協力 中川幸夫事務所
 巡回先 2005年6月18日(土)～9月4日(日) 宮城県美術館

いけばな作家・中川幸夫(1918-)の個展。その作品や活動は従来の伝統的ないけばなに留まらず、1951年に流派を脱退した後は、独立しいけばな作家として活動する。いけばな界では長く異端視されてきたが、花の生を凝視し、一切の妥協を許さず、その姿をするどく映し出した作品は、華道や美術という表現領域の境界を超越した現代芸術として国内外で多くの支持を得ている。

生きた植物を素材とするいけばなは時間が限られたものであるため、中川は作品を自ら写真に撮ることで花に新たな生命を与えてきた。本展では、その独創的な「花」を自身で撮影した写真作品を中心に、花器の概念を超えた、それ自体が花のかたちをあらわしたガラス作品や、奔放に筆を揮った書などによって、孤高の表現者の造形世界を紹介した。

丸亀出身であることから地元からの注目も高く、テレビ番組が制作され、早坂暁による講演会は、ちょうど中川を描いた小説を雑誌に連載中であったこともあり、盛況となった。

刊行物 カタログ

関連企画

講演会

10月9日(日) 14時～
 テーマ 「君は歩いて行くらん」
 講師 早坂暁(作家)
 会場 2階ミュージアムホール
 参加者数 215名



キュレーターズ・トーク(担当学芸員による)

10月16日(日)、23日(日)、30日(日)、
 11月6日(日)、13日(日)、20日(日)、27日(日)、
 12月4日(日)、11日(日)、18日(日)、
 1月1日(日・祝)、8日(日) 14時～
 参加者数 146人(12日間合計)

子どもギャラリー・トーク(教育普及担当学芸員による)

10月29日(土)、11月12日(土)、
 12月17日(土) 14時～
 「花仙人の小さな旅」
 対象 小学生
 参加者数 6人(うち保護者1人)

入場者数 **10,045**人

86 猪熊弦一郎展 若き情熱の証

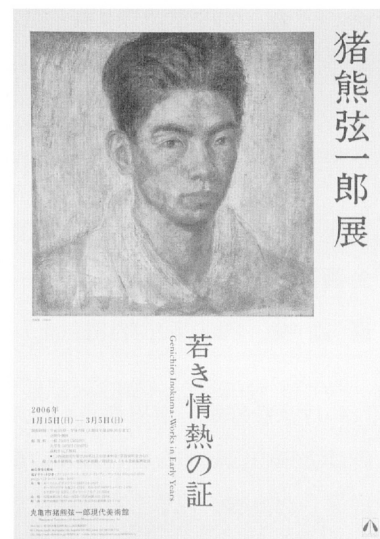
会 期 2006年1月15日(日)～3月5日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

1922年の東京美術学校入学からパリへ遊学する1938年まで、わずか15年あまりの間に大きく変化した猪熊の具象絵画を紹介した。

東京美術学校に進学した猪熊は藤島武二に学び、在学中に写実の婦人像で帝展初入選を果たす。その後、穏やかな色遣いで油絵具の特徴を生かした透明感のある作品を描く時期を経て、次第に部分を強調、または反対に単純化して人物を捉えたり、鮮やかな色彩を用いたりなどした単身の人物画や群像の大作を制作するようになっていった。

本展では、これまで紹介される機会の少なかった、美術学校在学中に制作した人物画や点描の風景画といった油彩作品やデッサンの数々に始まり、自身の納得する絵画を求めて意欲的に変化を重ねていった青年期にあたる新制作派協会第2回展(1937年)出品作までを通覧することで、猪熊の具象絵画における知られざる挑戦をたどった。



刊行物 カタログ

制作物 ワークシート(子ども対象)

関連企画

キュレーターズ・トーク(担当学芸員による)

1月15日(日)、22日(日)、29日(日)、
2月5日(日)、12日(日)、19日(日)、26日(日)、
3月5日(日) 14時～
参加者数 105人(8日間合計)

子どもギャラリー・トーク(教育普及担当学芸員による)

2月11日(土・祝)、18日(土) 10時～11時
テ ー マ 「名探偵ミモの探偵手帳―虫く
いの巻」
対 象 小学生
参加者数 10人(2日間合計)

入場者数 **3,823**人

87 ドイツ写真の現在 かわりゆく「現実」と向かいあうために

会 期 2006年3月12日(日)～5月7日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団、
大阪ドイツ文化センター、読売新聞大阪本社

特別協力 ピナコテーク・デア・モデルネ、ミュンヘン

協 力 ルフトハンザ・ドイツ航空、DHL

巡 回 先 2005年10月25日(火)～12月18日(日) 東京国立近代美術館
2006年1月6日(金)～2月12日(日) 京都国立近代美術館

1950年代末より写真家として活動を始めたベルント&ヒラ・ベッヒャーは、タイポロジーと呼ばれる手法を用いた。これが90年代に入って高い評価を受け、さらに彼らの薫陶を受けたアンドレアス・グルスキーら「ベッヒャー派」と呼ばれるデュッセルドルフ芸術アカデミー出身のアーティストたちが登場し、アートシーンを席卷した。一方、東西分断を象徴する街ベルリンに焦点を当てたミヒャエル・シュミット、精緻な実物大の紙製模型を撮影するトーマス・デマンド、ユース・カルチャーの表象をとらえてきたヴォルフガング・ティルマンスといったユニークな経歴と表現手法をもつ写真家たちの存在も無視することはできない。近年では、ロレッタ・ルクスらこれまで日本で紹介される機会の少なかった旧東ドイツ出身の新しい世代の台頭もめざましい。

本展では、ベッヒャーから現在にいたるまで10組11人のアーティストの作品を通して同時代のドイツ写真を見渡した。「現実とイメージのはざま」への新しい視座を示す彼らの仕事は、変容する現実に対するさまざまなアプローチを浮かび上がらせるものとなった。

刊行物 カタログ

制作物 作品リスト／作品ガイド
子ども向けリーフレット*

*教育普及事業の一環として、展覧会の内容を出品作品の画像とともに分かりやすく紹介し、ワークショップ等の募集案内も兼ねた子ども対象の印刷物を、本展より継続して制作・配布している。



入場者数 **7,547**人

関連企画

アーティスト・トーク

3月12日(日) 14時～
講 師 ハイディ・シュペッカー (本展
出品作家)
会 場 2階ミュージアムホール
*逐次通訳付
参加者数 95人

連続レクチャー

4月2日(日)、9日(日)、16日(日) 14時～
テ ー マ 「ドイツ写真の展開-『新しい写
真』からベツヒャーを経て現在
まで-」
講 師 中田耕市(本展担当学芸員)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 85人(3日間合計)

ゲスト・レクチャー

4月23日(日) 14時～
テ ー マ 「ドイツ写真の過去と現在」
講 師 増田玲(東京国立近代美術館主
任研究官)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 39人

キュレーターズ・トーク (担当学芸員による)

3月19日(日)、26日(日)、4月30日(日)、
5月7日(日) 14時～
参加者数 128人(4日間合計)

Kleiner Utrecht -ユトレヒトがえらぶドイツ写真関連本-

3月12日(日)～5月7日(日)
会 場 1階ミュージアムショップ
概 要 有名ブックショップ「ユトレヒ
ト」が厳選したドイツ写真関連
の書籍等を販売した。

MIMOCAオープンカフェ おいしいドイツ

5月3日(水・祝)～4日(木・祝) 12時～18時
会 場 1階ゲートプラザ
参加者数 1,071人(2日間合計)
概 要 本展および「日本におけるドイ
ツ2005/2006」を記念し、オープ
ン・ビアホールを開催した。

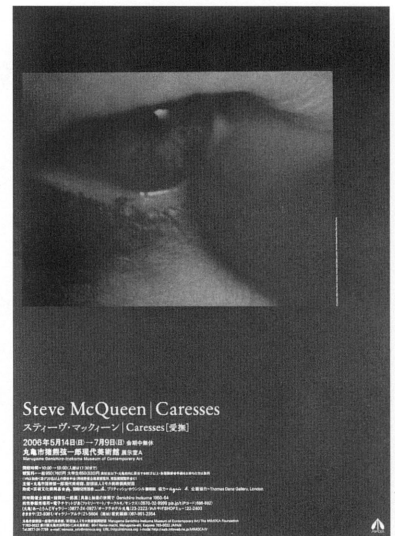
89 スティーヴ・マックイーン Caresses [愛撫]

会 期 2006年5月14日(日)～7月9日(日)
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
助 成 芸術文化振興基金、国際交流基金、ブリティッシュ・カウンシル
協 力 株式会社アニエスベーサンライズ
企画協力 Thomas Dane Gallery, London

スティーヴ・マックイーン (1969-) の日本では初めてとなる個展を開催した。マックイーンは1990年代初頭から映像作品を発表し始め、優れたアングル、独特の美しい映像や場面展開で鑑賞者の感情に訴えかける作品で高い評価を得ている。

本展では女優シャーロット・ランプリングの目を指でなぞるさまが繰り返し延々と映され、官能性と何かが起こりそうな緊張感が入り混じる《Charlotte》(2004)、ホイールをきらめかせながら川に沈んだ自転車を書した数枚のごくかすかに異なるスライドをフェードイン、アウトさせながら連続して映し出し、鑑賞者の時間の感覚をくるわせる《Current》(1999) の近作2点を出品した。

また、展覧会初日にはアーティスト・トークを行った。制作についての話のほかマックイーンの他の作品も参考として部分的に上映されるなど、作品と作家を知る良い機会となった。



撮影：山本糾

刊行物 カタログ
制作物 作品リスト、子ども向けリーフレット(「猪熊弦一郎展 具象と抽象の狭間で」と同内容)

関連企画

アーティスト・トーク

5月14日(日) 14時～
講 師 スティーヴ・マックイーン (本
展出品作家)
聞 き 手 植松由佳 (本展担当学芸員)
逐次通訳 尾池博子
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 132人

キュレーターズ・トーク (担当学芸員による)

5月21日(日)、28日(日)、
6月4日(日)、11日(日)、18日(日)、25日(日)、
7月2日(日)、9日(日) 14時～
参加者数 72人 (8日間合計)

入場者数 **4,930**人

90 須田悦弘展

会 期 2006年7月16日(日)～10月1日(日)
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
助 成 財団法人地域創造
協 賛 株式会社資生堂
協 力 ギャラリー小柳
認 定 社団法人メセナ協議会認定事業

本物の植物と見間違ふほどに精巧な木彫作品で注目を集め、国内で目覚ましい活躍を続ける須田悦弘(1969-)による個展。本展では須田が好んで用いてきたモチーフの中でも108点の雑草を主な出品作品とし、展示室Cの壁面沿いに展示することにより、建築家谷口吉生の設計による空間を作品に取り込むことに成功したといえる。それは一見すると何もないように見える展示室において、観覧者が能動的に作品を探し、それとともにこれまではあまり意識することのなかった展示室という空間を作品とともに再認識させられることにあった。雑草が木彫で制作されていたという須田に対する技術力と展示の妙、また空間の再発見など、観覧者から様々な感想が寄せられ、現代美術への関心を高める一因となった。

刊行物 カタログ
制作物 作品リスト
子ども向けリーフレット

関連企画

アーティスト・トーク

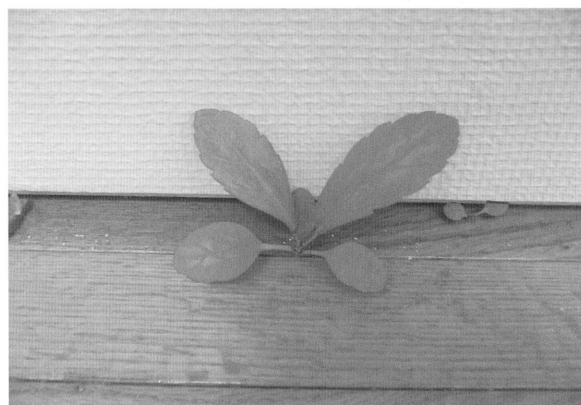
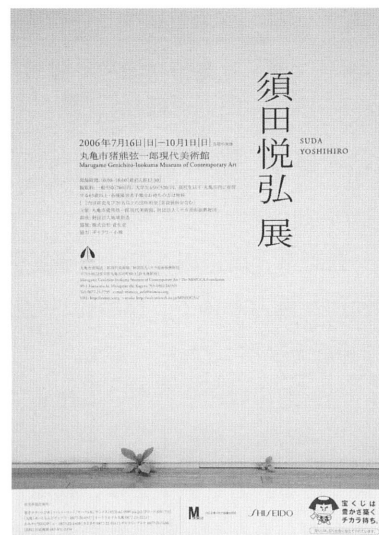
7月16日(日) 14時～15時30分
講 師 須田悦弘(本展出品作家)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 162人

キュレーターズ・トーク(担当学芸員による)

7月23日(日)、7月30日(日)、8月6日(日)、
13日(日)、20日(日)、27日(日)、9月3日(日)、
17日(日)、24日(日)、10月1日(日) 14時～
参加者数 210人(10日間合計)

須田悦弘による公開制作

8月12日(土)、9月10日(日) 10時～18時
会 場 3階展示室C
参加者数 743人(2日間合計)



入場者数 **14,229** 人

91 無言館—戦没画学生 いのちの叫び—

会 期 2006年10月8日(日)～12月17日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団、
四国新聞社

企画協力 戦没画学生慰霊美術館「無言館」

長野県上田にある戦没画学生慰霊美術館「無言館」の全面的な協力を得て、作品約120点と手紙などの遺品資料約230点を展示した。

無言館に収められている作品は、描き続けることを熱望しながらも戦争によってその願いを絶たれた画学生の生の証である。若き画学生は、戦地へと赴く自身の運命を見据えながらもなお、残された最後の瞬間まで命を懸けて制作を続けた。作品は瑞々しい輝きを放ち、故郷を愛で、家族の絆を大切に思う気持ちがあふれている一方、絵を描きたいという彼らのひたむきな情熱がほとばしっている。激しく心を揺さぶる作品の数々は、現代に生きる私たちにどのように生きるかを問いかけるものであった。

会期中、無言館館主の窪島誠一郎および画家、野見山暁治の講演会を行った。ともに無言館設立の経緯や意図、作品を通して何を感じてほしいかが聴講者に深く伝わる内容であり、それぞれ多くの聴講者を数えた。

制作物 作品リスト
子ども向けリーフレット



入場者数 17,090人

関連企画

講演会 1

10月8日(日) 14時～
テ ー マ 「無言館のこと」
講 師 窪島誠一郎(無言館々主)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 409人

キュレーターズ・トーク (担当学芸員による)

10月15日(日)、22日(日)、29日(日)、
11月5日(日)、12日(日)、19日(日)、26日(日)、
12月3日(日)、10日(日)、17日(日) 14時～
参加者数 165人(10日間合計)

講演会 2

11月23日(木・祝) 14時～
テ ー マ 「無言館に込めた思い」
講 師 野見山暁治(無言館顧問・画家)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 371人

開館記念日による観覧無料日

11月23日(木・祝)
入場者数 3,569人

作品リスト

No.	作家	出身	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横×高さcm)
1	飯塚孝之丞	東京	花		岩絵具・紙	108.0 × 81.5
2	池本清一郎	高知	二十(はたち)	1924	油彩・カンヴァス	45.6 × 38.2
3	池本清一郎	高知	自画像	1924	油彩・カンヴァス	41.0 × 32.0
4	伊澤洋	栃木	太平風景		油彩・板	24.0 × 33.0
5	市瀬文夫	長野	秋の朝	1930頃	油彩・カンヴァス	49.6 × 61.0
6	市瀬文夫	長野	無題		油彩・カンヴァス	90.0 × 131.5
7	市瀬文夫	長野	温室の前		油彩・カンヴァス	130.6 × 182.4
8	市瀬文夫	長野	裸婦		油彩・カンヴァス	116.0 × 91.0
9	市瀬文夫	長野	婦人像		油彩・カンヴァス	90.5 × 72.0
10	市瀬文夫	長野	妻の像		油彩・板	32.7 × 23.5
11	市瀬文夫	長野	習作		コンテ・紙	48.0 × 63.3
12	伊藤守正	東京	樹のある風景(入営前日に制作)		油彩・カンヴァス	53.5 × 45.5
13	伊藤守正	東京	奈良・高畑の道		油彩・カンヴァス	45.3 × 38.0
14	伊藤守正	東京	風景		油彩・板	45.7 × 38.2
15	伊藤守正	東京	仁王像		油彩・板	41.1 × 32.2
16	岩田良二	徳島	故郷風景(病床にて)	1947頃	水彩・紙	77.0 × 61.8
17	岩田良二	徳島	故郷風景(病床にて)	1947頃	水彩・紙	45.5 × 38.7
18	太田章	東京	妹・和子の像		紙本着色	165.5 × 127.0
19	太田章	東京	風景		紙本着色	76.5 × 105.0
20	太田章	東京	風景		岩絵具・紙	92.0 × 128.0
21	太田章	東京	横たわる婦人		水彩・紙	47.7 × 83.0
22	大竹武雄	東京	独活	1930	水彩・紙	45.5 × 67.0
23	大竹武雄	東京	菊	1930	水彩・紙	66.0 × 45.0
24	大西博	大阪	無題		紙本着色	75.7 × 89.5
25	岡田弘文	兵庫	風景・海		油彩・カンヴァス	38.0 × 45.0
26	岡田弘文	兵庫	風景・山		油彩・板	21.6 × 27.0
27	小柏太郎	東京	天女の像		ブロンズ	94.0 × 23.0 × 25.5
28	尾田龍馬	愛媛	自画像	1940	油彩・板	33.5 × 23.8
29	尾田龍馬	愛媛	宇和島の風景		油彩・カンヴァス	45.2 × 53.0
30	小野春男	京都	屏風絵「茄子」		紙本着色	88.5 × 146.9
31	片岡進	大分	自刻像(入営前日に制作)	1944	石膏	高さ42.3
32	片桐彰	長野	街		油彩・カンヴァス	65.5 × 53.0
33	片桐彰	長野	梢のある風景		油彩・カンヴァス	53.5 × 41.2
34	片桐彰	長野	風景(根羽)		油彩・カンヴァス	38.0 × 45.5
35	金子孝信	新潟	姉の像		岩絵具・紙	178.0 × 102.0
36	金子孝信	新潟	子供たち		岩絵具・紙	108.0 × 84.0
37	河口正喜	福岡	婦人像		油彩・カンヴァス	64.3 × 90.4
38	川崎雅	香川	無題		絹本着色	46.5 × 55.0
39	川崎雅	香川	屏風絵・無題		紙本着色	154.5 × 59.5(6点組)
40	川崎雅	香川	風景		岩絵具・紙	49.2 × 75.3

作品リスト

No.	作家	出身	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横×高さcm)
41	川崎雅	香川	馬		岩絵具・紙	44.5 × 57.0
42	北古賀一郎	佐賀	頭像		石膏	高さ32.8
43	久保克彦	山口	静物		水彩・紙	27.0 × 36.5
44	久保克彦	山口	自画像		水彩・紙	28.5 × 24.0
45	興柷武	千葉	編みものする婦人		油彩・カンヴァス	72.8 × 53.5
46	興柷武	千葉	日の丸のある風景		油彩・板	24.0 × 33.0
47	興柷武	千葉	港のある風景		油彩・板	24.0 × 33.0
48	駒田芳久	大阪	婦人像		油彩・カンヴァス	116.5 × 91.5
49	近藤隆定	長野	小諸ニテ烏帽子岳ヲ望ム	1939	水彩・紙	33.5 × 51.5
50	佐久間修	熊本	女性像		油彩・カンヴァス	58.0 × 68.3
51	佐藤孝	静岡	林の道		油彩・カンヴァス	60.1 × 45.5
52	佐藤孝	静岡	山の風景		油彩・カンヴァス	41.0 × 53.0
53	佐藤孝	静岡	風景		油彩・カンヴァス	33.3 × 45.4
54	佐藤孝	静岡	風景		油彩・厚紙	23.9 × 33.2
55	椎野修	福岡	島の道	1938	油彩・カンヴァス	32.0 × 41.0
56	椎野修	福岡	船小屋の茶店	1941	油彩・カンヴァス	22.0 × 27.5
57	椎野修	福岡	花		油彩・カンヴァス	27.0 × 21.8
58	椎野修	福岡	屋根裏	1941	油彩・板	24.3 × 29.3
59	庄司正	山形	雲り日		絹本着色	70.3 × 40.2
60	庄司正	山形	花Ⅱ(習作)		水彩・紙	66.5 × 45.4
61	庄司正	山形	花Ⅰ(習作)		水彩・紙	45.2 × 66.5
62	白澤龍生	長野	裸婦		油彩・カンヴァス	80.5 × 53.0
63	白澤龍生	長野	風景		油彩・カンヴァス	72.3 × 90.5
64	白澤龍生	長野	風景		油彩・カンヴァス	41.0 × 53.0
65	杉原基司	兵庫	神戸東壱ロード		油彩・カンヴァス	31.5 × 40.5
66	曾宮俊一	東京	風景		油彩・カンヴァス	45.2 × 60.0
67	曾宮俊一	東京	風景・山		油彩・カンヴァス	31.7 × 41.0
68	曾宮俊一	東京	風景		油彩・板	24.0 × 33.0
69	高橋助幹	茨城	静物	1944	油彩・板	33.3 × 24.4
70	高橋助幹	茨城	雪の降る建物		油彩・板	23.7 × 33.2
71	高橋良松	神奈川	風景		クレパス・紙	25.4 × 17.8
72	高橋良松	神奈川	風景		クレパス・紙	25.4 × 17.8
73	田中角治郎	大阪	女	1933	油彩・カンヴァス	45.8 × 38.5
74	田中角治郎	大阪	深江の浜	1938	油彩・カンヴァス	41.0 × 53.0
75	田中角治郎	大阪	女の顔		油彩・カンヴァス	45.5 × 38.0
76	手島守之輔	広島	吉名岬風景		油彩・カンヴァス	34.0 × 40.0
77	永江千秋	東京	奈良唐招提寺	1941	鉛筆・墨・紙	62.8 × 93.4
78	長岡義尚	台湾	自我像		油彩・カンヴァス	45.7 × 38.4
79	中川勝吉	愛媛	風景・道		油彩・カンヴァス	33.0 × 45.0
80	中野益夫	鹿児島	無題		油彩・カンヴァス	100.8 × 82.9

作品リスト

No.	作家	出身	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (縦×横×高さcm)
81	中村萬平	静岡	風景		油彩・板	31.5 × 40.9
82	西岡健児郎	高知	高知城		油彩・カンヴァス	33.0 × 24.0
83	西岡健児郎	高知	風景		油彩・板	24.2 × 33.4
84	西岡健児郎	高知	妻 (せつ)		油彩・板	33.3 × 24.2
85	西岡健児郎	高知	港湾風景		油彩・板	24.0 × 33.3
86	西岡健児郎	高知	花		油彩・板	24.0 × 33.3
87	西岡健児郎	高知	家		油彩・板	24.0 × 33.0
88	野末恒三	静岡	風景		油彩・カンヴァス	91.0 × 117.0
89	野末恒三	静岡	人物		油彩・カンヴァス	116.5 × 91.0
90	野末恒三	静岡	自画像		油彩・カンヴァス	44.7 × 37.7
91	芳賀準録	山形	風景		油彩・カンヴァス	50.4 × 60.8
92	浜田清治	千葉	小憩 (下図)	1939	木炭・紙	245.0 × 190.0
93	浜田清治	千葉	神津牧場		水彩・紙	28.4 × 37.2
94	原穰	香川	坂出風景		油彩・カンヴァス	53.0 × 72.7
95	原田新	山口	妹・千枝子の像		油彩・カンヴァス	72.7 × 53.0
96	原田新	山口	風景		油彩・カンヴァス	48.5 × 63.5
97	原田新	山口	裸婦		油彩・カンヴァス	78.5 × 51.3
98	原田新	山口	裸婦		油彩・カンヴァス	59.5 × 49.5
99	日高安典	鹿児島	六つの林檎		油彩・カンヴァス	14.7 × 55.0
100	日高安典	鹿児島	自画像		油彩・板	24.0 × 33.0
101	藤川武男	香川	あじさい		紙本着色	62.2 × 44.3
102	堀井正四	新潟	斜光	1943	油彩・カンヴァス	50.4 × 61.0
103	前田美千雄	兵庫	風景四月四日		水彩・紙	25.7 × 36.1
104	益田卯咲	東京	首里城風景		油彩・カンヴァス	45.7 × 53.0
105	松岡俊彦	兵庫	姉の像		油彩・カンヴァス	52.0 × 44.5
106	丸尾至	東京	釣人のいる風景		水彩・紙	29.3 × 37.5
107	丸尾至	東京	田園風景		色鉛筆・紙	25.0 × 34.0
108	丸尾至	東京	風景		色鉛筆・紙	25.0 × 34.0
109	丸尾至	東京	風景・民家		色鉛筆・紙	34.0 × 25.0
110	山之井龍朗	神奈川	少女		油彩・板	33.2 × 24.2
111	山之井俊朗	神奈川	人物		油彩・カンヴァス	91.2 × 72.5
112	山之井俊朗	神奈川	風景		油彩・板	32.7 × 24.0
113	山之井俊朗・龍朗	神奈川	少女		油彩・板	33.2 × 24.2
114	結城久	東京	自画像		油彩・カンヴァス	45.5 × 38.0
115	結城久	東京	婦人像		油彩・カンヴァス	45.5 × 38.0
116	結城久	東京	風景		油彩・カンヴァス	38.0 × 41.0
117	吉田二三男	福岡	風景・椎名町	1940-1941	油彩・板	23.3 × 33.0
118	吉田二三男	福岡	培風寮炊事場	1936	コンテ・紙	28.5 × 37.2
119	渡辺武	埼玉	人物		油彩・カンヴァス	100.0 × 80.5
120	渡辺武	埼玉	人々		油彩・カンヴァス	91.5 × 73.0
121	渡辺武	埼玉	自画像		油彩・カンヴァス	53.0 × 45.5

※制作年が空欄の箇所は、すべて制作年不明。

92 猪熊弦一郎展『いのくまさん』

会 期 2007年1月1日(月・祝)～4月15日(日)
展示替休室2月26日(月)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

詩人の谷川俊太郎による文章で、猪熊弦一郎の画業を紹介する絵本『いのくまさん』(小学館、2006)の内容に沿って作品を展示した展覧会。絵本に掲載されている作品とともに、明快でリズムカルな谷川の言葉を、カッティングシートで展示室の壁に大きく貼り出した。たった253文字の平仮名で綴られた文章のなかに、「顔」「鳥」「猫」といった代表的なモチーフから、「形」「色」といったテーマまで、一人の画家の全容が見事にあらわされており、言葉と一緒に展示室を巡ると、個々の作品を楽しみながらも猪熊ワールド全体を体感できる。モチーフやテーマに加え、作品のサイズも多岐に及び、メモ用紙に描かれた猫の絵から4メートルに及ぶ巨大な抽象画までが並ぶ様は、猪熊の多彩さを示すものともなった。

関連イベントとして、谷川俊太郎、賢作親子によるコンサートを展示室内で開催した。『いのくまさん』の文章に音楽が付けられて、作品の中で大合唱し大いに盛り上がった。

制作物 作品リスト
ぬりえ2種
子ども向けリーフレット



入場者数 14,486人

関連企画

記念講演会

3月21日(水・祝) 14時～16時
テ ー マ 「面白世紀に向けて」
講 師 福田繁雄(グラフィックデザイナー)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 165人

ファミリー・デイ

会期中の日曜日および祝日
入場者数 1,042人(521組)(19日間合計)
概 要 高校生以下1人につき、同伴者
1人が観覧無料。

ワークショップ

1月27日(土) 10時～12時
テ ー マ 「カタチ発見!かおワールド」
会 場 2階造形スタジオ、3階展示室C
参加者数 23人

ワークショップ

2月17日(土) 10時～12時
テ ー マ 「カメラでパチリ!不思議ハンター」
会 場 2階造形スタジオ、美術館周辺
参加者数 16人

キュレーターズトーク(展覧会担当及び教育普及担当学芸員による)

[子ども向け]
1月7日(日)、21日(日)、2月11日(日・祝)、
25日(日)、3月11日(日)、25日(日)、4月1日
(日)、15日(日) 14時～
[大人向け]
1月14日(日)、28日(日)、2月4日(日)、18日
(日)、3月4日(日)、18日(日)、4月8日(日)
14時～
参加者数 192人(15日間合計)

谷川俊太郎・谷川賢作コンサート「いのくまさんといっしょ」

2006年12月23日(土・祝) 14時～15時40分
出 演 谷川俊太郎、谷川賢作
会 場 3階展示室C
参加者数 312人

No.	作 品 名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横×高cm)	展示期間
1	顔2猫2鳥8	1991	アクリル・カンヴァス	91.0×73.0	
2	題名不明	1911 頃	鉛筆・紙	20.7×14.6	前
3	題名不明	1912 頃	鉛筆, 水彩・紙	13.5×21.0	前
4	題名不明	1912 頃	インク・紙	9.3×13.3	前
5	題名不明	1913 頃	インク・紙	20.1×13.6	前
6	題名不明	1913 頃	インク・紙	20.1×13.9	前
7	題名不明	1989	インク・紙	20.3×12.7	前
8	題名不明	1911 頃	インク・紙	20.7×14.5	後
9	題名不明	1911 頃	鉛筆・紙	22.5×14.7	後
10	題名不明	1911 頃	鉛筆・紙	20.7×16.6	後
11	題名不明	1912 頃	インク・紙	20.5×13.2	後
12	題名不明	1912 頃	鉛筆, 水彩・紙	13.8×21.0	後
13	題名不明	1992	鉛筆・紙	20.4×12.7	後
14	自画像	1921	油彩・カンヴァス	60.5×50.2	
15	自画像	1925	油彩・カンヴァス	37.8×37.8	
16	自画像	制作年不明	インク・紙	35.6×27.5	
17	自画像	1924	墨, パステル・紙	31.7×22.4	前
18	自画像	1924	墨, パステル・紙	31.8×22.4	前
19	自画像	制作年不明	インク・紙	35.6×27.5	前
20	自画像	1924	墨, パステル・紙	32.6×22.6	後
21	自画像	1924	墨・紙	32.2×22.6	後
22	自画像	1970	インク・紙	44.1×30.7	後
23	S君の像	1939	油彩・カンヴァス	81.5×65.3	
24	サクランボ	1939	油彩・カンヴァス	80.4×65.4	
25	顔青	1992	アクリル・カンヴァス	41.0×31.8	
26	顔バック緑	1992	アクリル・カンヴァス	41.1×31.8	
27	顔 ブルーの中	1992	アクリル・発砲スチロール	50.0×38.0	
28	題名不明	1992	アクリル・カンヴァス	45.6×38.0	
29	題名不明	1988	パステル・紙	40.7×32.1	前
30	題名不明	1989	パステル・紙	40.7×32.3	前
31	題名不明	1989	鉛筆・紙	15.1×10.2	前
32	題名不明	1992 頃	パステル・紙	40.6×32.3	前
33	題名不明	1989	鉛筆・紙	15.2×10.2	後
34	顔 35	1989	アクリル・カンヴァス	136.0×121.3	
35	Faces 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0	
36	顔 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0	
37	顔 15	1989	アクリル・カンヴァス	111.0× 96.5	
38	顔 11 (K)	1992	アクリル・カンヴァス	91.0×65.5	
39	題名不明	1988	アクリル・紙	40.6×32.0	前
40	題名不明	1992	鉛筆・紙	40.7×32.1	前
41	題名不明	1992	アクリル・紙	40.7×32.0	前
42	題名不明	1986	インク・紙	20.3×15.2	後
43	顔 25	1988	インク・紙	37.8×29.5	後
44	顔 9	1989	アクリル, 鉛筆・紙	40.7×32.0	後
45	題名不明	1992	アクリル・紙	40.6×32.0	後

No.	作 品 名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横×高cm)	展示期間
46	帰る 太陽のもとへ	1989	アクリル・紙	36.4×20.2	
47	題名不明	1986	インク・紙	20.3×15.2	前
48	題名不明	1990	インク,鉛筆・紙	40.7×32.0	前
49	草	1991	アクリル・紙	40.7×32.0	前
50	題名不明	1992	鉛筆,コンテ・紙	45.2×30.5	前
51	題名不明	1993	鉛筆・紙	12.7×20.3	前
52	鶏と鳥達	1993	鉛筆・紙	15.2×10.2	前
53	バードライブ	1986	アクリル,鉛筆,コラージュ・紙	40.7×31.5	後
54	合唱	1990	インク,鉛筆・紙	40.7×32.0	後
55	題名不明	1990	アクリル・紙	40.7×32.3	後
56	Love Birds	1991	アクリル・紙	40.7×32.0	後
57	題名不明	1991 頃	パステル・紙	40.5×32.3	後
58	題名不明	1992	アクリル・紙	40.5×32.0	後
59	題名不明	1993	アクリル,鉛筆・紙	20.3×12.7	後
60	題名不明	制作年不明	鉛筆・紙	12.7×20.3	後
61	猫達	1953	油彩・カンヴァス	45.5×53.3	
62	題名不明	1954	油彩・カンヴァス	72.4×90.5	
63	題名不明	1954 頃	油彩・カンヴァス	24.0×33.1	
64	題名不明	1985	インク・紙	11.8×10.5	前
65	題名不明	1985	インク・紙	11.8×10.5	前
66	題名不明	1985	インク・紙	11.8×10.6	前
67	題名不明	1985	インク・紙	11.8×10.5	前
68	題名不明	1985 頃	インク・紙	11.8×10.5	前
69	題名不明	1985 頃	インク・紙	11.8×10.5	前
70	題名不明	1987	インク・紙	10.2×15.2	前
71	題名不明	1989	インク・紙	20.3×12.5	前
72	題名不明	1989	パステル・紙	57.1×38.6	前
73	題名不明	制作年不明	インク・紙	27.8×35.5	前
74	題名不明	制作年不明	インク・紙	27.6×19.8	前
75	題名不明	1985	インク・紙	11.7×10.5	後
76	題名不明	1985	インク・紙	11.9×10.6	後
77	題名不明	1985	インク・紙	11.8×10.6	後
78	題名不明	1985	インク・紙	11.8×10.5	後
79	題名不明	1985	鉛筆・紙	15.3×10.2	後
80	題名不明	1985 頃	インク・紙	11.8×10.5	後
81	題名不明	1986 頃	パステル・紙	10.2×15.3	後
82	題名不明	1989	インク・紙	20.4×12.7	後
83	猫鳥家族	1990	インク・紙	25.1×17.9	後
84	題名不明	1992	アクリル,インク・紙	40.7×32.0	後
85	題名不明	制作年不明	インク・紙	27.4×39.0	後
86	題名不明	1954	ミクストメディア	5.0×12.3×13.5	
87	対話彫刻	制作年不明	ミクストメディア	サイズ可変	
88	道	1964	油彩・カンヴァス	157.8×91.5	
89	桃色の地図	1966	アクリル・カンヴァス	203.5×126.8	
90	The City (Green No.1)	1968	アクリル・カンヴァス	203.5×178.0	

No.	作 品 名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)	展示期間
91	驚く可き風景 (A)	1969	アクリル・カンヴァス	112.0×193.4	
92	Landscape	1971	アクリル・カンヴァス	127.3×101.8	
93	風景	1972	アクリル・カンヴァス	178.0×202.5	
94	ニューヨーク九十五丁目の矢じるし	1979	アクリル・カンヴァス	53.0×45.5	
95	自由の住む都市	1980	アクリル・カンヴァス	137.2×122.0	
96	宇宙は機械の運動場 No.1	1981	アクリル・カンヴァス	200.0×140.0	
97	スペース都市 C	1982	アクリル・カンヴァス	127.0×96.4	
98	星座からの返信	1983	アクリル・カンヴァス	136.0×121.5	
99	子供と発見	1984	アクリル・カンヴァス	121.5×101.0	
100	五月金曜日	1985	アクリル・カンヴァス	136.0×122.0	
101	明るい集落	1986	アクリル・カンヴァス	136.0×122.0	
102	金環食	1987	アクリル・カンヴァス	152.0×120.9	
103	宇宙都市休日	1991	アクリル・カンヴァス	400.9×250.5	
104	題名不明	1974	アクリル, 鉛筆・紙	30.4×23.5	前
105	都市誕生	1981	アクリル・紙	74.5×54.5(マット内寸)	前
106	緑の太陽と煙	1984	アクリル・紙	58.4×44.0(マット内寸)	前
107	題名不明	1991	アクリル, インク, コラージュ・紙	40.6×32.0	前
108	題名不明	1976	アクリル, インク・紙	30.3×23.6	後
109	安定する機械	1981	アクリル・紙	35.5×43.5(マット内寸)	後
110	面白い仲間	1982	アクリル・紙	59.4×44.4(マット内寸)	後
111	構造と遊び	1982	アクリル・紙	59.5×44.4	後
112	鳥達の隣人	1990	鉛筆・紙	29.7×22.8	前
113	題名不明	1991	鉛筆・紙	15.2×10.2	後
114	題名不明	1986	鉛筆・紙	15.3×10.2	
資料 1	猪熊弦一郎 《鳥の時代》		DVD	10分33秒	
資料 2	猪熊コレクション				

※展示期間:前=前期(2007.1.1～2.25)のみ展示、後=後期(2007.2.27～4.15)のみ展示。

93 奏でる身体

会 期 2007年4月22日(日)～6月24日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

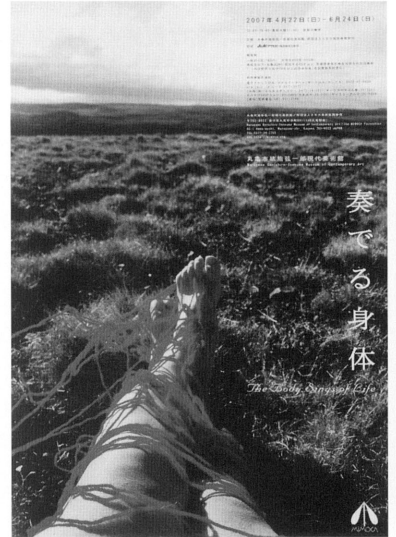
助 成 財団法人アサヒビール芸術文化財団

身体の造形的な魅力をとらえた作品を導入として示したうえで、他者の身体をあらわした作品では身体が存在するために必然的にもなされる誕生や、それと関連する生命と死についての思考をうながした。さらに作家が自らの身体を用いて、個人が社会に対してどのような関わりを持つとし、いかに存在するかを表明した作品を展示。他者と対話する主体としての身体を考えた。国内外の16人の作家による多岐にわたる表現技法の作品41点で構成された本展は、身体ひいては個人の可能性を探るものとなった。

また展覧会を多角的に楽しみ、深く理解する助けとするため、「音を聞く」、「踊る」といった内容のワークショップや公演など自分の身体に意識を向ける糸口となるような行事や、出品作家によるアーティストトークなどの各種関連行事を行った。

刊行物 カタログ

制作物 子ども向けリーフレット



入場者数 **6,228**人

関連企画

鈴木昭男 エコー・楽器 アナラボス演奏会

4月22日(日) 10時～10時30分
出 演 鈴木昭男(サウンドアーティスト)
会 場 1階ゲートプラザおよび2階
ミュージアムホール
参加者数 92人

キュレーターズ・トーク(担当学芸員による)

4月29日(日・祝)、5月6日(日)、13日(日)、
6月10日(日)、17日(日)、24日(日) 14時～
参加者数 63人(6日間合計)

ワークショップ

4月22日(日) 10時～16時
テ ー マ 「点音(おとだて) 2007 in 丸亀」
講 師 鈴木昭男
会 場 2階造形スタジオ、美術館周辺
参加者数 27人

ワークショップ

5月20日(日) ①14時～16時 ②17時～19時
テ ー マ 「近藤良平ワークショップ」
講 師 近藤良平(コンドルズ主宰、振付
家)
会 場 2階造形スタジオ
参加者数 ①29人 ②31人

ダンス公演 yummydance 少しお時間ください

5月27日(日) 16時30分～18時
出 演 yummydance(ヤミーダンス)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 101人

アーティスト・トーク

6月3日(日) 14時～16時
テ ー マ 「傷跡を撮りつづけて」
講 師 石内都(本展出品作家)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 104人

94 エルネスト・ネット展

- 会 期 2007年7月15日(日)~10月8日(月・祝)
- 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
- 後 援 ブラジル大使館
- 助 成 芸術文化振興基金、財団法人花王芸術・科学財団、財団法人地域創造
- 協 賛 オペロンテックス株式会社
- 協 力 ギャラリー小柳、小山登美夫ギャラリー、Galeria Fortes Vilaça, São Paulo

ブラジルを代表するアーティストの一人であり、国際的に活躍するエルネスト・ネット（1964-）の日本国内で初めてとなる大規模な個展を開催した。

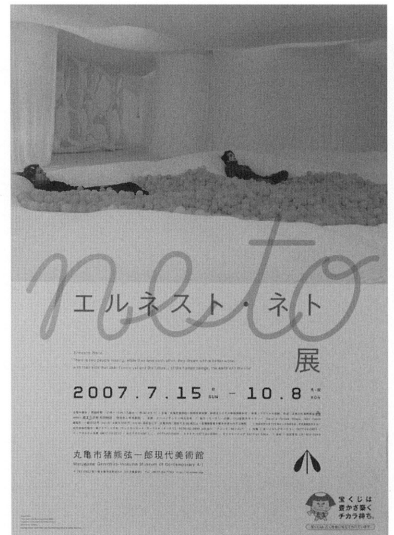
ネットは当館の展示空間に合わせて新しいインスタレーション作品を制作し、3階の展示室全体を使って展示を行った。布でつくられた巨大な空間は、母胎のように鑑賞者を包み込み、その作品の中に立ち入った鑑賞者が見るだけでなく、足の裏や手のひらや身体全体を使って触れ、音を鳴らし、匂いを嗅ぐといった「体感」を通して接することができる作品である。こういった作品との接触を通じて鑑賞者の身体や知覚への意識を喚起する展覧会となった。

また、本展では関連プログラムとして、アーティスト・トークや関連ワークショップ、ゲスト・レクチャーといった教育普及活動に加え、地域住民との協同作業による「参加型作品制作プログラム」など、地域との関わりを重視した多彩な催しを実施し、展覧会の多様な楽しみ方を提供するとともに、地域住民の主体的な参加を促した。

刊行物 カタログ

制作物 展示ガイド

子ども向けリーフレット



撮影：木奥恵三

入場者数 **28,108**人

関連企画

— 作品制作プログラム —

7月9日(月)、10日(火)、11日(水)
会 場 3階展示室C他
参加者数 19人(3日間合計)
概 要 本展出品作家とともに作品の制作・展示を体験した。

— アーティスト・トーク —

7月15日(日) 14時～16時
講 師 エルネスト・ネト
会 場 2階ミュージアムホール
*逐次通訳付
参加者数 183人

— ゲスト・レクチャー —

7月29日(日) 14時～16時
テ ー マ 「ネットから見えるブラジルの現代美術」
講 師 鈴木勝雄(東京国立近代美術館主任研究員)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 32人

— ファミリー・ウィーク —

8月1日(水)～8月7日(火)
入場者数 1,380人(7日間合計)
概 要 高校生以下1人につき、同伴者1人が観覧無料。

— ワークショップ —

8月1日(水)～7日(火)
①10時～12時 ②13時30分～15時30分
テ ー マ 「さわって たのしむ!—のびのびマイ・クッションをつくろう—」
会 場 2階造形スタジオ
参加者数 815人

— 真夏の夜の美術館 —

8月18日(土) 19時～22時
会 場 展示室及びカフェレストミモカ
参加者数 177人
概 要 展覧会とブラジル音楽、料理、飲み物を楽しむ一夜限りのプログラム。

— キュレーターズ・トーク(担当学芸員による) —

7月22日(日)、8月5日(日)、12日(日)、19日(日)、26日(日)、9月2日(日)、9日(日)、16日(日)、23日(日・祝)、30日(日)、10月7日(日)14時～
参加者数 168人(11日間合計)

95 マルレーネ・デュマス—ブローケン・ホワイト

- 会 期 2007年10月21日(日)～2008年1月20日(日)
- 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団、
読売新聞大阪本社、美術館連絡協議会
- 後 援 オランダ王国大使館
- 助 成 モンドリアン財団
- 協 賛 株式会社ワコール、ライオン、清水建設、大日本印刷、三菱商事
- 協 力 KLMオランダ航空、ギャラリー小柳
- 巡 回 先 2007年4月14日(土)～7月1日(日) 東京都現代美術館

本展は、世界的に最も注目を浴びているアーティストのひとり、マルレーネ・デュマスの国内では初めてとなる大規模な個展であり、東京都現代美術館との巡回展であった。

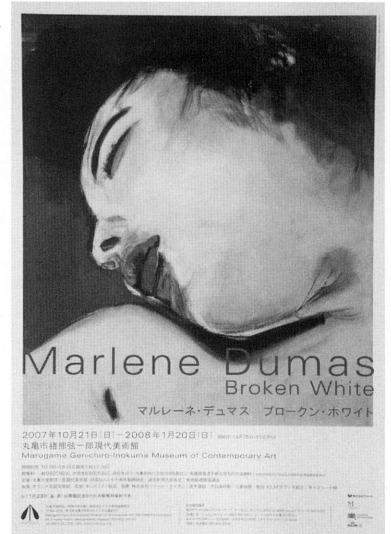
1953年に南アフリカのケープタウンに生まれたデュマスは、オランダに移住した後、1980年代前半からアーティストとしての活動をはじめた。その後、ベネチア・ビエンナーレやドクメンタなどの国際展で高い評価を得て、ポンピドゥー・センター（2002）やシカゴ美術館（2003）などで大規模な個展が開かれ、ニューヨーク近代美術館やテイト・モダン、ポンピドゥー・センターなど世界の主要な美術館に作品が収蔵されている。

モデルを使わずにマス・メディアに流通する写真や映像メディアから、彼女独特の繊細で鮮烈な人物像を創造する彼女の作品は、自身が育ったアパルトヘイト下での経験をベースに、差別や偏見、そして民族やセクシュアリティ、ジェンダー、生と死など、現代社会が抱える複雑で多様な問題が喚起される。

本展は、荒木経惟や月岡芳年といった日本の芸術家にインスパイアされた注目の新作であり展覧会のタイトルともなった作品《ブローケン・ホワイト》（2006）も含め、デュマスの魅力の全貌を伝えるものとなった。

刊行物 カタログ

制作物 子ども向けリーフレット



入場者数 **11,334**人

関連企画

— ビデオ・レクチャー —

10月21日(日) 14時～16時
講 師 ルドルフ・エーフェンハイス(本
ビデオ制作者)、ポール・アンド
リーセ (ギャラリスト)
会 場 2階ミュージアムホール
*逐次通訳付
参加者数 51人

— ゲスト・レクチャー —

12月2日(日) 14時～16時
テ ー マ 「マルレーネ・デュマス
ブローケン・ヒストリー」
講 師 林洋子(京都造形芸術大学准教
授、美術評論家)
会 場 2階ミュージアムホール
参加者数 58人

— キュレーターズ・トーク(担当学芸員による) —

10月28日(日)、11月4日(日)、11日(日)、18日
(日)、25日(日)、12月9日(日)、16日(日)、23
日(日・祝)、1月6日(日)、13日(日)、20日(日)
14時～
参加者数 132人(11日間合計)

— 開館記念日による観覧無料日 —

11月23日(金・祝)
入場者数 1,160人

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横×奥行きcm)	所蔵
1		Pマーク・モレナールの肖像	1984	油彩・カンヴァス	50×40×2	個人蔵
2		最後の晩餐	1985-1991	油彩・カンヴァス	160×200	個人蔵/デ・ボト財団寄託
3		人間三脚	1988	油彩・カンヴァス	180×90	ユトレヒト中央美術館
4		芸術とはヒキガエルの織りなす物語である	1988	油彩・カンヴァス	180×90	個人蔵
5		待ちながら (意味を求めて)	1988	油彩・カンヴァス	50×70	クンストハレ、キール
6		解放 (1945)	1990	油彩・カンヴァス	130×110	作家蔵
7		女	1992-93	墨、木炭・紙	96点 不詳	カールスルーエ市立ギャラリー、 リ、ガーナッツ・コレクション
8		グループ・ショー	1994	油彩・カンヴァス	100×300	ユトレヒト中央美術館
9		アンダーグラウンド	1994-95	ミクストメディア・紙	28点 各62×50	作家蔵
10		マダダレーナ	1995	油彩・カンヴァス	200.5×100.4×3	エイントホーフェン市立 ファン・アッペ美術館
11		酔っぱらい	1997	油彩・カンヴァス	200×100	デ・ブライネ=ハイン・コレクション
12		沼地から来た少女	1998	ミクストメディア・紙	125×46	
13		宇宙から来た少女	1998	ミクストメディア・紙	125×70	
14		マスクをつけた少女	1998	ミクストメディア・紙	125×70	
15		10インチ	1999	油彩・カンヴァス	50×40	個人蔵
16		レザーブーツ	2000	油彩・カンヴァス	200×100	作家蔵
17		バルベットのカーテン	2000	油彩・カンヴァス	200×100	
18		ピフォア・オア・アフター—革命	2002	墨・紙	230×90	
19		白鳥	2005	油彩・カンヴァス	110×130	
20		4本の花	2002	油彩・カンヴァス	30×40	個人蔵
21		2個の牡蛎	2002	油彩・カンヴァス	30×40	個人蔵
22		仮想 1	2002	油彩・カンヴァス	125×70	個人蔵
23		仮想 4	2003	油彩・カンヴァス	125×70	個人蔵
24		作家の死	2003	油彩・カンヴァス	40×50	ジョル・ファン・レーヴェン氏蔵
25		眠る少女	2003	ミクストメディア・紙	62×200	
26		黄色いタオル	2004	油彩・カンヴァス	200×100	個人蔵
27		我に触れるな	2004	油彩・カンヴァス	125×70	個人蔵
28		誰でもなく	2005	油彩・カンヴァス	70×50	ガーナッツ・コレクション
29		(ある女の) 骸骨	2005	油彩・カンヴァス	110×130	デ・ブライネ=ハイン・コレクション
30		隣人	2005	油彩・カンヴァス	100×90	アムステルダム市立美術館
31		似た者	2005	油彩・カンヴァス	130×110	個人蔵
32		マン・カインド	2006	油彩・カンヴァス	100×90	ユトレヒト中央美術館
33		乳児 (2)	2006	油彩・カンヴァス	130×110	
34		ブローケン・ホワイト	2006	油彩・カンヴァス	130×110	
45		男のヴィーナス	2006	油彩・カンヴァス	140×300	作家蔵
36		裸にされた男	2007	油彩・カンヴァス	140×300	作家蔵
37		小さなモロッコ人ストリッパー	1999	油彩・カンヴァス	30×24	
38	荒木経惟	無題 (写狂人大日記/95年11月7日)	1995	シルバー・ゼラチンプリント	46×56	作家蔵
39	月岡芳年	奥州安達がはらひとつ家の図	1985	多色木版	73.8×25.9	横浜美術館

※カタログ内の作品リストと出品作が異なる為掲載。作家名表記なきものはすべてマルレーネ・デュマス作。

96 猪熊弦一郎展 Confusion and Order [混乱と秩序]

会 期 2008年2月3日(日)～3月23日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

猪熊弦一郎の画業の特徴として、作風が何度も大きく変化したことがあげられるが、一方で、一貫して変わらなかった点もある。それは「バランス」の追求である。

猪熊は1955年に渡米、ニューヨークに暮らす。高層ビルが立ち並び人や車が行きかう大都会の様子は、雑然としていながら、なにか大きな秩序のようなものにしたがって動いているようにも見え、猪熊の目に美しく映った。この、都市の「Confusion and Order (混乱と秩序)」を描いた猪熊は、これこそが「バランス」を作り出すものであり、「美」の表現そのものであると考えるようになる。

本展は、ニューヨーク滞在10年を経た猪熊が、「混乱と秩序」という抽象概念を、短い線の集積で具体的な形象にあらわすことによってついに獲得した抽象表現を展観、1964年に国立近代美術館賞を受賞した東京国立近代美術館所蔵の《ENTRANCE(A)》(1964)をはじめ、猪熊芸術の根幹を成す作品群が一堂に並んだ。

刊行物 カタログ

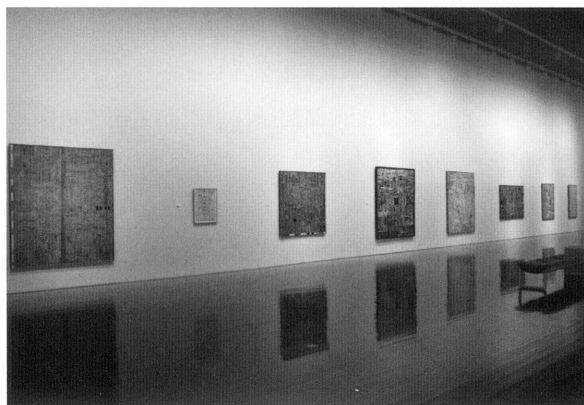
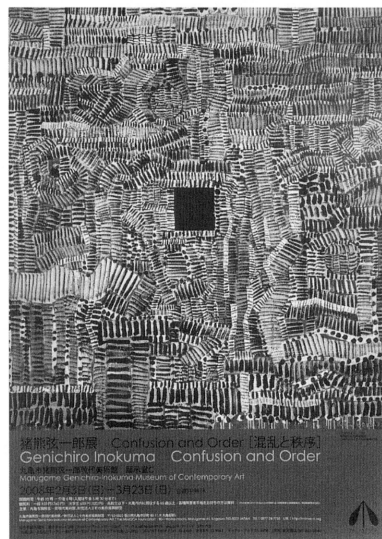
制作物 子ども向けワークシート

子ども向けリーフレット(「Focus 2 エイヤ=リーサ・アハテイラ展」と同内容)

関連企画

— キュレーターズ・トーク (担当学芸員による) —

2月10日(日)、17日(日)、24日(日)、3月2日(日)、9日(日)、16日(日)、23日(日) 14時～
参加者数 122人(7日間合計)



入場者数 **6,403**人

97 Focus 2 エイヤ＝リーサ・アハティラ展

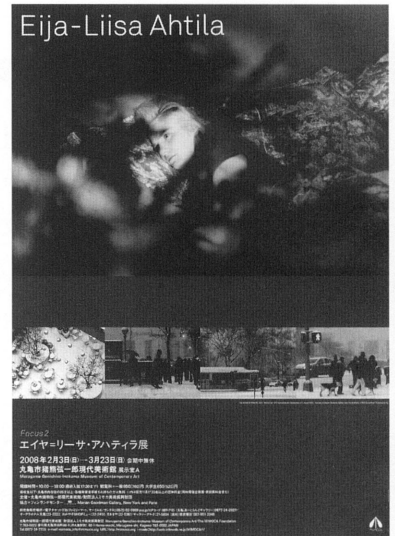
会 期 2008年2月3日(日)～3月23日(日)
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
協 力 フィンランドセンター、Marian Goodman Gallery, New York and Paris

国内外で活躍するアーティストの珠玉の作品を紹介する「Focus」シリーズの第2弾として開催。今回取り上げたのは、映画製作者また映像作家、写真家として世界を舞台に目覚しい活躍を続けているフィンランド人アーティスト、エイヤ＝リーサ・アハティラ(1959-)である。アハティラは法学を学んだ後、映画制作を学び、世界各国の美術館やギャラリーへと活動の場を広げた。近年ではテイト・モダンやフィンランド現代美術館での大規模な個展、ニューヨーク近代美術館(2006)での回顧展など世界各地での活躍が続いている。

アハティラは自らの作品を「ヒューマンドラマ」と称しており、そこには、人間関係に横たわる愛や嫉妬、怒り、和解といった強烈な感情やセクシュアリティ、コミュニケーションの難しさ、アイデンティティなどの諸問題を見出すことができ、なおかつ緻密なりサーチやアーティスト自身に起こった経験や記憶に基づいて描かれる点で高い物語性を有している。

2005年のベネチア・ビエンナーレで賞賛されたビデオ・インスタレーション《祈りのとき》(2005)、新作《漁師たち》(2007)の他、写真作品を展示。マルチ・スクリーンに映し出される出来事、また時間や風景のうつろいは、ドキュメンタリー要素と個人の経験を往来し、やがて鑑賞者もその展開に巻き込まれる様子がみられた。

制作物 子ども向けリーフレット(「猪熊弦一郎展 Confusion and Order[混沌と秩序]」と同内容)



関連企画

レクチャー

2月3日(日) 14時～16時
講 師 カティ・ヌオラ(作家スタジオ制作マネージャー)、サーラ・ユッホネン(クリスタル・アイ、作家アシスタント)
会 場 2階ミュージアムホール
* 逐次通訳付
参加者数 68人

キュレーターズ・トーク(担当学芸員による)

2月10日(日)、17日(日)、24日(日)、
3月2日(日)、9日(日)、16日(日)、23日(日)
14時～
参加者数 114人(7日間合計)

入場者数 **6,403**人

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	上映時間 / サイズ (縦×横cm)
1	祈りのとき	2005	DVDインストール	14分12秒
2	漁師たち／エチュードno.1	2007	DVDインストール	5分34秒
3	ゼノグラファーズ・マインドV	2002	Cプリント	2点組 各118.0×180.0(額寸)
4	ゼノグラファーズ・マインドVII	2002	Cプリント	2点組 各118.0×180.0(額寸)
5	ゼノグラファーズ・マインドVIII	2002	Cプリント	2点組 各118.0×180.0(額寸)

98 ノイエ・フォトグラフィー 1920-30年代のドイツ写真

会 期 2008年4月6日(日)～6月22日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

出品協力 東京国立近代美術館、東京都写真美術館、川崎市市民ミュージアム

1920年代。敗戦後の混乱と急激な変化の渦中から、〈ノイエ・フォトグラフィー〉と呼ばれる新たな写真の潮流が誕生した。機械時代の到来による社会の変化、知覚の変容と拡張の只中で、この時代の写真家たちはいかに現実をとらえ、写真と対峙したのだろうか。

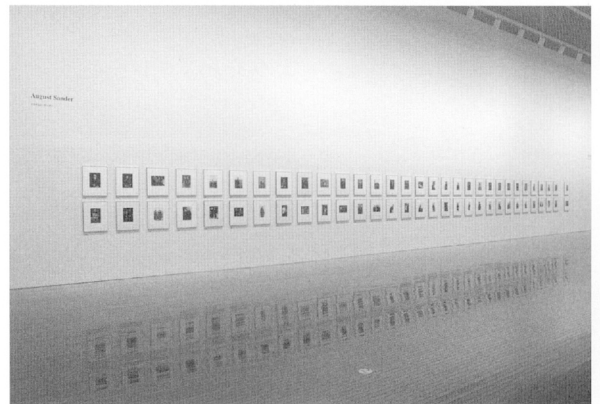
アウグスト・ザンダー（1876-1964）による記録性の高い肖像写真群やカール・ブロスフェルト（1865-1932）による植物の精緻な描写といった、カメラという機械の眼がつくり出す客観的、直截的な表現が推し進められる一方で、ラスロー・モホイ＝ナジ（1895-1946）は写真を「光の造形」ととらえ、実験的かつ先鋭的な作品を制作した。またカメラの小型化・軽量化は写真家の機動性を高め、情報伝達の新しいかたちの登場をも促している。このような写真家たちの多様な活動は、写真を絵画の模倣から解放し、新しい時代の知覚にとって重要な表現媒体として写真を再定義しようとした点で通底しており、彼らの試みは1920年代末から革新的な写真運動〈ノイエ・フォトグラフィー〉として世界的な拡がりをみせた。

本展では、この〈ノイエ・フォトグラフィー〉を代表する写真家11名を紹介し、作品170点を展観した。写真という新たな表現媒体を通して、彼らがいかに対象をとらえ、記録性と創造性のはざまを往還したのかを考えることは、現代美術における写真や映像表現を読み解く端緒となる可能性を秘めているといえるだろう。

刊行物 カタログ

制作物 展示ガイド

子ども向けリーフレット



関連企画

連続レクチャー

6月1日(日)、8日(日) 14時～

テーマ 「ノイエ・フォトグラフィーとは何か？」

講師 中田耕市(本展担当学芸員)

会場 2階ミュージアムホール

参加者数 70人(2日間合計)

キュレーターズ・トーク(担当学芸員による)

4月6日(日)、13日(日)、20日(日)、27日(日)、
5月4日(日・祝)、11日(日)、18日(日)、25日(日)、
6月15日(日)、22日(日) 14時～

参加者数 152人(10日間合計)

入場者数 6,821人

99 ピピロッティ・リスト：ゆうゆう

会 期 2008年7月13日(日)～10月13日(月・祝)
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
後 援 スイス大使館
助 成 スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団
協 力 四国旅客鉄道株式会社、一色事務所、Atelier Rist Sisters、
Hauser & Wirth Zürich London

国際的にめざましい活躍を続けるスイス人アーティスト、ピピロッティ・リスト(1962-)の個展。色彩あふれる豊かな創造性にみちた作品は、身体と精神、双方への探求が図られ、現代文化が持つ矛盾やタブーに切り込みながらも、詩的で諧謔精神に満ちている。

本展のメイン作品となった《倫敦の自由の女神》(2005/2008)は、大きなテント状のインスタレーションで、映像はテント内に設置された。作品中で朗読される詩が作家自身によって日本語で展示室の壁に書かれ、リストの作品世界が濃密に出現、その中で観客は重力に身をゆだね時空を超えた映像世界に全身で浸っていた。

関連プログラムとして、アーティスト・トークを行った。また、JR四国の電車内において「6000系はゆうゆう」を実施した。リストとトーマス・ライナーの考案により、車内の掲示物そっくりに作られたステッカーに、オリジナルをもじったり乗客に問いかけたりするような言葉が入れられ、期間中、実際に電車内に貼り出された。

制作物 展示ガイド
子ども向けリーフレット



PIPILOTTI RIST: YUYU
ピピロッティ・リスト：ゆうゆう

2008年7月13日(日)～10月13日(月・祝)開催
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
Marugame Genshiro-Inokuma Museum of Contemporary Art
2008年7月13日(日)～10月13日(月・祝)開催
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
Marugame Genshiro-Inokuma Museum of Contemporary Art



撮影：山本糾

入場者数 **14,634**人

関連企画

アーティスト・トーク

7月13日(日) 14時～
講 師 ピピロッティ・リスト
会 場 2階ミュージアムホール
*逐次通訳付
参加者数 111人

キュレーターズ・トーク (担当学芸員による)

7月20日(日)、27日(日)、8月3日(日)、10日(日)、17日(日)、24日(日)、31日(日)、9月7日(日)、14日(日)、21日(日)、28日(日)、10月5日(日)、12日(日) 14時～
参加者数 287人(13日間合計)

6000系はゆうゆう

7月26日(土)～10月13日(月・祝)
会 場 JR四国6000系車両 (3車両×2本)
概 要 香川県内を一日8往復するJR四国車両にピピロッティ・リストとトーマス・ライナー (デザイナー)の共同制作作品(ステッカー)を展示。

作品リスト

No.	作 品 名	制作年	素材・技法	所 蔵
1	ホワイ・アー・ユー・ゴーイング? (wet)	2003	ビデオ・インスタレーション	作家蔵
2	倫敦の自由の女神	2005/2008	オーディオ・ビデオ・インスタレーション	Goetz Collection, Munich
3	RWの墓石	2004	ビデオ・インスタレーション	作家蔵
4	ムタフロアー	1996	ビデオ・インスタレーション	作家蔵
5	ピエール I とピエール II	2008	ビデオ・スチル	作家蔵

100 時間の形

会 期 2008年10月26日(日)～2009年1月12日(月・祝)
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
助 成 芸術文化振興基金

時間を消え去るものではなく、たまっていくものと捉え、蓄積された時間を見るという観点のもと、絵画、彫刻、写真、音など、幅広い表現方法をとる7人の作家による20点の作品を展観した。出品作品はいずれも微かな成長や緩やかな崩壊、あるいは日常の積み重なりやそれを支える生命といった時間を感じさせるものであり、作品を通して周囲にはさまざまな時間が混沌と渦巻いていること、そのなかで自身もまた固有の時間を紡いでいることを提示した。

また出品作家が地域の学校を訪問し、子どもたちによる作品制作の授業を行った。多くの子どもにとって作家と接する初めての機会であり、その着眼点の鋭さと考察の深さに驚いていた。直接言葉を交わすことで親近感も湧いたようであり、後日来館した子どもたちは、訪問した作家の作品のみならず、展示作品全般や美術館に対して積極的な興味を示していた。

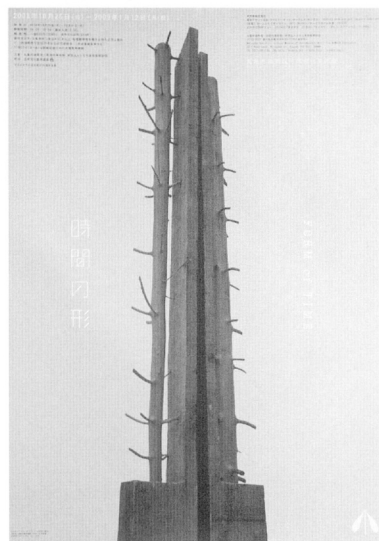
刊行物 カタログ
制作物 出品作家略歴
子ども向けリーフレット

関連企画

アーティストの学校訪問

10月27日(月) 9時～11時
丸亀市立広島小・中学校(全校)
※丸亀市立小手島小・中学校の生徒も参加
10月30日(木) 9時25分～12時15分
丸亀市立栗熊小学校(3年)
10月31日(金) 14時～14時50分
丸亀市立東中学校(3年6組)
講 師 秋山さやか(本展出品作家)
参加者数 77人(3日間合計)
概 要 本展出品作家の秋山さやかが市内の小・中学校を訪れ自作の説明と子どもたちによる作品制作の授業を行った。

入場者数 **7,405**人



撮影：長塚秀人

キュレーターズ・トーク(担当学芸員による)

10月26日(日)、11月2日(日)、9日(日)、16日(日)、23日(日・祝)、30日(日)、12月7日(日)、14日(日)、21日(日)、1月4日(日)、11日(日) 14時～
参加者数 87人(11日間合計)

開館記念日による観覧無料日

11月23日(日・祝)
入場者数 1,474人

101

猪熊弦一郎展 ○×○×

会 期 2009年1月18日(日)～4月5日(日)

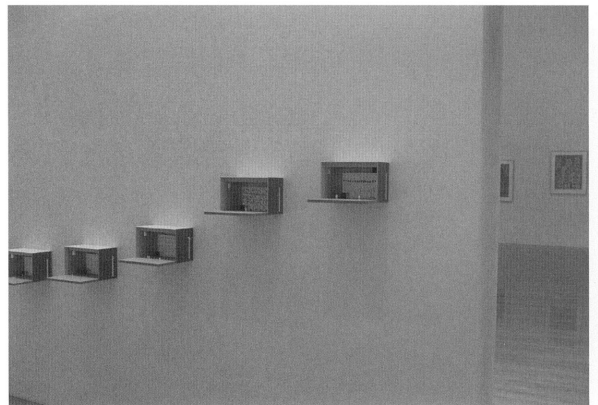
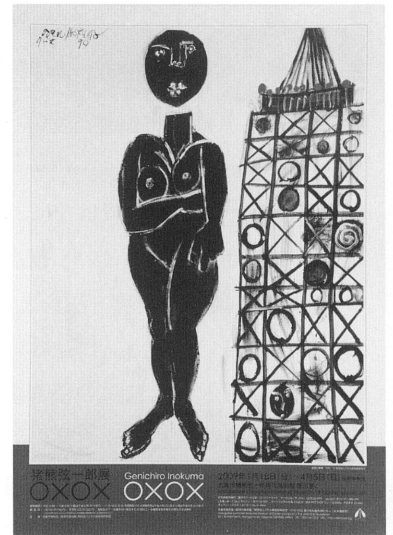
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

猪熊弦一郎の作品には、丸や四角、三角といった単純な幾何学形がよく用いられている。本展ではなかでも○と×に注目し、猪熊の抽象表現の魅力にせまった。

○と×の組み合わせは、1970年代の終わりごろから頻繁に使われている。この時期、宇宙への関心を高めていた猪熊は、宇宙都市をイメージした作品を多く描いた。そこではマス目に○や×を入れた図形によって機械の内部や建築物の骨組みのような描写がされている。それらは線描のため重さを感じさせず、無重力空間を行きかうロボットやロケットをも思わせる。

また、当美術館の建設当時の壁画案にも、○と×は印象的に使われている。幅20メートルを越す大きな壁一面に、○と×だけをいくつも並べた大胆な図案が何枚か残っている。猪熊は、小さな子どもでも簡単に描け、誰もが知っている身近な形としてこの2つを選び、一方でこの単純な形だけを用いて独自の美を創造することで、画家の仕事、すなわち芸術の象徴としようと考えたのである。

本展では、○と×を用いて宇宙や機械、建築などを描写した作品を中心に紹介。加えて、幻の○×壁画案を100分の1の建築模型に設置し並べて展示した。



刊行物 カタログ

制作物 子ども向けリーフレット (「MIMOCA'S EYE vol.2 小金沢健人展 動物的」と同内容)

関連企画

キュレーターズ・トーク (担当学芸員による)

1月25日(日)、2月8日(日)、22日(日)、
3月8日(日)、22日(日)、4月5日(日)
14時～

参加者数 70人(6日間合計)

入場者数 **6,931**人

102

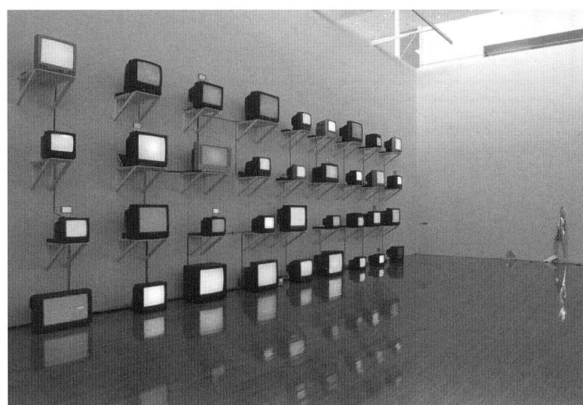
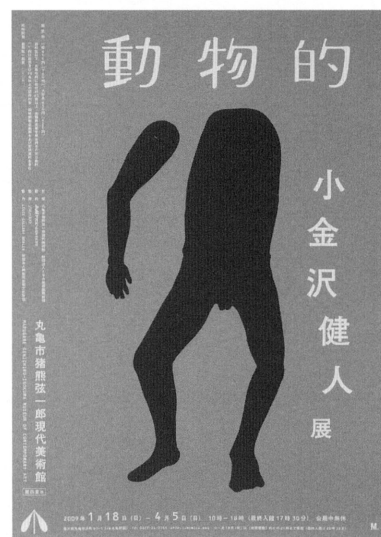
MIMOCA'S EYE vol.2 小金沢健人展 動物的

- 会 期 2009年1月18日(日)～4月5日(日)
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
助 成 アサヒビール芸術文化財団
協 賛 株式会社資生堂
協 力 Look Gallery Berlin、財団法人神奈川芸術文化財団
認 定 社団法人企業メセナ協議会

猪熊弦一郎が当館の使命として掲げていた「若手作家の育成」を受け継ぎ、新進気鋭のアーティストを紹介する展覧会シリーズ「MIMOCA'S EYE」の第2回展として、小金沢健人を紹介した。1974年、東京に生まれた小金沢は映像を学んだ後、ドイツ・ベルリンに拠点を移し、その独特の映像表現がヨーロッパ、アメリカを中心に高い評価を獲得。その後、彼の表現媒体はドローイング、パフォーマンス、インスタレーションといった領域へと拡がり、また近年ではブラジルやインドなど各地で滞在制作・発表を行うなど、多彩で複合的な作品群とその旺盛な制作活動によって大きな注目を集めている。

本展に際し、小金沢健人は約1ヶ月間丸亀市内に滞在し、制作に取り組んでいる。その結果、地域住民より募ったテレビを用いたインスタレーションや市内で撮影した映像作品など、滞在制作から生み出された作品を中心に構成され、「動物的」というタイトルのもと、当館の建築空間を活かして展示された。身のまわりにあるものを素材として用いながら、予想外の数や動き、音などと組み合わせることで、そこに潜む謎やずれ、美しさやおかしみを現前させる作品は相互に響き合い重層的なリズムを奏でており、次々と新たな表現手法に挑戦する小金沢健人の現在の姿と今後の新たな展開を予感させるものとなった。

また、本展ではオープン・アトリエやボランティア・プログラムなど、地域住民を主な対象とした参加型の様々なプログラムを実施し、アーティストとの交流の場を提供した。



- 刊行物 カタログ
制作物 作品リスト、子ども向けリーフレット(「猪熊弦一郎展 ○×○×」と同内容)

入場者数 **6,931**人

関連企画

中古テレビ回収プログラム

引取期間 2008年12月1日(月)～2009年1月12日(月・祝)
引取台数 約50台
概要 出品作品の素材となる中古テレビの提供を丸亀市民および来館者から募った。

オープン・アトリエ

1月4日(日)～1月6日(火)
14時～18時
会場 2階造形スタジオ
参加者数 68人(3日間合計)
概要 小金沢健人の制作現場を公開。

ワークショップ：トリカエル

1月10日(土) 10時～16時30分
講師 小金沢健人
会場 2階造形スタジオ
対象 小学生～一般
参加者数 16人

展示制作プログラム

1月15日(木)、16日(金) 10時～17時
対象 18才以上(高校生不可)
参加者数 3人(2日間合計)
概要 小金沢健人とともに新作インスタレーション作品の制作・展示設営を体験するプログラム。

夜間開館

1月18日(日) 18時～21時
会場 展示室、ミュージアムショップ、カフェレスト MIMOCA など全館
概要 小金沢健人展のオープンを記念して、開館時間を延長した。

キュレーターズ・トーク(担当学芸員による)

1月18日(日)、2月1日(日)、15日(日)、
3月1日(日)、15日(日)、29日(日) 14時～
参加者数 143人(6日間合計)

制作アシスタント(ボランティア)

2008年12月16日(火)、19日(金)、24日(水)、
2009年1月8日(木)、9日(金)、14日(水)、15日(木)、16日(金)、17日(土)
概要 滞在制作中の小金沢健人の作品制作補助を行う登録ボランティアを募集した。

II

展覧会事業

iii

常設展

「猪熊弦一郎展」

屋外と室内 2005年3月13日(日)～7月3日(日)

猪熊の美校時代から渡仏時代、すなわち20歳代前半から30代歳後半にかけての具象作品より、展示室Aでは渡仏前に描いた日本の風景および滞仏中に描いた外国の風景作品を、展示室Bでは室内に人物をおいた作品を紹介した。

作品リスト

No.	作 品 名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	雪の道	1923頃	油彩・板	45.5 × 45.6
2	自画像	1925	油彩・カンヴァス	37.8 × 37.8
3	風景第三作	1925頃	油彩・カンヴァス	52.8 × 65.0
4	天主堂(長崎)	1931	油彩・カンヴァス	53.0 × 45.5
5	雪の四谷見付	1933	油彩・カンヴァス	50.0 × 72.7
6	題名不明	1934	油彩・カンヴァス	50.3 × 61.0
7	海と女	1935	油彩・カンヴァス	180.1 × 288.7
8	犬吠風景	1935頃	油彩・カンヴァス	38.0 × 45.5
9	題名不明	1938頃	油彩・カンヴァス	64.5 × 80.0
10	ヴェニス	1939	油彩・カンヴァス	59.0 × 91.0
11	モンマルトル裏街	1939	油彩・カンヴァス	64.1 × 81.1
12	シミチエ モンパルナス	1939	油彩・カンヴァス	54.1 × 72.1
13	ホテルクロマニヨン	1939	油彩・カンヴァス	50.0 × 61.0
14	レゼジーの駅	1939	油彩・カンヴァス	48.6 × 59.8
15	レゼジーの農家(ドルドーニュ)	1939	油彩・カンヴァス	45.7 × 54.8
16	題名不明	1939頃	油彩・カンヴァス	38.0 × 54.6
17	題名不明	1939頃	油彩・カンヴァス	45.1 × 37.6
18	屋根の上 Paris	1940	油彩・カンヴァス	60.0 × 72.5
19	駒場時代(林)	制作年不明	油彩・カンヴァス	49.9 × 60.5

作品リスト

No.	作 品 名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室B				
20	コンポジション	1930	油彩・カンヴァス	181.7 × 257.0
21	着物の婦人	1930	油彩・カンヴァス	145.5 × 112.0
22	横臥裸婦	1930頃	油彩・カンヴァス	112.0 × 145.3
23	二人	1931	油彩・カンヴァス	160.1 × 129.2
24	画室	1932	油彩・カンヴァス	181.8 × 257.2
25	座像	1933	油彩・カンヴァス	145.5 × 112.5
26	ピアノの前	1934	油彩・カンヴァス	180.0 × 290.0
27	二人	1936	油彩・カンヴァス	194.0 × 130.0

入場者数 **10,801**人

ニューヨーク、建築、MIMOCA (ミモカ) 2005年7月10日(日)～10月2日(日)

猪熊がニューヨークという都市に影響を受けて制作した作品、建築に対する熱い思いが表現された作品から、ニューヨークと建築、そしてミモカの3つの繋がりを考察した。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	自画像	1924	油彩・カンヴァス	38.3 × 38.0
2	道	1964	油彩・カンヴァス	157.8 × 91.5
3	Lively Street	1964	油彩・カンヴァス	152.6 × 127.5
4	並木道	1964	油彩・カンヴァス	152.5 × 101.5
5	City Planning (B)	1964	油彩・カンヴァス	106.6 × 76.3
6	Entrance No.2	1966	アクリル・カンヴァス	152.5 × 127.0
7	Manhattan “B”	1967	アクリル・カンヴァス	203.7 × 152.6
8	City Green Light	1967	アクリル・カンヴァス	152.7 × 127.3
9	The City (Green No.2)	1968	アクリル・カンヴァス	203.0 × 178.0
10	Two Shores A	1970	アクリル・カンヴァス	203.3 × 178.0
11	Landscape	1971	アクリル・カンヴァス	127.3 × 101.8
展示室B				
12	自由の住む都市	1980	アクリル・カンヴァス	137.2 × 122.0
13	遊泳する窓	1984	アクリル・カンヴァス	194.0 × 290.6
14	窓と星座	1985	アクリル・カンヴァス	194.0 × 258.8
15	都市重力	1987	アクリル・カンヴァス	127.0 × 96.3
16	建築と裸婦	1990	アクリル・カンヴァス	126.5 × 96.0
17	宇宙都市休日	1991	アクリル・カンヴァス	400.9 × 250.5
18	手の残した言葉	1991	アクリル・カンヴァス	389.0 × 259.0

入場者数 **16,622**人

テーマの変化 2005年10月9日(日)～2006年1月9日(月・祝)

猪熊作品のテーマは、文子夫人を主とした女性像、猫、都市、宇宙、顔、カガシが挙げられ、年を追うごとに変わっていった。本展では、これらテーマの変化を追いながら猪熊の全画業を通覧した。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	自画像	1921	油彩・カンヴァス	60.5 × 50.2
2	青衣	1930	油彩・カンヴァス	71.3 × 49.5
3	籐椅子の女	1935	油彩・カンヴァス	145.6 × 112.5
4	フランス田舎	1938	油彩・カンヴァス	80.2 × 65.0
5	広場の子供達	1938	油彩・カンヴァス	54.6 × 37.6
6	顔	1939	油彩・カンヴァス	26.6 × 22.2
7	ハンガリーの少女	1939	油彩・カンヴァス	46.3 × 26.6
8	ネクタイのある少女	1939	油彩・カンヴァス	45.5 × 38.0
9	白いリボン	1939	油彩・カンヴァス	40.9 × 32.0
10	裸婦とセロイスト	1939	油彩・カンヴァス	32.7 × 19.1
11	レゼジエの少年	1939	油彩・カンヴァス	27.4 × 22.1
12	題名不明	1939頃	油彩・カンヴァス	91.0 × 60.6
13	顔 ピンク	1940	油彩・カンヴァス	41.1 × 33.0
14	顔 (ブラウン)	1940	油彩・カンヴァス	41.0 × 33.0
15	題名不明	1938-1940頃	油彩・カンヴァス	60.8 × 38.0
16	黄色いスカートの婦人	1946	油彩・カンヴァス	80.5 × 64.5
17	青い服	1949	油彩・カンヴァス	79.0 × 64.5
18	二人の子供	1950	油彩・カンヴァス	73.0 × 61.0
19	題名不明	1946-50頃	油彩・カンヴァス	64.6 × 50.1
20	猫と子供	1951	油彩・カンヴァス	92.0 × 65.5
21	猫達	1953	油彩・カンヴァス	45.5 × 53.3
22	題名不明	1954頃	油彩・カンヴァス	24.0 × 33.2
23	子供と猫	1955	油彩・カンヴァス	45.3 × 38.0
展示室B				
24	Haniwa 1	1956	油彩・カンヴァス	106.4 × 175.5
25	Shizukana Fukei	1956	油彩・カンヴァス	157.2 × 91.2
26	都市配分	1966	油彩・カンヴァス	194.0 × 112.4
27	風景	1972	アクリル・カンヴァス	178.0 × 202.5
28	地図でない地図 (C)	1978	アクリル・カンヴァス	122.0 × 86.7
29	Carnival	1979	アクリル・カンヴァス	40.4 × 30.5
30	No.1 星からの手紙 (ラブ)	1983	アクリル・カンヴァス	200.0 × 250.2
31	色体の原点	1985	アクリル・カンヴァス	112.2 × 96.0
32	白の言葉	1986	アクリル・カンヴァス	122.0 × 101.0
33	原始鳥と機械	1987	アクリル・カンヴァス	193.5 × 259.0
34	Faces 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0 × 194.0
35	カガシと鳥達	1993	アクリル・カンヴァス	110.7 × 91.0

「角」「丸」・・・「顔」 2006年1月15日(日)～3月5日(日)

展示室Aには1970年代後半の「角」と「丸」をテーマに抽象形態を描いた作品群を、展示室Bには晩年に描いた「顔」を抽象形態として捉えマス目に入れて並べたシリーズを展示し、両者に共通する表現を展観した。

作品リスト

No.	作 品 名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	自画像	1970	インク・紙	44.1 × 30.7
2	ピンク・丸・角	1977	アクリル・カンヴァス	110.3 × 95.0 (額内寸)
3	丸と仲間	1977	アクリル・紙	73.9 × 54.6 (マット内寸)
4	丸と角EX	1977	アクリル・紙	73.8 × 55.0 (マット内寸)
5	青い角白い丸	1977	アクリル・紙	73.8 × 54.4 (マット内寸)
6	二つのスペース	1977	アクリル・紙	71.8 × 55.6 (マット内寸)
7	飛び行く力	1978	アクリル・カンヴァス	136.3 × 122.0
8	透明なる都市	1978	アクリル・カンヴァス	136.0 × 122.2
9	地図でない地図 (E)	1978	アクリル・カンヴァス	111.8 × 96.5
10	Four Lives B	1978	アクリル・カンヴァス	38.0 × 30.5
11	四つの生きた丸	1978	アクリル・紙	74.7 × 54.8 (マット内寸)
12	二つの橋 "Four Spaces"	1978	アクリル・紙	74.2 × 54.6 (マット内寸)
13	丸の中の角	1978	アクリル・紙	72.3 × 56.3 (マット内寸)
14	花嫁のスケジュール	1979	アクリル・カンヴァス	180.0 × 105.2
15	ニューヨーク九十五丁目の矢じるし	1979	アクリル・カンヴァス	53.0 × 45.5
16	呼吸の中の大都市	1979	アクリル・紙	44.5 × 29.5 (額内寸)
17	黄色スケジュールA	1980	アクリル・紙	75.7 × 54.7 (マット内寸)
18	15の世界	1984	アクリル・紙	57.9 × 44.0 (マット内寸)
19	美しき隣人	1984	アクリル・紙	57.9 × 44.0 (マット内寸)
展示室B				
20	顔 35	1988	アクリル・カンヴァス	121.5 × 101.5
21	顔 23 (B)	1988	アクリル・カンヴァス	100.0 × 80.5
22	顔 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0 × 194.0
23	Faces 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0 × 194.0
24	顔 31	1989	アクリル・カンヴァス	194.0 × 194.0
25	顔 20 C	1989	アクリル・カンヴァス	152.0 × 121.4
26	顔 35	1989	アクリル・カンヴァス	136.0 × 121.3
27	顔 10 (B)	1989	アクリル・カンヴァス	130.3 × 97.1
28	顔 19	1989	アクリル・カンヴァス	127.0 × 96.4
29	顔 20	1989	アクリル・カンヴァス	127.0 × 96.3
30	顔 22	1989	アクリル・カンヴァス	121.2 × 101.5
31	顔 24	1989	アクリル・カンヴァス	111.0 × 96.5
32	顔 15	1989	アクリル・カンヴァス	111.0 × 96.5
33	顔達の祭日	1992	アクリル・カンヴァス	194.0 × 259.0

入場者数 **3,837** 人

ハワイ時代 2006年3月12日(日)～5月7日(日)

1970年代後半より、猪熊は一年のうち寒い季節をハワイで制作するようになり、その環境は作品にも影響を与えた。本展では、有機的で自由な形が画面を浮遊する、明るく開放的なハワイ時代の作品を紹介した。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	自画像	1924	油彩・カンヴァス	41.1 × 41.5
2	Rainbow Z	1976	アクリル・カンヴァス	111.0 × 96.0
3	紫の場所	1977	アクリル・カンヴァス	110.3 × 95.2 (額内寸)
4	白の道	1977	アクリル・カンヴァス	110.2 × 95.2 (額内寸)
5	ユーラシヤの愛人達	1981	アクリル・カンヴァス	111.5 × 96.0
6	ピンク色の星座	1981	アクリル・カンヴァス	111.5 × 96.0
7	垂直に飛ぶ	1981	アクリル・カンヴァス	111.5 × 96.0
8	黒の中に住む褐色の世界	1981	アクリル・カンヴァス	111.5 × 96.0
9	宇宙生物の限界	1982	アクリル・カンヴァス	116.7 × 91.0
10	語りかける人々	1982	アクリル・カンヴァス	91.0 × 72.7
11	創生期の花達	1983	アクリル・カンヴァス	91.0 × 126.0
12	隈取りを重ねた思わぬ形体	1983	アクリル・カンヴァス	116.5 × 91.0
13	ノーチラス (オーム貝) の感性	1984	アクリル・カンヴァス	121.5 × 101.0
14	星座B	1985	アクリル・カンヴァス	111.0 × 96.0
15	星座 (A)	1985	アクリル・カンヴァス	100.0 × 80.3
展示室B				
16	Rainbow Z1	1976	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.4
17	地図でない地図	1978	アクリル・カンヴァス	194.0 × 182.0
18	ターゲット達と三角	1979	アクリル・カンヴァス	136.5 × 122.5
19	夜を飛ぶ	1980	アクリル・カンヴァス	137.0 × 122.3
20	宇宙は機械の運動場 No.2	1981	アクリル・カンヴァス	200.0 × 250.0
21	窓	1984	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.3
22	アンテナと生物	1985	アクリル・カンヴァス	162.0 × 130.6
23	銀河の門 No.2	1986	アクリル・カンヴァス	136.0 × 122.0
24	太陽と原始鳥	1988	アクリル・カンヴァス	194.0 × 259.0

入場者数 **7,771**人

戸外の景色や人々を描く 2006年5月14日(日)～7月9日(日)

美校在学中から渡仏時代までの作品より、戸外の風景や人物を描いた具象作品を紹介。東京で描いた風景にも、どこか西洋への憧れが見え隠れしており、その後のパリで描いた作品との対比も面白いものとなった。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室B				
1	少年	1922	油彩・カンヴァス	116.6 × 91.0
2	常子像	1923	油彩・カンヴァス	45.5 × 45.5
3	自画像	1925	油彩・カンヴァス	37.8 × 37.8
4	天主堂(長崎)	1931	油彩・カンヴァス	53.0 × 45.5
5	小豆島オリーブ園	1934	油彩・カンヴァス	50.3 × 61.0
6	海と女	1935	油彩・カンヴァス	180.1 × 288.7
7	海と裸婦	1935頃	油彩・カンヴァス	45.3 × 37.8
8	コスチューム立像	1936	油彩・カンヴァス	72.5 × 52.7
9	にんにく売る子供	1938	油彩・カンヴァス	91.5 × 53.4
10	モロッコタピスリー売る男	1938	油彩・カンヴァス	91.0 × 71.4
11	三人娘と自転車	1938	油彩・カンヴァス	73.0 × 60.0
12	自動車の中の家族	1938	油彩・カンヴァス	73.0 × 60.0
13	ジプシーの子供達	1938	油彩・カンヴァス	61.2 × 38.1
14	アンブレラの女	1938	油彩・カンヴァス	54.6 × 45.5
15	魚と女	1939	油彩・カンヴァス	91.5 × 53.4
16	ヴェニス	1939	油彩・カンヴァス	59.0 × 91.0
17	ジプシーの子供	1939	油彩・カンヴァス	80.5 × 60.0
18	サクランボ	1939	油彩・カンヴァス	80.4 × 65.4
19	娘と葉	1940	油彩・カンヴァス	80.5 × 54.0

入場者数 **4,977**人

街 2006年7月16日(日)～10月1日(日)

「街」は猪熊が1955年から1973年まで滞在したニューヨークで得たテーマである。ニューヨークで制作した作品に加え、その後日本やハワイで「都市」や「集落」をテーマに描いたものまで、猪熊による街の表現を探った。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	自画像	1921	油彩・カンヴァス	53.5 × 45.5
2	丸の集落	1977	アクリル・カンヴァス	115.9 × 89.8
3	地図でない地図 (C)	1978	アクリル・カンヴァス	122.0 × 86.7
4	地図でない地図 (E)	1978	アクリル・カンヴァス	111.8 × 96.5
5	都市の中の親しい仲間	1979	アクリル・カンヴァス	96.5 × 125.4
6	カーニバルの夜	1979	アクリル・カンヴァス	110.4 × 95.5
7	星都市	1980	アクリル・カンヴァス	111.8 × 96.6
8	宇宙都市計画	1981	アクリル・カンヴァス	121.5 × 136.0
9	スペース都市C	1982	アクリル・カンヴァス	127.0 × 96.4
10	スペース都市B	1982	アクリル・カンヴァス	122.0 × 101.5
11	明るい集落	1986	アクリル・カンヴァス	136.0 × 122.0
12	黄色の隣区	1986	アクリル・カンヴァス	111.5 × 96.0
13	宇宙都市計画	1987	アクリル・カンヴァス	135.8 × 121.0
展示室B				
14	Two Shores B	1970	アクリル・カンヴァス	203.7 × 178.0
15	Two Shores D	1970	アクリル・カンヴァス	203.7 × 177.8
16	Two Shores A	1970	アクリル・カンヴァス	203.3 × 178.0
17	Water Shores A	1970	アクリル・カンヴァス	203.3 × 178.0
18	Two Shores (Yellow)	1970	アクリル・カンヴァス	203.0 × 178.0
19	Water Shores B	1970	アクリル・カンヴァス	203.0 × 178.0
20	Landscape DW	1972	アクリル・カンヴァス	203.6 × 178.0
21	Landscape EV	1972	アクリル・カンヴァス	203.0 × 178.0

入場者数 **14,719**人

作風の変化 2006年10月8日(日)～12月22日(金)

70年に及ぶ画業の中で、猪熊の作風は幾度も同一人物が描いたとは思えないような大きな変化を見せた。本展では時代を追って作品を展示、作風の変化とともに、常に新しい表現を求め挑戦し続けた画家の人生の軌跡を紹介した。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	雪の道	1923頃	油彩・板	45.5 × 45.6
2	自画像	1924	油彩・カンヴァス	41.1 × 41.5
3	裸婦	1925	油彩・カンヴァス	100.0 × 80.5
4	眠れる女	1927	油彩・カンヴァス	116.8 × 90.9
5	コンポジション	1930	油彩・カンヴァス	181.7 × 257.0
6	着物の婦人	1930	油彩・カンヴァス	145.5 × 112.0
7	座像	1933	油彩・カンヴァス	145.5 × 112.5
8	赤い服の少女	1938	油彩・カンヴァス	45.5 × 38.0
9	ホテルクロマニヨン	1939	油彩・カンヴァス	50.0 × 61.0
10	セロを弾く男	1939	油彩・カンヴァス	60.8 × 45.7
11	マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	81.2 × 65.4
12	長江埠の子供達	1941	油彩・カンヴァス	130.5 × 194.0
13	着衣 バレリーナ	1946	油彩・カンヴァス	72.0 × 60.0
14	箱の中の小猫	1949	油彩・カンヴァス	80.5 × 65.0
15	婦人と猫	1949	油彩・カンヴァス	80.0 × 64.1
16	青い服	1949	油彩・カンヴァス	79.0 × 64.5
展示室B				
17	星座	1958	油彩・カンヴァス	200.5 × 180.0
18	Landscape QR	1966	油彩・カンヴァス	126.8 × 127.1
19	The City Blue No.2	1968	アクリル・カンヴァス	203.0 × 178.5
20	The City (Green No.2)	1968	アクリル・カンヴァス	203.0 × 178.0
21	Rainbow Z1	1976	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.4
22	角と丸 BX	1977	アクリル・カンヴァス	190.0 × 175.0
23	アンテナと生物	1985	アクリル・カンヴァス	162.0 × 130.6
24	通信衛星	1986	アクリル・カンヴァス	194.0 × 259.0
25	顔 43 (B)	1989	アクリル・カンヴァス	116.7 × 91.0
26	鳥とヴィナス	1990	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.3
27	風車と鳥	1993	アクリル・カンヴァス	137.0 × 122.0

入場者数 **17,619**人

いのくまさんは たのしいな 2007年1月1日(月・祝)～4月15日(日)

絵本『いのくまさん』*にちなんだ常設展。常識にとらわれず描いた猪熊の作品のなかでも奇妙な形や不思議な生物などが描かれたものを紹介し、絵本を締めくくる一文「いのくまさんは たのしいな」が感じられるものとした。

*小学館発行 絵／猪熊弦一郎 文／谷川俊太郎 構成／杉浦範茂

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	自画像	1921	油彩・カンヴァス	53.5 × 45.5
2	顔	1937頃	油彩・板	33.0 × 23.9
3	にんにく売る子供	1938	油彩・カンヴァス	91.5 × 53.4
4	モロッコ タピスリー売る男	1938	油彩・カンヴァス	91.0 × 71.4
5	顔	1938	油彩・カンヴァス	41.0 × 33.0
6	緑の顔	1938	油彩・カンヴァス	40.1 × 31.6
7	妻と手袋	1939	油彩・カンヴァス	80.8 × 60.0
8	ヴィナス誕生 (B)	1940	油彩・カンヴァス	80.5 × 64.0
9	壺と婦人座像	1950	油彩・カンヴァス	80.0 × 65.0
10	かつら	1951	油彩・カンヴァス	72.5 × 60.7
11	頭上猫	1952	油彩・カンヴァス	45.5 × 37.8
12	婦人像	1980	アクリル・カンヴァス	72.0 × 60.0
13	生物都市	1985	アクリル・紙	105.0 × 74.8 (額内寸)
14	顔 14	1988	アクリル・カンヴァス	127.0 × 96.5
15	ヴィナス二人	1990	アクリル・カンヴァス	130.4 × 98.0
16	顔・猫	1991	アクリル・カンヴァス	91.0 × 72.8
17	顔達の祭日	1992	アクリル・カンヴァス	194.0 × 259.0
18	理想プロジェクト	1992	アクリル・カンヴァス	121.0 × 101.5
展示室B				
19	座せる群像	1951	油彩・カンヴァス	131.2 × 162.5
20	座せる二人	1951	油彩・カンヴァス	91.8 × 65.1
21	猫によせる歌	1952	油彩・カンヴァス	181.5 × 259.0
22	Confusion and Order "A"	1964	油彩・カンヴァス	203.1 × 177.8
23	動物園の住民達	1984	アクリル・カンヴァス	111.0 × 96.1
24	三つの言葉	1989	アクリル・カンヴァス	194.0 × 258.8
25	二つのヴィナス	1989	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.3
26	二人の裸婦ファンタジア	1989	アクリル・カンヴァス	121.5 × 101.5
27	裸婦三・顔八・鳥四	1990	アクリル・カンヴァス	101.0 × 121.0
28	飛ぶ	1990	アクリル・カンヴァス	110.5 × 96.0
29	ドラマティック ステージ	1991	アクリル・カンヴァス	96.0 × 111.0

入場者数 **14,599** 人



2007年4月22日(日)～7月8日(日)

猪熊の作品中には、幾何学形な形がよく見受けられ、特に、丸、三角、四角といったシンプルな図形が目立つ。これらは抽象形態としても具象のなかの一部としても用いられている。本展では●▲■を描いた作品を紹介した。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	自画像	1924	油彩・カンヴァス	38.3 × 38.0
2	ロボット	1977	アクリル・紙	72.2 × 55.0 (マット内寸)
3	地下へのモニュメント	1979	アクリル・紙	29.5 × 44.5 (額内寸)
4	都市発芽	1980	アクリル・紙	110.8 × 94.9 (額内寸)
5	二つのスペース	1980	アクリル・紙	54.0 × 34.0 (マット内寸)
6	丸の連帯世界 (A)	1980	アクリル・紙	36.0 × 52.0 (マット内寸)
7	丸の連帯世界 (B)	1980	アクリル・紙	36.0 × 52.0 (マット内寸)
8	モニュメンタルな窓	1981	アクリル・紙	61.0 × 44.0 (マット内寸)
9	Seven Windows	1981	アクリル・紙	61.0 × 44.0 (マット内寸)
10	自由都市	1981	アクリル・紙	59.5 × 44.4 (マット内寸)
11	角集合	1981	アクリル・紙	58.5 × 44.0 (マット内寸)
12	違った対面	1982	アクリル・紙	44.0 × 59.0 (マット内寸)
13	Hands Blue フィンガー ブルー	1982	アクリル・紙	44.5 × 36.0 (マット内寸)
14	緑色のコラーージュ	1983	アクリル・紙	44.1 × 36.5 (マット内寸)
15	丸と三角	1984	アクリル・紙	56.0 × 74.9 (マット内寸)
16	花とプロペラ	1985	アクリル・紙	44.0 × 59.5 (マット内寸)
17	プロペラと花	1985	アクリル・紙	46.9 × 58.4 (マット内寸)
18	二人	1986	アクリル・紙	58.5 × 44.0 (マット内寸)
19	三人裸婦	1986	アクリル・紙	54.5 × 42.4 (マット内寸)
展示室B				
20	Entrance No.2	1966	アクリル・カンヴァス	152.5 × 127.0
21	City Green Light	1967	アクリル・カンヴァス	152.7 × 127.3
22	Landscape Green A	1976	アクリル・カンヴァス	136.8 × 120.2
23	ピンク・丸・角	1977	アクリル・カンヴァス	110.3 × 95.0 (額内寸)
24	ターゲット達と三角	1979	アクリル・カンヴァス	136.5 × 122.5
25	Special Delivery	1980	アクリル・カンヴァス	122.0 × 101.5
26	明るい遊歩	1983	アクリル・カンヴァス	136.0 × 121.5
27	鳥と遊ぶ	1990	アクリル・カンヴァス	152.0 × 182.0
28	裸婦達と屋根の上の鳥	1990	アクリル・カンヴァス	136.0 × 121.5
29	建築と裸婦	1990	アクリル・カンヴァス	126.5 × 96.0
30	ロボット 顔 鳥	1990	アクリル・カンヴァス	96.0 × 110.8
31	カガシの夢	1993	アクリル・カンヴァス	121.0 × 101.5

入場者数 **7,114**人

妻を描く 2007年7月15日(日)～10月14日(日)

猪熊は妻の文字をモデルに多くの作品を描いている。70年に及ぶ画業の中で猪熊の作風は幾度か大きな変化を見せるが、それに伴い描かれた妻の姿も様々に変容している。本展では妻の肖像および彼女を思わせる女性像を紹介した。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	題名不明	1923頃	油彩・カンヴァス	60.8 × 50.0
2	自画像	1924	油彩・カンヴァス	41.1 × 41.5
3	青衣	1930	油彩・カンヴァス	71.3 × 49.5
4	パレットを持つ女	1931	油彩・カンヴァス	90.8 × 65.3
5	題名不明 (猫を抱く女)	1933	油彩・カンヴァス	41.2 × 27.5
6	題名不明	1933頃	油彩・カンヴァス	100.1 × 80.8
7	ピアノの前	1934	油彩・カンヴァス	180.0 × 290.0
8	海と女	1935	油彩・カンヴァス	180.1 × 288.7
9	籐椅子の女	1935	油彩・カンヴァス	145.6 × 112.5
10	支那服の女	1936	油彩・カンヴァス	145.0 × 112.0
11	Foumiko	1944	油彩・板	40.7 × 31.5
12	金婚式	1977	アクリル・紙	17.7 × 12.6
13	Face 1 フミ Birthday	1986	アクリル・紙	75.0 × 55.0 (マット内寸)
14	婦人像	制作年不明	油彩・カンヴァス	91.0 × 73.0
展示室B				
15	妻と手袋	1939	油彩・カンヴァス	80.8 × 60.0
16	黄色いスカートの婦人	1946	油彩・カンヴァス	80.5 × 64.5
17	箱の中の小猫	1949	油彩・カンヴァス	80.5 × 65.0
18	婦人と猫	1949	油彩・カンヴァス	80.0 × 64.1
19	青い服	1949	油彩・カンヴァス	79.0 × 64.5
20	妻と赤い服	1950	油彩・カンヴァス	116.5 × 91.0
21	顔 47	1988	アクリル・カンヴァス	121.6 × 101.5
22	顔 19	1988	アクリル・カンヴァス	121.4 × 101.6
23	顔 43	1988	アクリル・カンヴァス	121.4 × 101.5
24	顔 10 (B)	1989	アクリル・カンヴァス	130.3 × 97.1
25	黒い裸子と馬	1991	アクリル・カンヴァス	111.5 × 96.0
26	緑の中の美しき顔	1992	アクリル・カンヴァス	110.0 × 96.0
27	題名不明	1992	アクリル・カンヴァス	53.0 × 45.5
28	顔青	1992	アクリル・カンヴァス	41.0 × 31.8
29	裸子と鳥	1993	アクリル・カンヴァス	137.0 × 121.9

入場者数 **28,841** 人

猪熊弦一郎作品大集合 2007年10月21日(日)～2008年1月27日(日)

猪熊の作品は、具象から抽象、その区別を超えたものへと驚くほど変化し続けた。青年期の自画像を始めとして最晩年の作品までを一同に集め、猪熊絵画の奥深さが堪能できるものとした。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	自画像	1921	油彩・カンヴァス	53.5 × 45.5
2	習作(美術学校時代)	1925頃	油彩・カンヴァス	53.0 × 45.0
3	婦人像	1926	油彩・カンヴァス	116.8 × 91.0
4	眠れる女	1927	油彩・カンヴァス	116.8 × 90.9
5	二人	1931	油彩・カンヴァス	160.1 × 129.2
6	マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	81.2 × 65.4
7	行く	1940	油彩・カンヴァス	72.0 × 59.0
8	題名不明	1940頃	油彩・カンヴァス	80.7 × 60.0
9	着衣バレリーナ	1946	油彩・カンヴァス	72.0 × 60.0
10	裸婦と猫	1949	油彩・カンヴァス	72.6 × 61.0
11	妻と赤い服	1950	油彩・カンヴァス	116.5 × 91.0
12	立てる群像	1951	油彩・カンヴァス	131.5 × 162.4
13	猫と食卓	1952	油彩・カンヴァス	73.0 × 61.0
14	からす	1953	油彩・カンヴァス	130.0 × 194.0
15	馬と道化	1955	油彩・カンヴァス	117.0 × 91.0
16	駒場時代(林)	制作年不明	油彩・カンヴァス	49.9 × 60.5
展示室B				
17	極地設定(1)	1958	油彩・カンヴァス	176.5 × 205.3
18	The City Planning (D)	1964	アクリル・カンヴァス	127.4 × 102.0
19	The City Planning Yellow (No.2)	1968	アクリル・カンヴァス	203.4 × 152.7
20	Landscape GT	1972	アクリル・カンヴァス	203.0 × 178.5
21	地図でない地図	1978	アクリル・カンヴァス	194.0 × 182.0
22	ハイウェイパトロール	1983	アクリル・カンヴァス	151.0 × 121.5
23	基地着陸	1986	アクリル・カンヴァス	96.0 × 127.0
24	金環食	1987	アクリル・カンヴァス	152.0 × 120.9
25	清潔なる庭	1987	アクリル・カンヴァス	111.0 × 96.5
26	顔15	1988	アクリル・カンヴァス	101.6 × 96.6
27	夜と顔	1990	アクリル・カンヴァス	121.3 × 101.0
28	夜明けの鳥達	1993	アクリル・カンヴァス	126.2 × 90.9

入場者数 **12,247** 人

色いろいろ 2008年2月3日(日)～3月23日(日)

色彩においても対比を重視した猪熊は斬新で目を奪う色の組み合わせをさまざまに試み、その魅力を一層引き出そうとした。晩年の作品を中心に、明るく鮮やかな色彩の美しさが発揮された作品を紹介した。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室B				
1	自画像	1921	油彩・カンヴァス	60.5 × 50.2
2	座像	1933	油彩・カンヴァス	145.5 × 112.5
3	顔	1938	油彩・カンヴァス	41.0 × 33.0
4	臥裸婦	1948	油彩・カンヴァス	65.5 × 80.4
5	Agaru	1961	油彩・カンヴァス	157.8 × 91.5
6	創生期の花達	1983	アクリル・カンヴァス	91.0 × 126.0
7	宇宙胚胎	1984	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.4
8	エネルギーの原点	1984	アクリル・カンヴァス	121.5 × 136.7
9	創成期の生物達	1985	アクリル・カンヴァス	101.0 × 121.0
10	都市呼吸	1985	アクリル・カンヴァス	101.0 × 121.0
11	ポートレイトの会話	1988	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.0
12	横臥裸子1 顔4 鳥10	1991	アクリル・カンヴァス	127.0 × 96.0
13	横臥裸子と鳥達	1991	アクリル・カンヴァス	96.0 × 127.0
14	真昼のカーニヴァル	1992	アクリル・カンヴァス	121.0 × 101.5
15	都市祭日	1992	アクリル・カンヴァス	116.8 × 91.0
16	顔バック緑	1992	アクリル・カンヴァス	41.1 × 31.8

入場者数 **6,545**人

ニューヨーク時代 2008年4月6日(日)～7月6日(日)

渡米をきっかけに猪熊は抽象画を描くようになったが、およそ20年間の滞米中も、その表現は少しずつ変化している。展示室BではNY時代前半の動きやリズムの感じられる作品を、展示室AではNY時代後半の直線を多用し都市をイメージして描いた作品を紹介した。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	自画像	1924	油彩・カンヴァス	38.3 × 38.0
2	都市配分	1966	油彩・カンヴァス	194.0 × 112.4
3	Landscape ZA	1968	アクリル・板	16.8 × 17.8
4	Landscape BZ	1970	アクリル・板	19.0 × 12.7
5	Landscape WD	1971	アクリル・板	17.8 × 12.7
6	Landscape NM	1971	アクリル・紙	101.3 × 75.8 (額内寸)
7	Landscape QJ	1971	アクリル・紙	101.2 × 75.8 (額内寸)
8	Landscape AP	1971	アクリル・紙	101.0 × 75.5 (額内寸)
9	City Composition	1971	アクリル・紙	100.9 × 75.5 (額内寸)
10	Landscape	1972	アクリル・カンヴァス	126.4 × 101.5
11	Landscape MO	1973	アクリル・紙	101.0 × 75.6 (額内寸)
12	Landscape KF	1973	アクリル・紙	101.0 × 75.5
13	Landscape JG	1973	アクリル・紙	100.4 × 75.3 (額内寸)
14	メトロポリスE. C.	1975	アクリル・カンヴァス	52.0 × 44.5
15	Rainbow Z1	1976	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.4
16	Rainbow Z2	1976	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.3
17	Landscape Green A	1976	アクリル・カンヴァス	136.8 × 120.2
展示室B				
18	古い金へのあこがれ	1961	油彩・カンヴァス	216.1 × 168.0
19	獅子舞	1961	油彩・カンヴァス	203.0 × 183.0
20	音のあそび	1961	油彩・カンヴァス	152.5 × 152.5
21	Circulation of Space	1961	油彩・カンヴァス	152.0 × 101.0
22	Festival in the Night	1961	油彩・カンヴァス	127.0 × 107.0
23	Yagibushi	1962	油彩・カンヴァス	203.5 × 172.8
24	Birth of Gray	1962	油彩・カンヴァス	203.2 × 127.1
25	Twist	1962	油彩・カンヴァス	157.2 × 91.5
26	月へのいざない	1962	油彩・カンヴァス	152.7 × 109.3
27	MIZU	1962	油彩・カンヴァス	152.5 × 127.3
28	地殻の春	1962	油彩・カンヴァス	152.0 × 127.5
29	太陽の日	1962	油彩・カンヴァス	127.0 × 102.0
30	四角と丸	1963	油彩・カンヴァス	203.4 × 127.0

入場者数 **7,734**人

宇宙と生物 2008年7月13日(日)～10月19日(日)

宇宙を描いた作品と生物を描いた作品を取り上げた。定まった形が無い宇宙と、定形を思い浮かべやすい生物のいずれも自由な発想で描いており、常に新しい驚きを作品に求めた猪熊の豊かな創造性を示した。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	自画像	1924	油彩・カンヴァス	38.3 × 38.0
2	ピンク色の星座	1981	アクリル・カンヴァス	111.5 × 96.0
3	星座からの返信	1983	アクリル・カンヴァス	136.0 × 121.5
4	星に生きているスペース	1983	アクリル・カンヴァス	136.0 × 121.5
5	空中発芽	1983	アクリル・カンヴァス	126.2 × 96.0
6	角の星座 No.1	1984	アクリル・カンヴァス	136.5 × 122.5
7	発芽時代	1985	アクリル・カンヴァス	90.5 × 126.0
8	都市発芽	1985	アクリル・カンヴァス	111.0 × 96.0
9	違った星座の仲間	1986	アクリル・カンヴァス	182.0 × 152.0
10	星と目	1986	アクリル・カンヴァス	153.0 × 122.0
11	星座の会話	1986	アクリル・カンヴァス	136.0 × 122.0
12	部屋と惑星	1986	アクリル・カンヴァス	127.2 × 96.0
13	太陽は待って居る	1987	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.3
展示室B				
14	ヘリコプターと犬	1984	アクリル・カンヴァス	91.5 × 76.3
15	爬虫類とテレビ	1987	アクリル・カンヴァス	136.0 × 121.0
16	星の中の一羽の鳥	1987	アクリル・カンヴァス	136.0 × 121.0
17	太陽と原始鳥	1988	アクリル・カンヴァス	194.0 × 259.0
18	顔 31	1989	アクリル・カンヴァス	194.0 × 194.0
19	裸婦達と屋根の上の鳥	1990	アクリル・カンヴァス	136.0 × 121.5
20	5鳥・13顔	1990	アクリル・カンヴァス	121.5 × 101.0
21	顔、犬、鳥、	1991	アクリル・カンヴァス	194.0 × 259.0
22	裸子2 顔6 手2 鳥1	1991	アクリル・カンヴァス	136.0 × 122.0
23	飛ぶ日のよろこび	1993	アクリル・カンヴァス	137.3 × 122.1
24	顔・鳥・犬	1993	アクリル・カンヴァス	126.5 × 95.9

入場者数 **15,641**人

回顧展 2008年10月26日(日)～2009年1月12日(月・祝)

展示室Aでは美校在学中にはじまり、帝展、新制作派協会結成、戦前のパリと戦後すぐの日本で描いた具象表現を、展示室Bでは渡米後の抽象表現からハワイを経て晩年の顔や鳥、さらには最晩年のカガシのモチーフまで、70年に及ぶ猪熊の画業を回顧した。

作品リスト

No.	作 品 名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	少年	1922	油彩・カンヴァス	116.6 × 91.0
2	自画像	1924	油彩・カンヴァス	41.1 × 41.5
3	婦人像	1926	油彩・カンヴァス	116.8 × 91.0
4	画室	1932	油彩・カンヴァス	181.8 × 257.2
5	海と女	1935	油彩・カンヴァス	180.1 × 288.7
6	三人娘と自転車	1938	油彩・カンヴァス	73.0 × 60.0
7	ジプシーの子供	1939	油彩・カンヴァス	80.5 × 60.0
8	ホテルクロマニヨン	1939	油彩・カンヴァス	50.0 × 61.0
9	マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	81.2 × 65.4
10	浴女	1940	油彩・カンヴァス	80.5 × 64.5
11	婦人と猫	1949	油彩・カンヴァス	80.0 × 64.1
12	妻と赤い服	1950	油彩・カンヴァス	116.5 × 91.0
13	猫と子供	1951	油彩・カンヴァス	92.0 × 65.5
14	子供と猫	1955	油彩・カンヴァス	45.3 × 38.0
展示室B				
15	Haniwa 1	1956	油彩・カンヴァス	106.4 × 175.5
16	星座	1958	油彩・カンヴァス	200.5 × 180.0
17	Confusion and Order "A"	1964	油彩・カンヴァス	203.1 × 177.8
18	Water Shores A	1970	アクリル・カンヴァス	203.3 × 178.0
19	Landscape GT	1972	アクリル・カンヴァス	203.0 × 178.5
20	窓	1984	アクリル・カンヴァス	194.0 × 130.3
21	窓と星座	1985	アクリル・カンヴァス	194.0 × 258.8
22	黄色の星座	1986	アクリル・カンヴァス	182.0 × 152.0
23	金環食	1987	アクリル・カンヴァス	152.0 × 120.9
24	顔 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0 × 194.0
25	靴と鳥	1990	アクリル・カンヴァス	130.5 × 97.3
26	ダボとカガシ	1993	アクリル・カンヴァス	120.8 × 101.4

入場者数 **7,596**人

顔 2009年1月18日(日)～4月5日(日)

猪熊の晩年の代表作である「顔」を描いた作品を展観。顔を抽象形体の集まりと考えた猪熊が、眉や目鼻口という少ない要素をさまざまに単純化し、それらを組み合わせることで生み出した千差万別の顔の魅力を伝えた。

作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(縦×横cm)
展示室A				
1	自画像	1921	油彩・カンヴァス	53.5 × 45.5
2	顔 36 (B)	1988	アクリル・カンヴァス	130.3 × 97.1
3	顔 32	1988	アクリル・カンヴァス	127.0 × 96.7
4	顔 21	1988	アクリル・紙	76.0 × 56.5
5	顔 16	1988	アクリル・紙	76.0 × 56.5
6	顔 17	1988	アクリル・紙	58.5 × 44.4 (マット内寸)
7	顔 17	1988	アクリル・紙	58.3 × 44.4 (マット内寸)
8	顔 7	1988	アクリル・紙	58.3 × 44.4 (マット内寸)
9	顔 71	1989	アクリル・カンヴァス	135.9 × 121.4
10	顔 20 D	1989	アクリル・カンヴァス	126.0 × 90.8
11	顔 43 (B)	1989	アクリル・カンヴァス	116.7 × 91.0
12	鳥と顔 3	1990	アクリル・紙	59.9 × 47.0 (マット内寸)
13	顔眼	1991	アクリル・カンヴァス	91.2 × 73.0
14	題名不明	1992	アクリル・カンヴァス	53.0 × 45.5
15	題名不明	1992	アクリル・カンヴァス	45.6 × 38.0
16	顔バック緑	1992	アクリル・カンヴァス	41.1 × 31.8
17	顔青	1992	アクリル・カンヴァス	41.0 × 31.8
18	顔 12	1992	アクリル・紙	44.0 × 59.0 (マット内寸)
19	題名不明	1992	アクリル・紙	74.3 × 54.3 (マット内寸)
20	題名不明	1992	アクリル・紙	74.3 × 54.3 (マット内寸)
21	顔 12	1992	アクリル・紙	59.3 × 43.5 (マット内寸)
22	顔 10 鳥 2 山 1	1992	アクリル・紙	59.0 × 44.0 (マット内寸)
23	裸子 1 顔 14	1992	アクリル・紙	59.0 × 43.5 (マット内寸)

入場者数 **7,062**人

Ⅲ 美術作品整理・管理

i 貸出し

作品名	制作年	作者	技法・材質	貸出先	貸出期間	展覧会名等
2005年度（平成17年度）						
魔の山	1989	中川幸夫	Cプリント	宮城県美術館	2005. 6.10 ～ 9.30	「花人 中川幸夫の写真・ガラス・書ーいのちのかたち」 会期:2005年6月18日～ 9月4日 会場:宮城県美術館
自画像	1921	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス	鹿児島市立美術館	2005. 9. 25 ～ 11. 11	「新装開館20周年記念猪熊弦一郎展～絵には勇気がいる～」 会期:2005年10月4日～ 11月6日 会場:鹿児島市立美術館
少年	1922	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
雪の道	1923頃	猪熊弦一郎	油彩・板			
母の像	1924	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
眠れる女	1927	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
題名不明	1927	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
着物の婦人	1930	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
コンポジション	1930	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
二人	1931	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
画室	1932	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
座像	1933	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
ピアノの前	1934	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
海と女	1935	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
夜	1937	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
昼	1937	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
黄昏	1937	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
巴里のおばあさん	1938	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
自動車の中の家族	1938	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
セロを弾く男	1939	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
サクランボ	1939	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
妻と手袋	1939	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
ホテルクロマニヨン	1939	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
マドモアゼルM	1940	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
長江埠の子供達	1941	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
マニラ娘	1942	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
ビルマの娘	1944	猪熊弦一郎	油彩・板			
バレリーナの夢想	1950	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
猫によせる歌	1952	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
からす	1953	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
馬と道化	1955	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
Composition No. 2	1957	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			

作品名	制作年	作者	技法・材質	貸出先	貸出期間	展覧会名等
2005年度（平成17年度）						
黄色の反響	1960	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス	鹿児島市立美術館	2005. 9. 25 ～11. 11	「新装開館20周年記念 猪熊弦一郎展～絵には 勇気がいる～」 会期:2005年10月4日～ 11月6日 会場:鹿児島市立美術館
獅子舞	1961	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
Greeting of Neighborhood	1962	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
都市計画	1962-63	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
City Planning Yellow No.1	1968	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス			
Water Shores A	1970	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス			
Landscape E	1975	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス			
地図でない地図	1978	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス			
夜を飛ぶ	1980	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス			
発芽時代	1985	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス			
太陽は待って居る	1987	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス			
顔 80	1989	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス			
ロボット・顔・犬	1992	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス			
飛ぶ日のよろこび	1993	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス			
ダボとカガシ	1993	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス			
「デモクラシー」慶應義塾 大学学生ホール（現西校舎 学生食堂）壁画原画	1949	猪熊弦一郎	鉛筆、水彩・ 紙			
映画「生きる」プレスシート案	1952	猪熊弦一郎	クレパス・紙			
「雪崩」大佛次郎（朝日新 聞1936.8.24～12.31連載） 挿絵案（第14回）	1936	猪熊弦一郎	インク・紙			
『小説新潮』1950年5月号 表紙絵「黒い髪」	1950	猪熊弦一郎	水彩・紙			
『小説新潮』1954年11月号 表紙絵「娘と鳩笛」	1954	猪熊弦一郎	水彩・紙			
『小説新潮』1959年4月号 表紙絵「楽しい風景」	1959	猪熊弦一郎	水彩・紙			
『小説新潮』1962年12月号 表紙絵「クリスマスツリー」	1962	猪熊弦一郎	水彩・紙			
『華岡青州の妻 恍惚の人』 〈新潮現代文学51〉 有吉佐和子 表紙デザイン画	1978	猪熊弦一郎	アクリル・紙 ・コラージュ			
『猫のいる日々』大佛次郎 表紙原画	1978	猪熊弦一郎	鉛筆、インク、 アクリル・紙			
スカーフ	不詳	猪熊弦一郎	絹			
風呂敷	不詳	猪熊弦一郎	絹			
スツール	1950	猪熊弦一郎	クローム塗金・木、鉄			
真鍮網による椅子	1950	猪熊弦一郎	真鍮網、革、鉄			
寝椅子	1952	猪熊弦一郎	布、革、紐、木、鉄			
テーブル	1953	猪熊弦一郎	木、紐、塩化ビ ニール板、鉄			
アケサイドテーブル	1953	猪熊弦一郎	アケビ材、鉄			
『花紋』大佛次郎著	1947	猪熊弦一郎装丁	書籍			
『女達の家』丹羽文雄著	1948	猪熊弦一郎装丁	書籍			
『假面の告白』三島由紀夫著	1949	猪熊弦一郎装丁	書籍			
『闘牛』井上靖著	1950	猪熊弦一郎装丁	書籍			
『遠乗會』三島由紀夫著	1951	猪熊弦一郎装丁	書籍			
『ビルマの豎琴』竹山道雄著	1953	猪熊弦一郎装丁	書籍			
『眼の壁』松本清張著	1971	猪熊弦一郎装丁	書籍			

作品名	制作年	作者	技法・材質	貸出先	貸出期間	展覧会名等
2005年度（平成17年度）						
『開高健全作品 小説1』開高健著	1974	猪熊弦一郎装丁	書籍	鹿児島市立美術館	2005. 9. 25 ～11. 11	「新装開館20周年記念 猪熊弦一郎展～絵には 勇気がいる～」 会期:2005年10月4日～ 11月6日 会場:鹿児島市立美術館
『華岡青州の妻 恍惚の人』 〈新潮現代文学51〉 有吉佐和子著	1978	猪熊弦一郎装丁	書籍			
『猫のいる日々』大佛次郎著	1978	猪熊弦一郎装丁	書籍			
対話彫刻	不詳	猪熊弦一郎	ミクストメディア			
猪熊弦一郎コレクションより 駝鳥の車(玩具)	不詳	不詳	ブリキ・紐			
猪熊弦一郎コレクションより 郵便車(玩具)	不詳	不詳	ブリキ			
猪熊弦一郎コレクションより 自動車(玩具)	不詳	不詳	ブリキ			
猪熊弦一郎コレクションより 自動車(玩具)	不詳	不詳	ブリキ			
猪熊弦一郎コレクションより マッチホルダー(置物)	不詳	不詳	金属			
猪熊弦一郎コレクションより 鳥(置物のセット)	不詳	不詳	木			
猪熊弦一郎コレクションより カチナドール	不詳	不詳	木・羽毛			
2007年度（平成19年度）						
ダボとカガシ	1993	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス	兵庫県立美術館、松本市美術館、富山県水墨美術館、美術館連絡協議会	2007. 5. 18 ～10. 11	「見果てぬ夢ー日本近代画家の絶筆」 会期:2007年5月29日～ 7月8日 会場:兵庫県立美術館 会期:2007年7月13日～ 8月19日 会場:松本市美術館 会期:2007年8月24日～ 9月30日 会場:富山県立水墨美術館
馬と少女	1935	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス	財団法人損保ジャパン美術財団、財団法人エム・オー・エー美術・文化財団、株式会社アートプランニングレイ	2007. 7. 5 ～12. 13	「解き放たれたイメージ サークス展」 会期:2007年7月14日～ 9月2日 会場:損保ジャパン 東郷青児美術館 会期:2007年10月6日～ 12月5日 会場:MOA美術館
サクランボ	1939	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス	松坂屋美術館、福井市美術館、株式会社キュレーターズ	2007. 8. 2 ～11. 20	「異邦人たちの夢 エコール・ド・パリと巴里を描いた日本人」 会期:2007年8月11日～ 9月10日 会場:松坂屋美術館 会期:2007年10月2日～ 11月4日 会場:福井市美術館
パイプと男	1939	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			
ヴィナス誕生(A)	1940	猪熊弦一郎	油彩・カンヴァス			

作品名	制作年	作者	技法・材質	貸出先	貸出期間	展覧会名等
2008年度（平成20年度）						
鳥とドール	1990	猪熊弦一郎	アクリル・カンヴァス	高松市歴史資料館	2008. 7. 29 ～ 9. 24	「人形の・夢・見ゆる ひと」 会期:2008年8月9日～ 9月21日 会場:高松市歴史資料館
スケッチブック『アリゾナ とカチナドール』より12点	1979	猪熊弦一郎	墨・紙			
スケッチブック『アリゾナ とカチナドール』より2点	1980	猪熊弦一郎	墨・紙			
スケッチブックより2点	1979	猪熊弦一郎	墨・紙			
猪熊弦一郎コレクションよ りカチナドール3体	不詳	不詳	木・羽毛			

IV

教育普及事業

i ワークショップ

子どもたちの豊かな感性と創造力を伸ばし、育むことを目的として、主に小・中学生を対象にワークショップを開催した。

ワークショップ名	開催日時・会場	講師	対象	人数	参加費	内容
「春の光の収集」	2005.4.9(土)・10(日)・23(土)・24(日) 10:00～16:00 造形スタジオ・丸亀市内	小山田 徹 (美術家)	子どもから一般(小学6年生以下は保護者同伴)	16人 21人 15人 15人	300円	「風景遊歩 sight-cruising」展関連。現在のカメラの原形であるカメラオブスキュラを自作し、それをもって市内を散歩する。
「2000年後の風景をつくらう!!」	2005.5.14(土)・15(日) 13:00～16:00 造形スタジオ	柴川 敏之 (美術作家、福山市立女子短期大学助教授)	子どもから一般(6才以下は保護者同伴)	31人 25人	無料	「風景遊歩 sight-cruising」展関連。身の回りの物を素材に拓本、裏彩色などの技法で「2000年後の風景」をつくる。
「ミモカ★スカイ」	2005.6.11(土)・18(土) [全2日] 10:00～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	26人 25人	無料	段ボールや紙箱、ペットボトル、発泡スチロールなどの材料を使って、それぞれが創造する空の国をつくり(1日め)、彩色をして仕上げる(2日め)。
夏休み 「ねんど★ランド」	2005.7.17(日)～24(日) 10:00～12:00 13:30～15:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	子どもから大人まで	686人 (8日間計)	300円	粘土とビーズ、小枝、石などさまざまな物を組み合わせてオブジェをつくる。
夏休み 「マイ・ミモカ・マップ ～ミモカのココが好き!」	2005.8.6(土)～7(日) 10:00～12:00 13:30～15:30 造形スタジオ	戸室 太一・道面 実香 (谷口建築設計研究所員)	小学生以上一般(小学生は保護者同伴、その場合保護者も参加者)	14人 11人	500円	「谷口吉生のミュージアム」展関連。美術館でお気に入りの場所をポラロイドカメラで撮影し、みんなで美術館の地図をつくる。



春の光の収集
(2005.4)

ワークショップ名	開催日時・会場	講 師	対 象	人数	参加費	内 容
夏休み 「貼って伝える コラージュ・レター」	2005.8.10(水) ～15(月) 10:00～12:00 13:30～15:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	子どもから大人まで	274人 (6日間計)	200円	いろがみ、シール、リボン、毛糸などを切って貼り、想いを伝える手紙をつくる。
「見るサル 聞くサル 話すサル」	2005.9.24(土) 10:00～12:00 美術館内・丸亀市内	美術館スタッフ	小・中学生	5人	無料	小道具をつくってサルになりきった後、一生懸命見て聞いて自分が感じたことをサル同士(参加者同士)で話しあうことであらためて五感を確認する。
「不思議の森の動物張り子」	2005.10.15(土)・ 16(日) [全2日] 10:00～12:00 造形スタジオ	絵畑真理子 (画家)	小・中学生	18人 17人	無料	張り子をつくり、雑誌の写真部分などを破りとって模様にし、想像上の動物の張り子を作る。
「ミラクル・アート・ピザ」	2005.11.19(土) 10:00～14:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	21人	300円	ワークシートに描いたピザの絵をもとに実際に食材を使いピザを焼き、みんなで食べる。
「みんなでモデル!!! ～自分のモノは皆のモノ～」	2005.12.10(土)・ 11(日) [全2日] 13:00～16:00 造形スタジオ	笠原恵実子 (現代美術作家)	9～13才の女子	15人 13人	無料	参加者が互いの衣服、持ち物を交換して互いにコーディネートして撮影する。「共有」による新たな関係を楽しむワークショップ。
「花びらでそめる」	2006.1.21(土) 10:00～14:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	18人	無料	街路樹から採取したさざんかので布を染める。
「名探偵ミモの探偵手帳 虫くい巻」	2006.2.11(土・祝) ・18(土) 10:00～11:00 3階展示室C	美術館スタッフ	小学生	5人 5人	無料	「猪熊弦一郎展 若き情熱の証」関連。展覧会を見に来た「名探偵ミモ」の手帳が虫にくわれたという設定で、展示作品についての質問を含んだ手帳(穴あき)を手引きとして出品作品を鑑賞。
「へんてこいきもの」	2006.3.18(土) 10:00～12:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	16人	無料	廃材等で見たこともないへんてこいきものをつくり、ネオカラーで色付けをする。
「巨大迷路」	2006.4.15(土)・ 22(土) [全2日] 10:00～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	19人 19人	無料	ダンボールとガムテープ、ダンボールカッターを使って迷路をつくる。みんなが作った迷路をつないで巨大な迷路を完成させる。



みんなでモデル!!!
(2005.12)

ワークショップ名	開催日時・会場	講 師	対 象	人数	参加費	内 容
「不思議大博物図鑑をつくらう！」	2006.6.17(土)・18(日) 10:00～16:00 造形スタジオ	角 孝政 (造形作家)	小学生以上 一般 (小学生は保護者同伴)	16人 15人	無料	スカルピーというオープン粘土で不思議な生物をつくり彩色する。講師が作品を撮影し、さまざまなデータ(生息地、特徴、発見者等)をつけ、『不思議大博物図鑑』ができあがる。
夏休み 「キョロキョロ!目玉大作戦」	2006.7.21(金)～26(水) 10:00～12:00 13:30～15:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	子どもから大人まで	326人 (6日間計)	300円	動眼(ムービング目玉)というシンプルなアイテムと空き箱やペットボトル、紙類などを組み合わせて工作する。
夏休み 「つくって変身!仮面X」	2006.7.30(日)～8.5(土) 10:00～12:00 13:30～15:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	子どもから大人まで	320人 (7日間計)	300円	真白な仮面に色をつけたり、羽やビーズをくっつけたりしてオリジナルの変身仮面をつくる。
夏休み 「ドキドキ!?宝探し探検隊～かくされたカギのなぞ～」	2006.8.9(水)～11(金) 13:00～15:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	69人 (3日間計)	無料	怪人Xが美術館のカギを盗んだという設定で、「宝さがし」の要素もとりいれ、美術館の活動や機能を理解する。
「音さがし探検隊!!」	2006.9.23(土祝) 10:00～12:00 造形スタジオ・丸亀市内	美術館スタッフ	小・中学生	5人	無料	身の回りのさまざまな音に耳をすまし、普段気づかない音や面白い音などを紙に書き出す(音の地図)。好きなように文字や絵、線だけの表現で表す。
「糸ってな～に?～羊の毛を糸にして、おってみよう!」	2006.10.15(日)・22(日) [全2日] 10:00～12:00 造形スタジオ	中島和子 (中島工房) ほか中島工房のみなさん	小学生	18人 18人	無料	羊の毛を「よって」糸にする。よった糸を「おって」小さなコースター(布)をつくる。
「うきうきアートスリッパ」	2006.11.11(土)・18(土) 10:00～12:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	6人 16人	無料	スリッパに飾りをつけたり、色を塗ったりして楽しいアートスリッパをつくる。
「おもしろクッキー～クリスマスのかざりをつくらう～」	2006.12.9(土)・10(日) 10:00～13:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	12人 14人	無料	6色のクッキー生地を使い、下絵にもとづいて形をつくり、クッキーを焼き上げ、ラッピングなど飾りつけも行う。

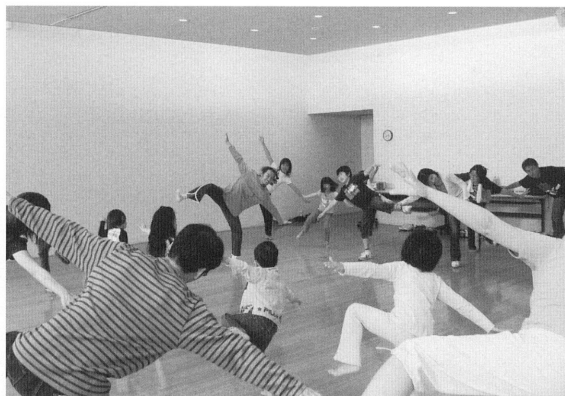


糸ってな～に?
(2006.10)



カタチ発見!顔ワールド
(2007.1)

ワークショップ名	開催日時・会場	講 師	対 象	人数	参加費	内 容
「カタチ発見！顔ワールド」	2007.1.27(土) 10:00～12:00 造形スタジオ ・3階展示室C	美術館スタッフ	小・中学生	23人	無料	「いのくまさん」展関連ワークショップ。顔を描いた猪熊作品を鑑賞後、福笑いの要領でホワイトボード上で顔を作る。次に好きな紙類を用いて、いろいろな顔を作る。
「カメラでパチリ！不思議ハンター」	2007.2.17(土) 10:00～12:00 造形スタジオ ・美術館周辺	美術館スタッフ	小・中学生	16人	無料	「いのくまさん」展関連ワークショップ。美術館内外で不思議に感じたものを撮影。台紙に写真を貼り付け装飾する。
「はかってビックリ！自分サイズ」	2007.3.17(土) 10:00～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小学3年生～中学生	11人	無料	ダンボールの上からだのシルエットをかたどり、歩く幅、両手を伸ばした長さ≒身長など身体のださまざまな寸法を確認し、今の自分を記録する。
「点音(おとだて)2007 in 丸亀」	2007.4.22(日) 10:00～16:00 造形スタジオ ・美術館周辺	鈴木 昭男 (サウンドアーティスト)	子どもから一般小学生以下は保護者同伴、その場合保護者も参加者	20人	無料	「奏でる身体」展関連。10:00～10:30の講師による演奏会を見学後、参加者が事前に探したエコーポイント(静かに耳を澄ます場所)をめぐり、丸亀の街の音を聴く。
「近藤良平ワークショップ」	2007.5.20(日) ①14:00～16:00 ②17:00～19:00 造形スタジオ	近藤 良平 (コンドルズ主宰、振付家)	①親子(小学生とその保護者2人1組)	①29人	1,000円	「奏でる身体」展関連。①は親子でいっしょに行う動きを体験したり、NHK「からだであそぼ」の「こんどーさんちのたいそう」を踊るなどした。②は一定の場面を演じる要素が入った動きを考え実演。何気ない日常の動作から、踊りが生まれていく様子を体験。
			②一般(中学生以上・ダンス経験は不問)	②31人	500円	
「ハッピーアンブレラ!! ー楽しいカサをつくらうー」	2007.6.9(土)・16(土) 10:00～12:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	22人 19人	無料	透明ビニール傘に、好きな色を塗ったり好きな素材をつけたりして、自分だけのオリジナル傘をつくる。
夏休み 「風にゆれるよ！ ゆらゆらオブジェ」	2007.7.21(土)～26(木) 10:00～12:00 13:30～15:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	子どもから大人まで	563人 (6日間計)	200円	小枝や針金にキラキラビーズ・貝がらなどをつるして、ゆらゆらゆれるすてきなオブジェをつくる。



近藤良平ワークショップ
(2007.5)

ワークショップ名	開催日時・会場	講師	対象	人数	参加費	内 容
夏休み 「さわって たのしむ！ ～のびのびマイ・クッション をつくろう～」	2007.8.1(水) ～7(火) 10:00～12:00 13:30～15:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	子どもから 大人まで	615人 (7日間計)	300円	「エルネスト・ネット」展関連ワークショップ。タテにもヨコにも伸びるおもしろい布で、自分だけのさわってたのしめるクッションをつくる。
夏休み 「ミモカミステリー探偵団 ～Z氏からの挑戦状!!」	2007.8.15(水) ～18(土) 13:00～15:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	80人 (4日間計)	無料	ミモカミステリー探偵団の一員になったという設定で、館内のナゾをときながら暗号を解読し、美術館の活動や機能を理解する。
「音がする焼き物」	2007.9.15(土)・ 29(土) [全2日] 1日目13:00～ 16:00 2日目13:00～ 15:00 造形スタジオ	貴志 勉 (陶芸家)	小・中学生	21人	無料	手に取ると音がする焼き物をつくる。焼きあがったときの音を想像しながら粘土で好きな形を作り(1日目)、焼きあげたものの音を手の中で感じながら色付けをする(2日目)。
				19人		
「ピンホールカメラの世界へ どうぞ！」	2007.10.13(土) 10:00～15:00 造形スタジオ	高橋 章 (写真家)	小・中学生	9人	無料	段ボール製の体験用巨大ピンホールカメラや万華鏡型ピンホールカメラなどで像を見る体験をしてから、好きなタイプの暗箱を選び実際に撮影、現像を行う。
「ねりきり和菓子に挑戦！」	2007.11.17(土) ・18(日) 13:00～15:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	19人	無料	白餡と求肥(餅粉、砂糖、水を練ったもの)を用い、色や形を工夫して、「ねりきり」という和菓子をつくる。
				21人		
「おまけワールド」	2007.12.8(土) 10:00～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	22人	無料	気に入ったおまけを選び、その名前や住んでいるところなどを考え、イメージがふくらんだところでおまけにぴったりの場所(ワールド)を紙箱や発泡スチロール、紙粘土等でつくる。
「おもしろ巨大カルタ」	2008.1.26(土) 10:00～12:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	14人	無料	お正月に遊ぶカルタよりもおもしろいカルタを皆でつくり、カルタ大会をして遊ぶ。



夏休み「ミモカミステリー探偵団」
(2007.8)

ワークショップ名	開催日時・会場	講 師	対 象	人数	参加費	内 容
「ひみつダンボール基地」	2008.2.9(土)・16(土)[全2日間] 10:00~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	22人	無料	ダンボール、棒や大きな布などで骨組みをつくり(1日目)、廃材、カラーガムテープ、絵の具で飾りつけをして秘密基地を完成させる(2日目)。
				24人		
「くるくるミラクル万華鏡」	2008.3.8(土) 10:00~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小学生(3年生以上)・中学生	20人	無料	さまざまな鏡の特性を知る体験をしてから、オブジェクトタイプ・グリセリンタイプ・ビー玉タイプから好きなタイプを選び、万華鏡をつくる。
「光でうつそう！ スモール☆ワールド」	2008.4.26(土) 10:00~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	20人	無料	鳥の羽やカラーセロファン、糸くず、偏光板等を使ってマウントの内に配置し、スライドで映写する。
「お城まつり スペシャル オープンワークショップ at ミモカゲートプラザ」	2008.5.3(土祝)・4(日祝) 12:00~16:00 ゲートプラザ	美術館スタッフ	子どもから 大人まで	450人 (見学者含む)	巨大らくがき ：無料 ハッピー 仮面 ：200円	巨大らくがき：敷かれた紙にチョークで落書きをする。 ハッピー仮面：仮面に彩色、飾り付けをする。 その他、シャボン玉スペース、フラフープの貸出しなども行った。
				602人 (見学者含む)		
「虹色カップ ～カップにすてきな絵をかこう～」	2008.6.14(土)・15(日) 10:00~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	19人	無料	不透明で無地のカップにカラフルなペンで色をぬったり、絵を描いたりして装飾する。キラキラテープ、スパンコールやビニールテープなども材料とし飾りつけする。
				20人		
夏休み 「カラフル・ねんど・ランド」	2008.7.19(土)~26(土) 10:00~12:00 13:30~15:30 造形スタジオ	美術館スタッフ	子どもから 大人まで	657人 (8日間計)	300円	赤、青、黄、白の混色できる軽量粘土と、ガラスびんや箱などを組みあわせて自由に制作する。
夏休み 「パラモデル共同制作所」	2008.8.1(金)・3(日)・5(火)・7(木)・9(土) 10:00~12:00 造形スタジオ	パラモデル (アートユニット) ：林泰彦、中野裕介)	子どもから一般 小学生以下は 保護者同伴、 その場合保護 者も参加者	20人	無料	プラスチック製のレールを組みあわせて床や壁に絵を描く。
				19人		
				20人		
				21人		
				20人		



夏休み「パラモデル共同制作所」
(2008.8)

ワークショップ名	開催日時・会場	講師	対象	人数	参加費	内容
「くんくんウォーク in 丸亀」	2008.10.11(土) ・12(日) 10:00～16:00 造形スタジオ ・美術館周辺	井上 尚子 (現代美術作家)	小学生以上 一般	11人 7人	無料	歩きながら丸亀の街のにおいを探した後、これを色や形に置きかえて「くんくんマップ」(おきの地図)をつくる。
「なぞとき探検マップ in ミモカ ひみつのメッセージをとき あかし、探検王をめざせ」	2008.11.23(日祝) 10:00～18:00 美術館内	美術館スタッフ	子どもから大人まで	146人	無料	開館記念日に合わせたワークショップ。探検地図を手がかりにして謎を解きながら、館内をめぐる。
「お菓子でつくろう！ おかしな絵？」	2008.12.13(土) ・14(日) 13:00～15:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	16人 23人	無料	自分で描いたデザインにもとづき、紙皿や紙の台紙の上にお菓子で絵を描く。出来上がった作品を鑑賞してから皆で食べる。
「小金沢健人展関連WS 《トリカエル》」	2009.1.10(土) 10:00～16:30 造形スタジオ	小金沢健人 (アーティスト)	小学生以上 一般	15人	無料	「小金沢健人展 動物的」関連ワークショップ。二人羽織や福笑い制作など、参加者がさまざまな共同作業を通して相互に触発しあい、新たなイメージが生まれることを体験する。
「コロコロゲーム ービー玉くんの長い旅ー」	2009.2.14(土) ・21(土)[全2日間] 10:00～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	19人 19人	無料	マットと釘や針金などいろいろな材料を組みあわせて、ビー玉がコロコロ転がる迷路をつくる。
「ダンボール大トンネル」	2009.3.21(土) 10:00～16:00 ゲートプラザ	美術館スタッフ	小・中学生	18人	無料	子どもたちがダンボールをつなげて一つの大きなトンネルを作り、完成したら皆で遊ぶ。



ダンボール大トンネル
(2009. 3)

IV

教育普及事業

ii オープン・スタジオ

オープン・スタジオ『美術館であそぼう』

《絵具で自由に絵を描く・土粘土で遊ぶ活動》

時 間／10時～11時30分

対 象／子ども・保護者

参加料／無料

会 場／造形スタジオ

申込不要



開催日	人数		計
	子ども	保護者	
2005年4月2日	40	10	50
2005年5月7日	24	22	46
2005年6月4日	50	32	82
2005年7月2日	16	12	28
2005年9月3日	86	34	120
2005年10月1日	20	18	38
2005年11月5日	47	35	82
2005年12月3日	15	10	25
2006年2月4日	48	37	85
2006年3月4日	26	20	46
2005年度計	372	230	602
2006年4月1日	25	24	49
2006年5月6日	25	17	42
2006年6月3日	28	17	45
2006年7月1日	42	22	64
2006年9月2日	46	26	72
2006年11月4日	36	27	63
2006年12月2日	18	17	35
2007年1月6日	46	32	78
2007年2月3日	36	29	65
2007年3月3日	34	21	55
2006年度計	336	232	568

開催日	人数		計
	子ども	保護者	
2007年4月7日	19	16	35
2007年5月5日	14	10	24
2007年6月2日	25	20	45
2007年7月7日	28	17	45
2007年9月1日	90	49	139
2007年10月6日	35	22	57
2007年11月3日	34	30	64
2007年12月1日	49	31	80
2008年1月5日	52	47	99
2008年3月1日	128	111	239
2007年度計	474	353	827
2008年6月7日	118	79	197
2008年7月5日	36	29	65
2008年9月6日	44	32	76
2008年9月7日	24	19	43
2008年9月13日	20	15	35
2008年9月14日	23	26	49
2008年11月1日	27	22	49
2008年12月6日	21	14	35
2009年2月7日	31	19	50
2009年3月7日	36	27	63
2008年度計	380	282	662

IV

教育普及事業

iii

イベント

本を巡るユトレヒトの旅

入場者数 1,800人

日 時 2005年5月3日(火・祝)、4日(水・祝)、5日(木・祝) 10時～18時
会 場 1階ゲートプラザ
入 場 料 無料
主 催 財団法人ミモカ美術振興財団、お城まつり協賛会
協 力 ユトレヒト

アンナ・ゴウラリ ピアノ・コンサート

入場者数 188人

日 時 2005年11月12日(土) 19時30分～
出 演 者 アンナ・ゴウラリ
会 場 2階ミュージアムホール
入 場 料 一般／前売 3,000円(自由席)、当日 3,500円(席域指定)、
高校生以下／1,000円(席域指定、20席)
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
協 賛 丸亀市文化振興事業協議会

平成17年度文化庁新進芸術家公演事業 やの雪のテルミン・ワンダーランド

入場者数 183人

日 時 2006年2月12日(日) 15時～16時40分
出 演 者 やの雪(テルミン奏者)
会 場 2階ミュージアムホール
企画制作 有限会社スタマック
入 場 料 一般／A席 2,500円(170席・自由席)、B席一般 2,000円、
高校生以下／1,000円(席域指定30席・自由席)
主 催 文化庁、社団法人全国公立文化施設協会、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、
財団法人ミモカ美術振興財団

MIMOCA オープンカフェ おいしいドイツ

入場者数 1,071人

日 時 2006年5月3日(水・祝)、4日(木・祝) 12時～18時
会 場 1階ゲートプラザ
入 場 料 無料
主 催 財団法人ミモカ美術振興財団

谷川俊太郎・谷川賢作コンサート いのくまさんといっしょ

入場者数 312人

日 時 2006年12月23日(土・祝) 14時~15時40分
出 演 者 谷川俊太郎(詩人)、谷川賢作(ピアニスト/作・編曲家)
会 場 3階展示室C
企 画 有限会社タムオフィス
入 場 料 一般 4,000円、高校生以下 1,000円(全席自由)
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

鈴木昭男 エコー・楽器 アナラポス演奏会

入場者数 92人

日 時 2007年4月22日(日) 10時~10時30分
出 演 者 鈴木昭男(サウンドアーティスト)
会 場 1階ゲートプラザ
入 場 料 無料
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

MIMOCA オープンカフェ

入場者数 2,167人

日 時 2007年5月3日(木・祝) 12時~17時、4日(金・祝) 11時~17時30分
会 場 1階ゲートプラザ
入 場 料 無料
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

ハナレグミ フリーライブ

入場者数 1,680人

日 時 2007年5月4日(金・祝) 15時30分~17時
出 演 者 ハナレグミ
会 場 1階ゲートプラザ
企 画 ブルーマーク
入 場 料 無料
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

yummydance 少しお時間ください

入場者数 101人

日 時 2007年5月27日(日) 16時30分~
出 演 者 yummydance(ヤミーダンス)
会 場 2階ミュージアムホール
入 場 料 A席 1,500円(170席・自由席)、B席 1,000円(30席・自由席)
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

真夏の夜の美術館

入場者数 177人

日 時 2007年8月18日(土) 19時~22時
出 演 者 Dabada(山本なつき、小山寛治、神崎薫)
会 場 展示室及び3階カフェレスト MIMOCA
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

MIMOCA オープンカフェ 丸〇カフェ

入場者数 1,052人

日 時 2008年5月3日(土・祝)、4日(日・祝) 12時～17時
会 場 1階ゲートプラザ
企 画 ブルーマーク、eatrip
協 力 五風十雨
入 場 料 無料
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

Spanish Connection on Tour 2008 East West スパコネツアー ～Memories for You～

入場者数 186人

日 時 2008年8月5日(火) 19時～20時30分
出 演 者 スパニッシュ・コネクション (伊藤芳輝、平松加奈、吉見征樹)、海沼正利、
伊藤寛康
会 場 2階展示室B
入 場 料 一般／前売 2,000円、当日 2,500円、高校生以下／前売 1,000円、当日 1,500円
主 催 財団法人ミモカ美術振興財団、丸亀市文化協会
後 援 丸亀市、丸亀市教育委員会

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY vol. 1

入場者数 172人

日 時 2006年5月6日(土) 15時~19時
出演者 ライブ：高木一江、丈青 (SOIL & PIMP SESSIONS)
DJ：鶴谷聡平 (Slowman)、Toshi (Pepe California)、
Sunny Sappa (Nubian Lady/INKO)
会 場 3階カフェレスト MIMOCA およびカスケードプラザ
入 場 料 無料
主 催 ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY vol. 2

入場者数 53人

日 時 2006年9月2日(土) 18時~21時
出演者 ライブ：Pepe California、Linalina
DJ：Slowman (SPIRAL RECORDS/farlove)
会 場 3階カフェレスト MIMOCA およびカスケードプラザ
入 場 料 1,500円 (1ドリンク付)
主 催 ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY vol. 3 DESERT HOUSE

入場者数 200人

日 時 2006年11月25日(土) 18時30分~22時
出演者 ライブ：MOOSE HILL、原田知世、トウヤマタケオ、当真伊都子
Art Work：Ed TSUWAKI
会 場 3階カフェレスト MIMOCA
入 場 料 前売 2,000円、当日 2,500円 (1ドリンク付)
主 催 ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY vol. 4

入場者数 345人

日 時 2007年5月6日(日) 18時30分~21時50分
出演者 ライブ：ohana
DJ：豊嶋博之 (Ghost Lunch)
会 場 3階カスケードプラザ
入 場 料 前売 3,000円、当日 3,500円 (1ドリンク付)
主 催 ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY vol. 5

入場者数 104人

日 時 2007年9月1日(土) 18時30分~21時30分
出演者 ライブ：mama!milk、ogurusu norihide
DJ：fujita takashi
会 場 3階カフェレスト MIMOCA
入 場 料 前売 2,500円、当日 3,000円 (1ドリンク付)
主 催 ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY vol. 6

入場者数 118人

日 時 2008年5月6日(火・祝) 18時30分～21時30分
出演者 ライブ：AURORA、二階堂和美
DJ：MITCHO (Pepe California/RAH)
会場 3階カフェレスト MIMOCA およびカスケードプラザ
入場料 一般／前売 2,500円、当日 3,000円 (1ドリンク付)
主催 ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY vol. 7

入場者数 156人

日 時 2008年9月27日(土) 18時30分～21時30分
出演者 ライブ：Naomi&goro
DJ：SOHEI TSURUTANI (Spiral Records/NEWPORT)
会場 3階カフェレスト MIMOCA
入場料 一般／前売 2,500円、当日 3,000円 (1ドリンク付) ※未就学児童は無料
主催 ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

カフェレスト MIMOCA ライブイベント SKY vol. 8

入場者数 84人

日 時 2008年11月24日(月・祝) 18時30分～21時30分
出演者 ライブ：YOSSY LITTLE WEAVER trio、阿部海太郎
DJ：黒田秀穂 (GREEN HOUSE)、Hiroyuki Toyoshima
会場 3階カフェレスト MIMOCA
入場料 一般／前売 3,000円、当日 3,500円 (1ドリンク付) ※未就学児童は無料
主催 ブルーマーク、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

現代芸術入門講座 vol. 6

入場者数 282人

日 時 2005年9月23日(金・祝) 14時～
テ ー マ 「住宅について 香川の若手建築家によるディスカッション」
講 師 後藤哲夫(後藤哲夫建築事務所代表)、齊藤正(齊藤正毅工房代表)、
林幸稔(林幸稔建築設計事務所主宰)、藤田撰(藤田撰建築設計事務所代表)、
六車誠二(六車誠二建築設計事務所代表)
会 場 2階ミュージアムホール
受 講 料 無料
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

現代芸術入門講座 vol. 7

入場者数 59人

日 時 2006年6月25日(日) 15時30分～
テ ー マ 「1990年以降現在までのビデオ・アートの展開」
講 師 市原研太郎(美術評論家)
会 場 2階ミュージアムホール
受 講 料 500円(当日の展覧会チケットをお持ちの方およびミモカフレンド会員は無料)
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

現代芸術入門講座 vol. 8 - 1

入場者数 47人

日 時 2007年4月29日(日・祝) 15時～
テ ー マ 「シンポジウム 美術館を考える 美術館で考える2」
講 師 逢坂恵理子(森美術館プログラム・ディレクター)、
小松崎拓男(金沢美術工芸大学教授)、
天野太郎(横浜美術館学芸教育グループ次席学芸員)
会 場 2階ミュージアムホール
受 講 料 500円(当日の展覧会チケットをお持ちの方およびミモカフレンド会員は無料)
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

現代芸術入門講座 vol. 8 - 2

入場者数 47人

日 時 2007年9月16日(日) 16時～
テ ー マ 「ログズギャラリー：ガソリンミュージック&クルージング」
講 師 ROGUE'S GALLERY(濱地靖彦、中瀬由央)
会 場 2階ミュージアムホールほか
受 講 料 500円(当日の展覧会チケットをお持ちの方およびミモカフレンド会員は無料)
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団

IV

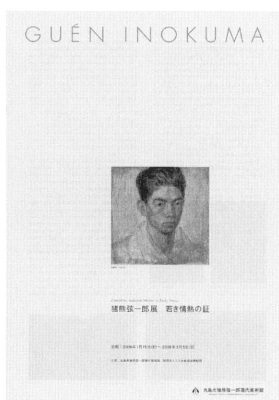
教育普及事業

iv

刊行物一覧

iv — i 当館発行刊行物

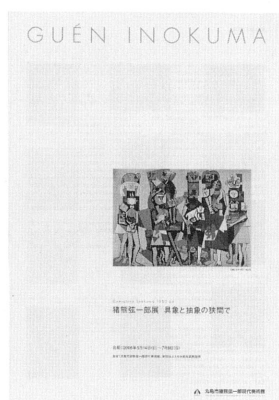
2006年
(平成18年1月)



猪熊弦一郎展 若き情熱の証

内 容 松村円「若き情熱の証」／年譜／作品リスト
編 集 松村円
仕 様 A4 4ページ
デザイン 塚本明彦（図案倶楽部）
印 刷 平和写真印刷株式会社
発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術
振興財団
発行部数 3,000部
価 格 無料

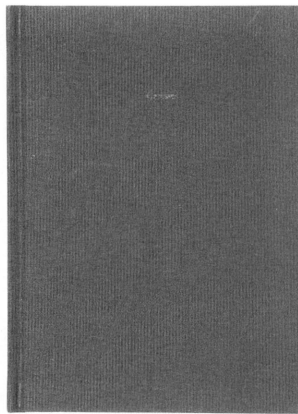
2006年
(平成18年5月)



猪熊弦一郎展 具象と抽象の狭間で

内 容 安藤輝美「具象と抽象の狭間で」／作品リスト／年
譜
編 集 安藤輝美
仕 様 A4 4ページ
デザイン 近藤一弥
印 刷 平和写真印刷株式会社
発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術
振興財団
発行部数 2,000部
価 格 無料

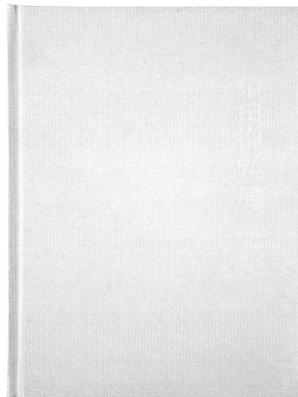
2006年
(平成18年5月)



スティーヴ・マックィーン Caresse[愛撫]

内 容 ごあいさつ／「指と目：スティーヴ・マックィーンとマルレーネ・デュマスの対話」／カタログ／作品解説／略歴
編 集 松村円、植松由佳
翻 訳 速水葉子、ブライアン・アムスタッツ
仕 様 B 6 56ページ
デザイン 近藤一弥
印 刷 株式会社アポロ社
発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
発行部数 2,000部
価 格 1,500円

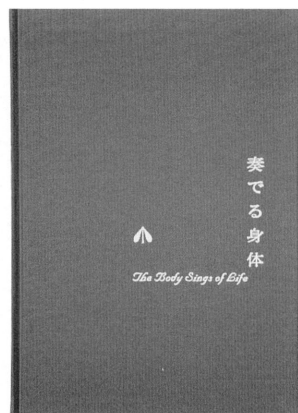
2006年
(平成18年9月)



須田悦弘展

内 容 ごあいさつ／インタビュー 須田悦弘／植松由佳「須田悦弘－《雑草》が見せるもの」／作品図版／略歴／作品リスト
編 集 植松由佳、中田耕市
翻 訳 ブライアン・アムスタッツ
仕 様 A 5 変型 118ページ
デザイン 下田理恵
印 刷 平和写真印刷株式会社
発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
発行部数 2,000部
価 格 2,300円

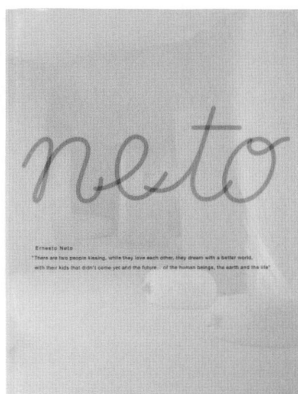
2007年
(平成19年4月)



奏でる身体

内 容 ごあいさつ／松村円「奏でる身体」／作品図版／作家略歴／作品リスト
編 集 松村円、古野華奈子
翻 訳 ブライアン・アムスタッツ
仕 様 B 5 72ページ
デザイン 池田進吾 (67)、小田直司
印 刷 平和写真印刷株式会社
発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
発行部数 1,000部
価 格 1,800円

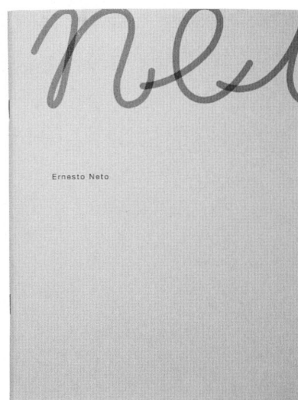
2007年
(平成19年8月)



エルネスト・ネト展カタログ (写真集)

内 容 作品図版および展示設営記録写真
編 集 中田耕市
仕 様 B4変型 48ページ
デザイン 菊池敦己 (Bluemark)
印 刷 グラフ株式会社
発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術
振興財団
発行部数 2,250部
価 格 2,200円 (次項の資料集との合本)

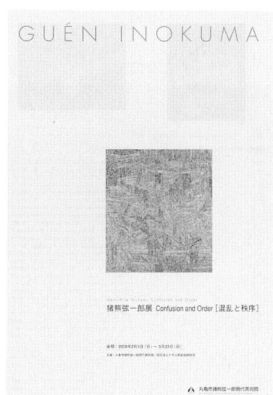
2007年
(平成19年11月)



エルネスト・ネト展カタログ (資料集)

内 容 ごあいさつ／展覧会情報／中田耕市「関係性の宇宙へ」／アーティストトーク：エルネスト・ネト／作家資料
編 集 中田耕市
翻 訳 プライアン・アムスタッツ、速水葉子
仕 様 B5変型 64ページ
アート・ディレクション&デザイン 菊池敦己 (Bluemark)
デザイン 根本真路 (Bluemark)
印 刷 グラフ株式会社
発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術
振興財団
発行部数 2,250部
価 格 2,200円 (写真集との合本)

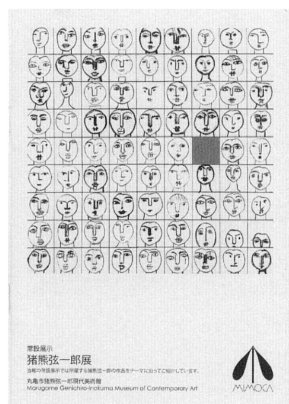
2008年
(平成20年2月)



猪熊弦一郎展 Confusion and Order [混乱と秩序]

内 容 古野華奈子「猪熊弦一郎のバランスと美」／年譜／作品リスト
編 集 古野華奈子
仕 様 A4 6ページ
デザイン 江村耕市
印 刷 平和写真印刷株式会社
発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術
振興財団
発行部数 1,000部
価 格 無料

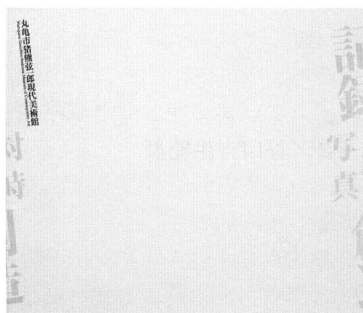
2008年
(平成20年4月)



常設展示 猪熊弦一郎展

- 内 容 猪熊弦一郎年譜／制作にあたって大切にしていたことを述べた猪熊本人の言葉や文章の抜粋／対話彫刻とコレクションの紹介
- 仕 様 A5 8ページ
- デザイン 江村耕市
- 印 刷 平和写真印刷株式会社
- 編集・発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
- 価 格 無料

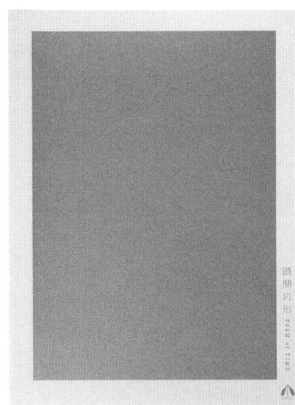
2008年
(平成20年7月)



ノイエ・フォトグラフィー 1920-30年代のドイツ写真

- 内 容 ごあいさつ／(セクション解説および作家解説) 中田耕市「〈ノイエ・フォトグラフィー〉誕生とその背景」「〈新即物主義〉の諸相」「〈新しい視覚〉とバウハウス」「〈フォトジャーナリズム〉の展開」「クライマックスから終焉へ」／作品図版／作品資料
- 編 集 中田耕市
- 仕 様 197×228mm 275ページ
- 造 本 町田覚
- デザイン 坂本陽一 (マッチアンドカンパニー)
- 印 刷 サンエムカラー
- 発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
- 発行部数 700部
- 価 格 2,500円

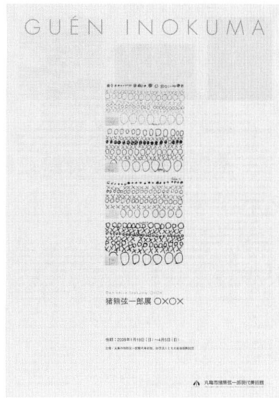
2008年
(平成20年12月)



時間の形

- 内 容 ごあいさつ／松村円「時間の形を見る」／作品図版／作家解説／作品リスト
- 編 集 松村円
- 翻 訳 アムスタッツ・コミュニケーションズ、向井比奈子、チャールズ・ウォーゼン
- 仕 様 B4変型 56ページ
- デザイン 池田進吾 (67)
- 印刷・製本 株式会社第一印刷所
- 発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
- 発行部数 700部
- 価 格 2,000円

2009年
(平成21年1月)

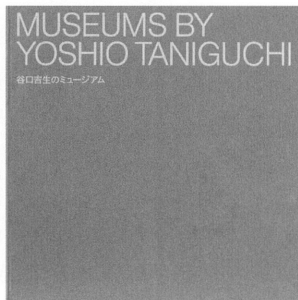


猪熊弦一郎展 OXOX

内 容 古野華奈子「猪熊弦一郎の抽象形態表現」／年譜／
作品リスト
編 集 古野華奈子
仕 様 A4 6ページ
デザイン 江村耕市
印 刷 平和写真印刷株式会社
発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術
振興財団
発行部数 1,000部
価 格 無料

iv - ii その他関連刊行物

2005年
(平成17年5月)



谷口吉生のミュージアム

内 容 あいさつ／グレン・D・ローリー「まえがき」／鈴木
博之「開かれてゆく風景－谷口吉生の美術館建
築」／テレンス・ライリー「谷口吉生によるミュ
ージアム」／プロジェクト図版・解説／プロジェクト
・データ／谷口吉生略歴
協 力 谷口建築設計研究所
編 集 デルファイ研究所
翻 訳 横手義洋、デルファイ研究所
翻訳協力 Hiro Odaira
仕 様 A4変型 276ページ
デザイン マッシモ・ヴィネリ、矢萩喜從郎
印 刷 図書印刷
発 行 中日新聞社
価 格 5,500円

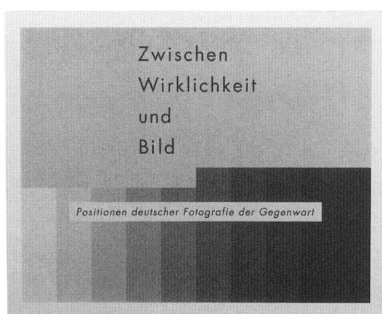
2005年
(平成17年)



花人 中川幸夫の写真・ガラス・書－いのちのかたち

内 容 ごあいさつ／早坂暁「君はどこまで歩いていくらん」
／森山明子「中川幸夫の『天地創造』」／作品図版／三
上満良「なぜ中川幸夫なのか」／安藤輝美「花をいけ
る 中川幸夫」／年譜、作品歴・書誌／作品目録
編 集 三上満良（宮城県美術館）、安藤輝美（財団法人ミモ
カ美術振興財団）
編集協力 中川幸夫事務所
翻 訳 ロバート・リード
仕 様 A4変型 222ページ
図録デザイン 嶋裕隆
表紙デザイン 山本寛
発 行 求龍堂
価 格 2,500円

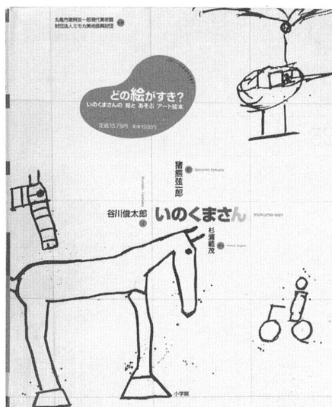
2005年
(平成17年10月)



ドイツ写真の現在 かわりゆく「現実」と向かいあうために

- 内 容 ごあいさつ／インカ・グレーヴェ・インゲルマン
「現実とイメージのはざまに—ドイツ現代写真の状況」／作家解説／作品リスト
- 編 集 増田玲、蔵屋美香、保坂健二郎、竹内万里子（東京国立近代美術館）、中田耕市（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／財団法人ミモカ美術振興財団）、読売新聞東京本社文化事業部
- 翻 訳 中田耕市、小川紀久子、ジャクリーヌ・トッド
- 仕 様 A4変型 120ページ
- デザイン 服部一成、山下智子
- 印 刷 大日本印刷株式会社
- 発 行 読売新聞東京本社
- 価 格 2,000円

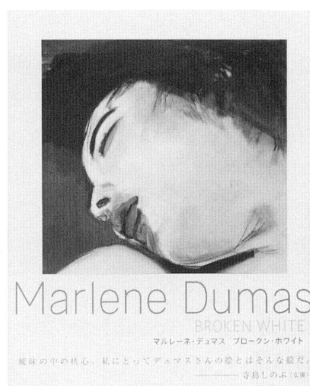
2006年
(平成18年3月)



いのくまさん

- 内 容 絵（猪熊弦一郎）／文（谷川俊太郎）／猪熊弦一郎年譜
- 編 集 桑原勝明、市河紀子
- 翻 訳 ウィリアム I. エリオット、川村和夫
- 企 画 古野華奈子（財団法人ミモカ美術振興財団）
- 監 修 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
- 仕 様 A4変型 32ページ
- 構 成 杉浦繁茂
- プリンティング・ディレクター 中江一夫
- 印 刷 日本写真印刷株式会社
- 発 行 株式会社小学館
- 価 格 1,575円

2007年
(平成19年5月)



マルレーネ・デュマス ブロークン・ホワイト

- 内 容 マルレーネ・デュマスによるテキスト／作品図版／植松由佳「ブローケン・ホワイト」／長谷川祐子「開かれた絵画—冷静と情熱の間」／山本雅美「ドローイング・シリーズについて—〈女〉を中心に」／マルレーネ・デュマスへのインタビュー（聞き手：長谷川祐子）／略歴／主な個展／主なグループ展／参考文献／作品リスト
- 編 集 Jolie van Leeuwen（Studio Dumas）、淡交社美術企画部
- 翻 訳 Jeffrey Hunter、木下哲夫
- 監 修 東京都現代美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
- 仕 様 B5変型 160ページ
- デザイン 折原滋
- 印 刷 日本写真印刷株式会社
- 発 行 株式会社淡交社
- 価 格 2,600円

IV

教育普及事業

v 美術図書室利用状況

2005年度（平成17年度）

月	入室者	累計	日数	平均
2005年 4月	304	304	29	10
5月	542	846	31	17
6月	249	1,095	30	8
7月	278	1,373	25	11
8月	516	1,889	31	17
9月	424	2,313	30	14
10月	283	2,596	25	11
11月	208	2,804	30	7
12月	112	2,916	24	5
2006年 1月	244	3,160	26	9
2月	171	3,331	28	6
3月	258	3,589	25	10

334日 3,589人（平均 11人）

2006年度（平成18年度）

月	入室者	累計	日数	平均
2006年 4月	247	247	30	8
5月	271	518	25	11
6月	286	804	30	10
7月	336	1,140	26	13
8月	769	1,909	31	25
9月	510	2,419	30	17
10月	351	2,770	25	14
11月	439	3,209	30	15
12月	120	3,329	23	5
2007年 1月	191	3,520	31	6
2月	186	3,706	28	7
3月	283	3,989	30	9

339日 3,989人（平均 12人）

2007年度（平成19年度）

月	入室者	累計	日数	平均
2007年 4月	198	198	24	8
5月	258	456	31	8
6月	169	625	30	6
7月	241	866	25	10
8月	730	1,596	31	24
9月	555	2,151	30	19
10月	465	2,616	25	19
11月	281	2,897	30	9
12月	123	3,020	24	5
2008年 1月	266	3,286	27	10
2月	147	3,433	27	5
3月	202	3,635	23	9

327日 3,635人（平均 11人）

2008年度（平成20年度）

月	入室者	累計	日数	平均
2008年 4月	177	177	24	7
5月	290	467	31	9
6月	202	669	30	7
7月	254	923	25	10
8月	691	1,614	31	22
9月	399	2,013	30	13
10月	143	2,156	25	6
11月	494	2,650	30	16
12月	121	2,771	24	5
2009年 1月	205	2,976	26	8
2月	173	3,149	28	6
3月	244	3,393	30	8

334日 3,393人（平均 10人）

IV

教育普及事業

vi

ミモカフレンド

美術館で開催する展覧会、講演会などの事業を通して、猪熊芸術及び内外の現代美術に親しむ事を目的として1995年4月に発足した。なお、名称については、生前猪熊が考案したものである。

会員期間

2004年4月1日～2006年3月31日

2006年4月1日～2008年3月31日

2008年4月1日～2009年3月31日

会員数

2004 - 2005年度会員 378名

2006 - 2007年度会員 311名

2008年度会員 224名

主な特典

展覧会の割引（3割引とする）

美術館情報のお届けなど

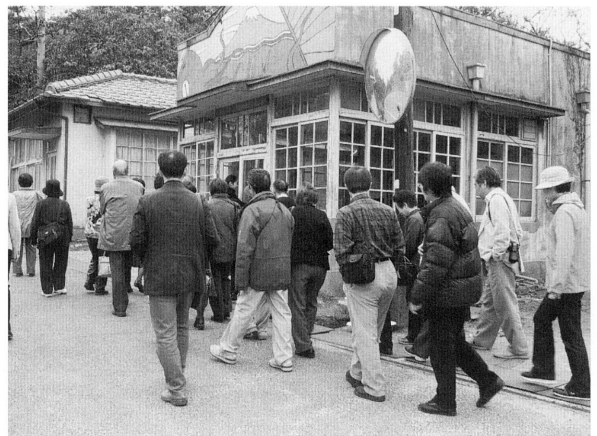
●主な活動内容

第13回美術鑑賞旅行

2005年10月15日(土)

広島市中工場、広島市現代美術館「第6回ヒロシマ賞受賞記念 シリン・ネシャット展」、ひろしま美術館「ベオグラード国立美術館所蔵 フランス近代絵画展」または広島県立美術館「ニューヨーク・パーク・コレクション展」

参加者21人



直島にて

第14回美術鑑賞旅行

2006年11月25日(土)

直島（地中美術館、「NAOSHIMA STANDARD 2」）

参加者25人

第15回美術鑑賞旅行

2007年11月10日(土)

神戸市立小磯記念美術館「開館15周年記念特別展 藤島武二と小磯良平—洋画アカデミズムを担った師弟—」、国立国際美術館「現代美術の皮膚」

参加者23人

第16回美術鑑賞旅行

2008年10月25日(土)

大原美術館「コレクションテーマ展24 きらめきの結晶—ギュスターヴ・モローと弟子たち」他、オリーブ園（観光）、犬島アートプロジェクト「製錬所」（岡山）

参加者24人

ミモカフレンド鑑賞会

2005年5月6日(金)、7日(土)

「風景遊歩 sight-cruising」

担当学芸員によるギャラリートーク

参加者21人

2005年11月23日(水・祝)

「花人 中川幸夫の写真・ガラス・書ーいのちのかたち」

新居義久氏(写真家)によるギャラリートーク

参加者12人

2006年4月22日(土)

「ドイツ写真の現在」

担当学芸員によるトワイライト・ギャラリートーク

参加者18人

2008年3月20日(木・祝)

「猪熊弦一郎展 Confusion and Order[混乱と秩序]」

担当学芸員によるギャラリートーク

参加者24人

2009年3月28日(土)

「猪熊弦一郎展 ○×○×」

担当学芸員によるギャラリートーク

参加者19人

IV

教育普及事業

vii ミモカキッズパスポート

猪熊弦一郎は子どもたちとその作品を心から愛して止まなかった。美しいものや、楽しいものをたくさん見てもらうことで、感性豊かな人間に成長して欲しいと願っていた。そこで作品に触れる機会をより多く持ってもらうため、当館では平成8年5月より高校生以下は入館無料としている。さらに高校生以下は無料で観覧できることを広く周知し、また美術館及び猪熊弦一郎に接する機会を増してもらい、芸術に親しむ心を育むため、平成11年7月よりパスポートを発行、配布している。

期間 毎年7月1日から1年間有効

対象 市内保育所、幼稚園年長児
市内小中学生全員
高校生以下の来館者で希望した人

来館時にパスポートを提示するとスタンプが押印され、1年間に9回スタンプが押されると対話彫刻キット（オブジェを作成する材料キット）か、ポストカードを渡す。

ミモカ キッズ パスポート年間利用者数

2005年4月～2009年3月

2005年度

展覧会名	幼・保	小学生	中学生	高校生	小計
風景遊歩 sight-cruising 4/1～6/12	28	142	10	0	180
常設展「猪熊弦一郎展」 6/13～7/3	2	5	0	0	7
ニューヨーク近代美術館 [MoMA] 巡回建築展 谷口吉生のミュージアム 7/10～9/25	46	183	12	0	241
常設展「猪熊弦一郎展」 9/26～10/2	2	5	0	0	7
花人 中川幸夫の写真・ガラス・書ーいのちのかたちー 10/9～06/1/9	12	70	1	0	83
猪熊弦一郎展 若き情熱の証 1/15～3/5	12	81	0	0	93
ドイツ写真の現在 かわりゆく「現実」と向かいあうために 3/12～3/31	1	12	0	0	13
計	103	498	23	0	624

※展覧会名に特別展名がある場合は、常設展も同時開催とする。

2006年度

展 覧 会 名	幼・保	小学生	中学生	高校生	小 計
ドイツ写真の現在 かわりゆく「現実」と向かいあうために 4/1～5/7	3	1	0	0	4
猪熊弦一郎展 具象と抽象の狭間で ステイーヴ・マックイーン Caresses[愛撫] 5/14～7/9	7	149	2	1	159
須田悦弘展 7/16～10/1	109	100	31	0	240
無言館－戦没画学生 いのちの叫び－ 10/8～12/17	8	25	2	0	35
常設展「猪熊弦一郎展」 12/18～12/22	0	0	0	0	0
猪熊弦一郎展『いのくまさん』 07/1/1～3/31	85	43	1	0	129
計	212	318	36	1	567

2007年度

展 覧 会 名	幼・保	小学生	中学生	高校生	小 計
猪熊弦一郎展『いのくまさん』 4/1～4/15	6	8	0	0	14
奏でる身体 4/22～6/24	13	29	2	0	44
常設展「猪熊弦一郎展」 6/25～7/8	9	21	2	0	32
エルネスト・ネト展 7/15～10/8	126	452	52	0	630
常設展「猪熊弦一郎展」 10/9～10/14	0	10	0	0	10
マルレーネ・デュマス＝ブローケン・ホワイト 10/21～08/1/20	30	50	3	0	83
常設展「猪熊弦一郎展」 1/21～1/27	0	6	0	0	6
猪熊弦一郎展 Confusion and Order [混乱と秩序] FOCUS 2 エイヤ＝リーサ・アハティラ展 2/3～3/23	29	40	4	0	73
計	213	616	63	0	892

2008年度

展 覧 会 名	幼・保	小学生	中学生	高校生	小 計
ノイエ・フォトグラフィー 1920-30年代のドイツ写真 4/6～6/22	19	75	2	0	96
常設展「猪熊弦一郎展」 6/23～7/6	9	21	2	0	32
ピピロッティ・リスト：ゆうゆう 7/13～10/13	58	329	1	0	388
常設展「猪熊弦一郎展」 10/14～10/19	0	2	0	0	2
時間の形 10/26～09/1/12	5	26	2	0	33
猪熊弦一郎展 ○×○× MIMOCA'S EYE vol. 2 小金沢健人展 動物的 1/18～3/31	18	34	1	0	53
計	109	487	8	0	604

IV

教育普及事業

viii 市内教職員対象解説会

教職員の方々を対象に、授業に役立てていただけるよう、主に担当学芸員が企画展毎に解説を行っている。

展覧会名	開催日	時間	保育所	幼稚園	小学校	中学校	その他	合計
花人 中川幸夫の写真・ガラス・書 -いのちのかたち-	2005.10.21(金)	16時20分～	0	0	2	0	0	2
猪熊弦一郎展 若き情熱の証	2006.1.20(金)	16時30分～	2	0	16	2	0	20
猪熊弦一郎展 具象と抽象の狭間で ステイーヴ・マックイーン Caresses[愛撫]	2006.5.19(金)	16時20分～	0	5	0	0	0	5
須田悦弘展 (解説会+バックヤードツアー)	2006.7.31(月)	9時30分～	0	0	25	1	0	26
無言館-戦没画学生 いのちの叫び-	2006.10.7(土)	11時～	0	1	7	4	0	12
猪熊弦一郎展『いのくまさん』	2007.1.12(金)	17時～	2	0	11	0	0	13
奏でる身体	2007.5.10(木)	16時30分～	0	0	2	2	0	4
エルネスト・ネット展	2007.8.11(木)	16時～	0	0	2	0	0	2
マルレーネ・デュマス-ブローケン・ホワイト	2007.11.1(木)	16時30分～	0	1	1	0	0	2
猪熊弦一郎展 Confusion and Order[混乱と秩序] FOCUS 2 エイヤ=リーサ・アハティラ展	2008.2.6(水)	16時30分～	0	0	2	3	0	5
ノイエ・フォトグラフィー 1920-30年代のドイツ写真	2008.4.15(火)	16時30分～	0	0	3	0	0	3
時間の形	2007.11.20(木)	16時30分～	0	0	2	0	0	2
猪熊弦一郎展 ○×○× MIMOCA'S EYE vol. 2 小金沢健人展 動物的	2009.1.23(金)	16時45分～	0	0	7	4	0	11
		計	2	7	51	10	0	86

IV

教育普及事業

ix

博物館実習

博物館学芸員資格取得のために科目単位を履修中の方を受け入れ、収集・保管・展示、調査研究、教育普及等に関する実習を行っている。

	実施日程	実習者数(人)
2005年度	2005. 8. 8(月)～8.12(金)	6
2006年度	2006. 7. 28(金)～8. 1(火)	6
2007年度	2007. 8. 20(月)～25(土)	8
2008年度	2008. 8. 18(月)～23(土)	7
計		27

X 鑑賞教育について考える会

2008年度より、月1回程度「鑑賞教育について考える会」を開催している。教職員の方々とともに鑑賞教育についての研究を行うほか、学校現場で使いやすく、また子どもたちに効果的な鑑賞を促すことができるような鑑賞教材の開発にも取り組んでいる。

	実施日時		小学校教諭	中学校教諭	一般	参加人数(計)
第1回	2008年7月4日(金)	16時30分～	3	0	0	3
第2回	2008年8月1日(金)	15時～	3	0	0	3
第3回	2008年8月11日(月)	10時～	3	0	0	3
第4回	2008年9月20日(土)	10時～	3	0	0	3
第5回	2008年10月18日(土)	10時～	4	0	0	4
第6回	2008年11月1日(土)	14時～	4	0	1	5
第7回	2008年12月13日(土)	10時～	4	1	1	6
第8回	2009年1月5日(月)	10時～	4	0	0	4
第9回	2009年1月24日(土)	10時～	3	0	0	3
第10回	2009年2月14日(土)	14時～	4	0	0	4
第11回	2009年2月28日(土)	10時30分～	4	0	0	4
第12回	2009年3月20日(金・祝)	10時30分～	4	1	1	6
計			43	2	3	48

V

その他事業

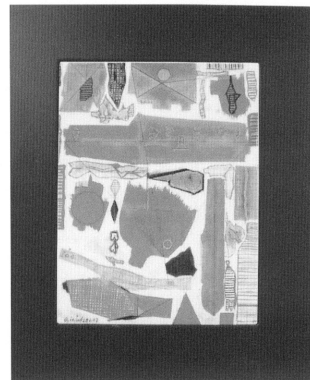
i ミュージアムショップ

ミュージアムショップは1階エントランスホールに設けられている。商品は全てオリジナルであり、当初猪熊弦一郎自らグッズ製作に携わった。猪熊の「街では売ってないもの、美術館だからあるもの」を提供するという姿勢を受け継ぎ、作品をもとにした商品を新しく開発している。

2006年新商品

陶額 『空中発芽』(1983)

価格 10,500円(税込)



V

その他事業

ii

カフェ

カフェレスト MIMOCA は、2006年3月まで財団法人ミモカ美術振興財団の直営であったが、2006年4月よりブルーマークに業務委託することとなった。1998年から始まった展覧会毎の特別メニューは引き続き提供され、来館者の好評を博している。



撮影：藤田一浩

VI

入館者状況

2005年度（平成17年度）

展覧会事業

会 期	展 覧 会 名	日数(日)	入場者数(人)	平均(人/日)
2005年4月1日～2005年6月12日	風景遊歩 sight-cruising	73	7,852	108
2005年7月10日～2005年9月25日	ニューヨーク近代美術館 [MoMA] 巡回建築展 谷口吉生のミュージアム	78	15,948	204
2005年10月9日～2006年1月9日	花人 中川幸夫の写真・ガラス・書-いのちのかたち-	86	10,045	117
2006年1月15日～2006年3月5日	猪熊弦一郎展 若き情熱の証	50	3,823	76
2006年3月12日～2006年3月31日	ドイツ写真の現在 かわりゆく「現実」と向かいあうために	20	2,121	106
特別展計		307	39,789	130
2005年4月1日～2005年7月3日	常設展Ⅰ 猪熊弦一郎展	94	9,157	97
2005年7月10日～2005年10月2日	常設展Ⅱ 猪熊弦一郎展	85	16,622	196
2005年10月9日～2006年1月9日	常設展Ⅲ 猪熊弦一郎展	86	10,503	122
2006年1月15日～2006年3月5日	常設展Ⅳ 猪熊弦一郎展	50	3,837	77
2006年3月12日～2006年3月31日	常設展Ⅴ 猪熊弦一郎展	20	2,205	110
常設展計		335	42,324	126
計			82,113	

教育普及事業

	プログラム数(回)	日数(日)	利用者数(人)	平均(人/回)
ワークショップ	13	34	1,292	38
オープン・スタジオ	10	10	602	60
イベント	4	6	2,453	409
美術図書室		334	3,589	11
ミモカフレンド向けイベント	3	4	54	14
ミモカキッズパスポート		307	622	2
市内教職員対象解説会	2	2	9	5
博物館実習	1	5	6	
キュレーターズ・トーク	36	36	565	16
その他展覧会関連プログラム	10	24	949	104
計			10,141	

2005年度入館者総数 92,254

2006年度（平成18年度）

展覧会事業

会 期	展 覧 会 名	日数(日)	入場者数(人)	平均(人/日)
2006年4月1日～2006年5月7日	ドイツ写真の現在 かわりゆく「現実」と向かいあうために	37	5,426	147
2006年5月14日～2006年7月9日	猪熊弦一郎展 具象と抽象の狭間で	57	4,930	86
2006年5月14日～2006年7月9日	ステイーヴ・マックイーン Caresses [愛撫]	57	4,930	86
2006年7月16日～2006年10月1日	須田悦弘展	78	14,229	182
2006年10月8日～2006年12月17日	無言館－戦没画学生 いのちの叫び－	71	17,090	241
2007年1月1日～2007年3月31日	猪熊弦一郎展『いのくまさん』	89	12,425	140
特別展計		389	59,030	152
2006年4月1日～2006年5月7日	常設展Ⅰ 猪熊弦一郎展	37	5,566	150
2006年5月14日～2006年7月9日	常設展Ⅱ 猪熊弦一郎展	57	4,977	87
2006年7月16日～2006年10月1日	常設展Ⅲ 猪熊弦一郎展	78	14,719	189
2006年10月8日～2006年12月22日	常設展Ⅳ 猪熊弦一郎展	76	17,619	232
2007年1月1日～2007年3月31日	常設展Ⅴ 猪熊弦一郎展	90	12,525	139
常設展計		338	55,406	164
計			114,436	

教育普及事業

	プログラム数(回)	日数(日)	利用者数(人)	平均(人/回)
ワークショップ	12	30	923	30
オープン・スタジオ	10	10	568	57
イベント	6	7	1,767	252
美術図書室		339	3,989	12
ミモカフレンド向けイベント	2	2	43	26
ミモカキッズサポート		389	567	1
市内教職員対象解説会	4	4	48	12
博物館実習	1	5	6	
キュレーターズ・トーク	50	50	752	15
その他展覧会関連プログラム	9	12	2,125	176
計			10,778	

2006年度入館者総数 125,214

2007年度（平成19年度）

展覧会事業

会 期	展 覧 会 名	日数(日)	入場者数(人)	平均(人/日)
2007年4月1日～2007年4月15日	猪熊弦一郎展『いのくまさん』	15	2,061	137
2007年4月22日～2007年6月24日	奏でる身体	64	6,228	97
2007年7月15日～2007年10月8日	エルネスト・ネット展	86	28,108	327
2007年10月21日～2008年1月20日	マルレーネ・デュマスーブローケン・ホワイト	85	11,334	133
2008年2月3日～2008年3月23日	猪熊弦一郎展 Confusion and Order [混乱と秩序]	50	6,403	128
2008年2月3日～2008年3月23日	FOCUS 2 エイヤ＝リーサ・アハティラ展	50	6,403	128
特別展計		350	60,537	173
2007年4月1日～2007年4月15日	常設展Ⅰ 猪熊弦一郎展	15	2,074	138
2007年4月22日～2007年7月8日	常設展Ⅱ 猪熊弦一郎展	78	7,114	91
2007年7月15日～2007年10月14日	常設展Ⅲ 猪熊弦一郎展	92	28,841	313
2007年10月21日～2008年1月27日	常設展Ⅳ 猪熊弦一郎展	92	12,247	133
2008年2月3日～2008年3月23日	常設展Ⅴ 猪熊弦一郎展	50	6,545	131
常設展計		327	56,821	174
計			117,358	

教育普及事業

	プログラム数(回)	日数(日)	利用者数(人)	平均(人/回)
ワークショップ		31	1,570	51
オープン・スタジオ		10	827	83
イベント	8	7	4,583	655
美術図書室		327	3,635	11
ミモカフレンド向けイベント		2	47	24
ミモカキッズバスポート		350	844	2
市内教職員対象解説会	4	4	13	3
博物館実習	1	6	8	
キュレーターズ・トーク	45	45	634	14
その他展覧会関連プログラム	7	9	515	57
計			12,676	

2007年度入館者総数 130,034

2008年度（平成20年度）

展覧会事業

会 期	展 覧 会 名	日数(日)	入場者数(人)	平均(人/日)
2008年4月6日～2008年6月22日	ノイエ・フォトグラフィー 1920-30年代のドイツ写真	78	6,821	87
2008年7月13日～2008年10月13日	ピピロッチェ・リスト：ゆうゆう	93	14,634	157
2008年10月26日～2009年1月12日	時間の形	72	7,405	103
2009年1月18日～2009年3月31日	猪熊弦一郎展 ○×○×	73	6,207	85
2009年1月18日～2009年3月31日	MIMOCA'S EYE vol. 2 小金沢健人展 動物的	73	6,207	85
特別展計		389	41,274	106
2008年4月6日～2008年7月6日	常設展Ⅰ 猪熊弦一郎展	92	7,734	84
2008年7月13日～2008年10月19日	常設展Ⅱ 猪熊弦一郎展	99	15,641	158
2008年10月26日～2009年1月12日	常設展Ⅲ 猪熊弦一郎展	72	7,596	106
2009年1月18日～2009年3月31日	常設展Ⅳ 猪熊弦一郎展	73	6,251	86
常設展計		336	37,222	111
計			78,496	

教育普及事業

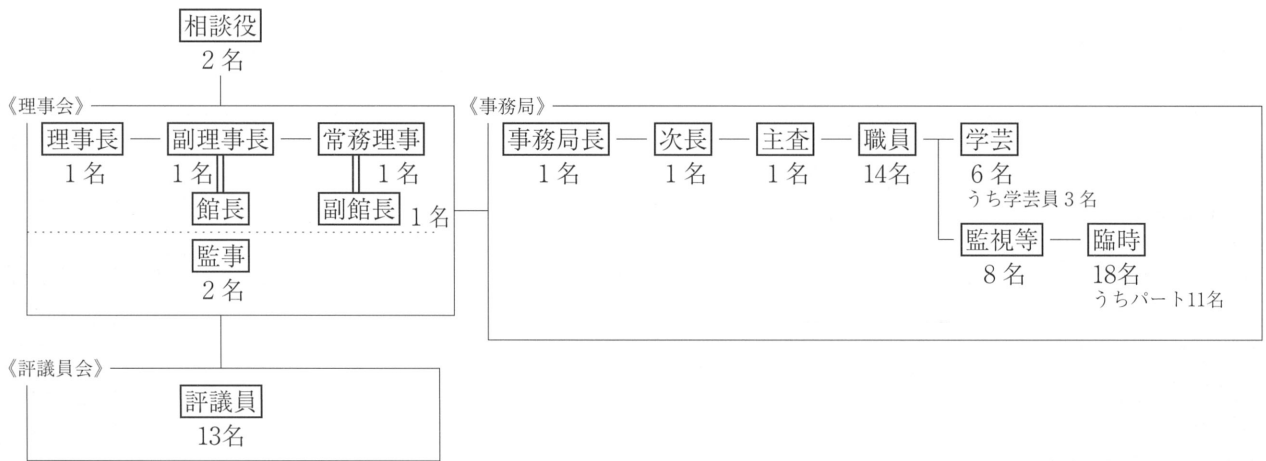
	プログラム数(回)	日数(日)	利用者数(人)	平均(人/回)
ワークショップ		27	2,142	79
オープン・スタジオ		10	662	66
イベント	6	7	1,773	253
美術図書室		334	3,393	10
ミモカフレンド向けイベント		2	43	22
ミモカキッズパスポート		389	570	1
市内教職員対象解説会	3	3	16	5
博物館実習	1	6	7	
鑑賞教育について考える会		12	48	4
キュレーターズ・トーク	45	45	731	16
その他展覧会関連プログラム	5	11	329	30
計			9,714	

2008年度入館者総数 88,210

VII

組 織 図

2005年度（平成17年度）



相 談 役 高階 秀爾 学識経験者

荒井 茂雄 新制作協会会員

理 事 新井 哲二 丸亀市市長（理事長）
 高階 秀爾 学識経験者
 島川 修治 丸亀商工会議所副会頭
 大西 義松 丸亀市文化協会会長
 大西 康彦 学識経験者

山地 洋子 学識経験者
 小田原保雄 丸亀市教育委員会委員長
 小佐古公士 丸亀市教育委員会教育長（館長 兼 副理事長）
 多田羅 洋 丸亀市教育委員会文化部長
 白川 洋二 丸亀市教育委員会文化部（副館長 兼 常務理事）

監 事 山地 隆 丸亀市識見委員

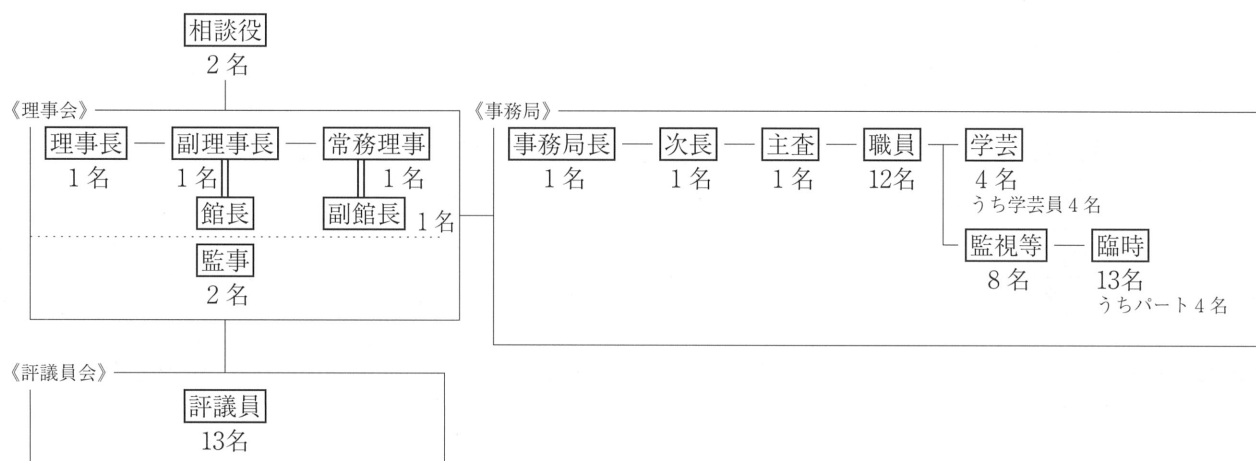
吉井 紀之 丸亀市収入役

評 議 員 橋本 昇 丸亀市社会教育委員会副会長
 佐藤知恵子 丸亀市婦人団体連絡協議会会長
 津郷美智子 丸亀市幼稚園長会会長
 曾我真佐子 丸亀市保育所長会会長
 赤松よし子 丸亀市小学校研究会園工・美術造形部会代表
 香川 宏 学識経験者
 東山 正章 学識経験者

川松美智子 学識経験者
 川崎 展子 学識経験者
 酒井 明世 学識経験者
 山崎 洋子 学識経験者
 亀井 敬子 学識経験者
 山田 哲也 丸亀市教育委員会文化課長

〔2006年3月31日現在〕

2006年度（平成18年度）



相談役 高階 秀爾 学識経験者

荒井 茂雄 新制作協会会員

理事 大西 義松 丸亀市文化協会会長
 島川 修治 丸亀商工会議所役員
 大西 康彦 学識経験者
 山地 洋子 学識経験者

酒井 明世 学識経験者
 東山 正章 学識経験者（館長兼副理事長）
 小田原保雄 丸亀市教育委員会委員長（理事長）
 白川 洋二 丸亀市教育委員会文化部（副館長兼常務理事）

監事 山地 隆 丸亀市識見委員

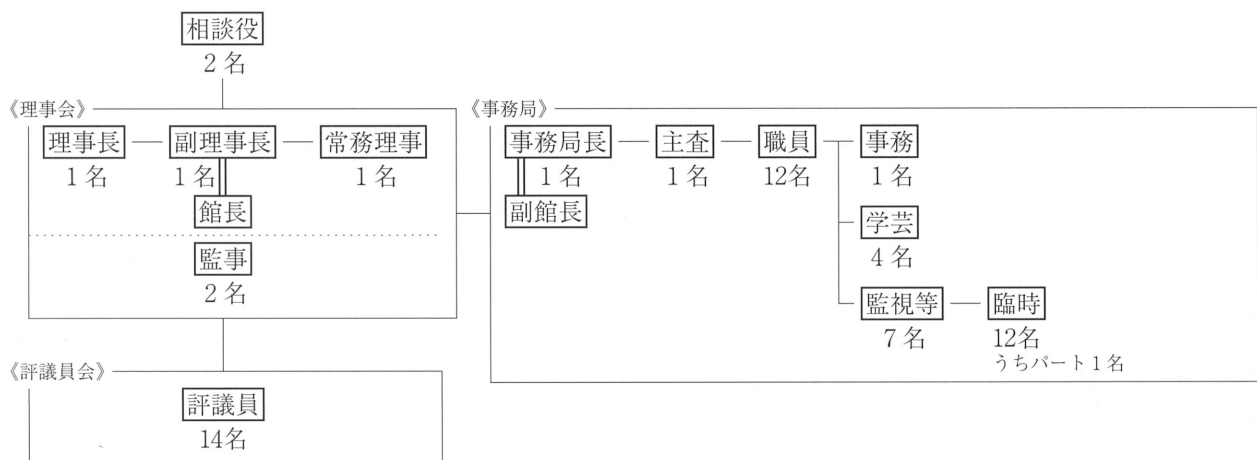
好井 紀之 丸亀市識見委員

評議員 香川 宏 学識経験者
 佐藤知恵子 丸亀市婦人団体連絡協議会会長
 中村 和子 丸亀市幼稚園長会会長
 曾我真佐子 丸亀市保育所長会会長
 岩澤 一朗 丸亀市小学校研究会図工・美術造形部会代表
 橋本 昇 丸亀市社会教育委員会副会長
 前田 周治 丸亀市観光協会

川松美智子 学識経験者
 川崎 展子 学識経験者
 杉尾 英美 丸亀TMO推進協議会委員長
 山崎 洋子 学識経験者
 亀井 敬子 学識経験者
 山田 哲也 丸亀市教育委員会文化課長

[2007年3月31日現在]

2007年度（平成19年度）



相 談 役 高階 秀爾 学識経験者

荒井 茂雄 新制作協会会員

理 事 橋本 昇 丸亀市文化協会会長

日野 明世 学識経験者

島川 修治 丸亀商工会議所役員

東山 正章 学識経験者（館長 兼 副理事長）

赤澤 淳 学識経験者

高木 尚 丸亀市教育委員会委員長（理事長）

山地 洋子 学識経験者

多田 哲夫 丸亀市教育委員会文化部長（常務理事）

監 事 後藤 修 学識経験者

小野 敏夫 学識経験者

評 議 員 香川 宏 学識経験者

杉尾 英美 丸亀TMO推進協議会委員長

佐藤知恵子 丸亀市婦人団体連絡協議会会長

川松美智子 学識経験者

横井 雅代 丸亀市保育所長会長

山崎 洋子 学識経験者

岩澤 一朗 丸亀市小学校研究会因工・美術造形部会代表

川崎 展子 学識経験者

鈴木 啓子 丸亀市幼稚園長会長

亀井 敬子 学識経験者

前田 俊雄 丸亀市社会教育委員副会長

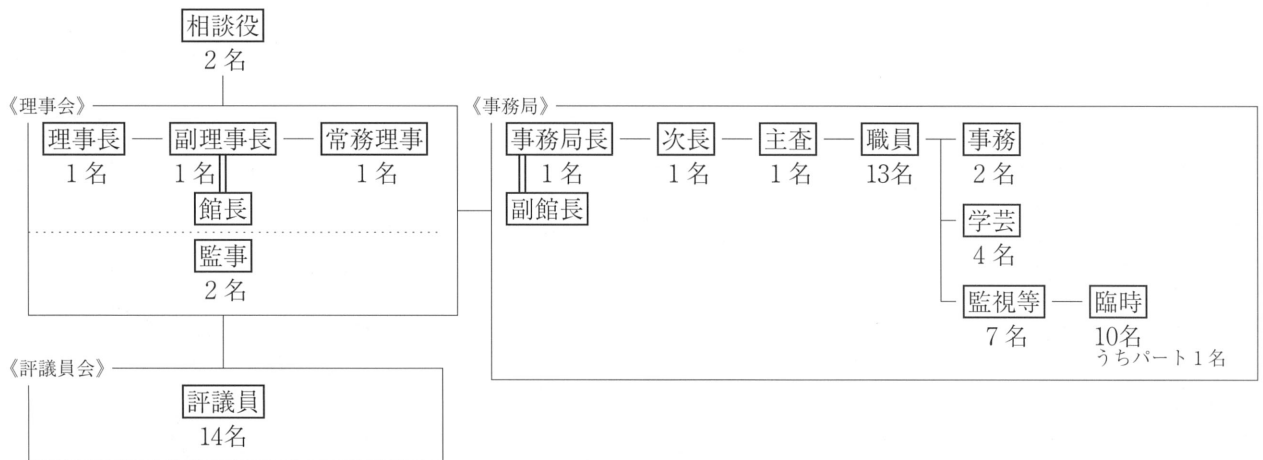
塩田 等 学識経験者

前田 周治 丸亀市観光協会

藤田 秀光 丸亀市教育委員会文化課長

〔2008年3月31日現在〕

2008年度（平成20年度）



相談役 高階 秀爾 学識経験者

荒井 茂雄 新制作協会会員

理事 橋本 昇 丸亀市文化協会会長
 島川 修治 丸亀商工会議所役員
 小佐古公士 学識経験者
 山地 洋子 学識経験者

日野 明世 学識経験者
 東山 正章 学識経験者（館長兼副理事長）
 赤澤 淳 学識経験者（理事長）
 多田 哲夫 丸亀市教育委員会文化部長（常務理事）

監事 後藤 修 学識経験者

小野 敏夫 学識経験者

評議員 香川 宏 学識経験者
 佐藤知恵子 丸亀市婦人団体連絡協議会会長
 横井 雅代 丸亀市保育所長会長
 岩澤 一郎 丸亀市小学校研究会園工・美術造形部会代表
 鈴木 啓子 丸亀市幼稚園長会長
 前田 俊雄 丸亀市社会教育委員副会長
 前田 周治 丸亀市観光協会

杉尾 英美 丸亀TMO推進協議会委員長
 川松美智子 学識経験者
 山崎 洋子 学識経験者
 川崎 展子 学識経験者
 亀井 敬子 学識経験者
 塩田 等 学識経験者
 藤田 秀光 丸亀市教育委員会文化課長

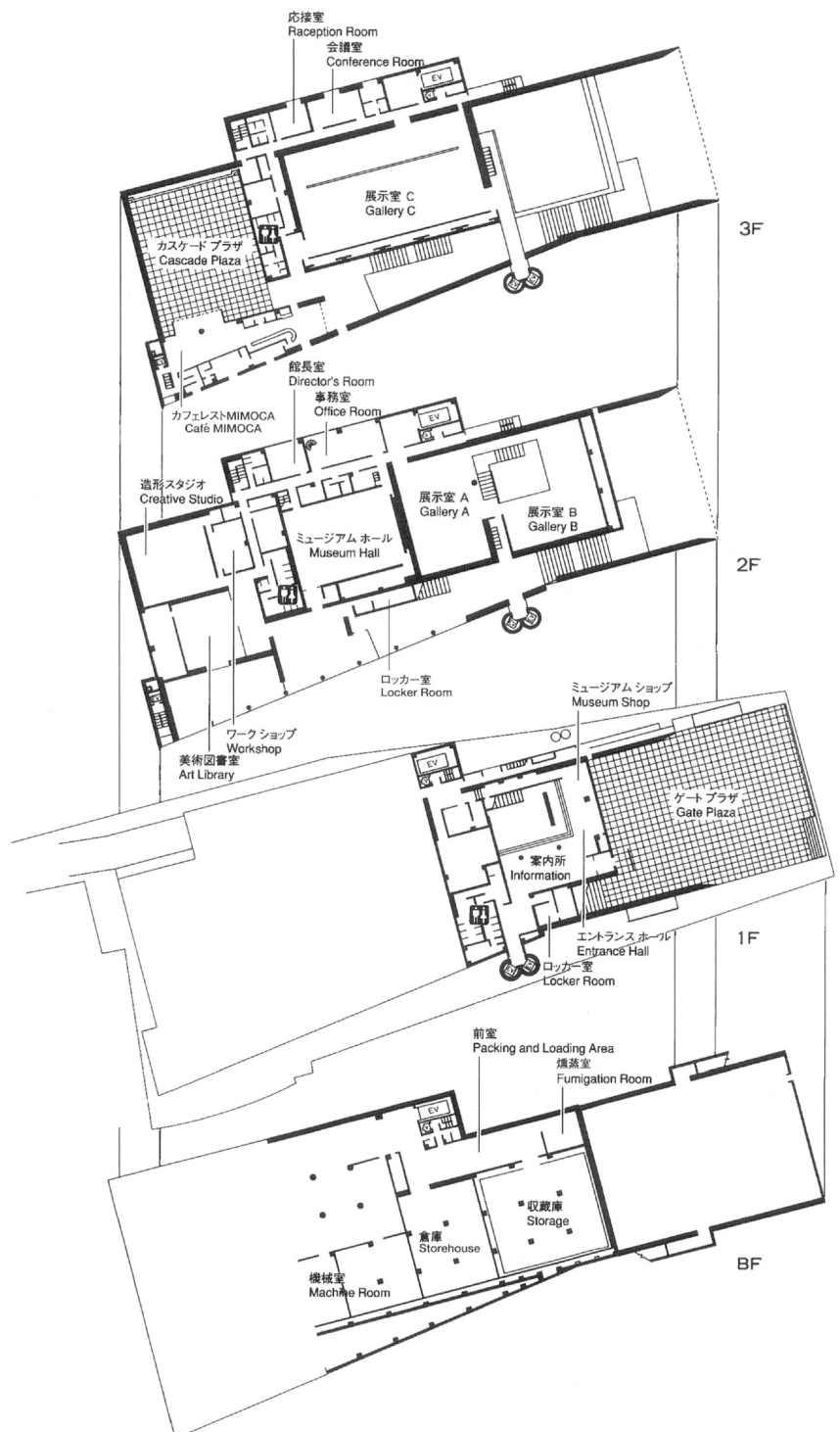
[2009年3月31日現在]

VIII

施設概要

所在地 丸亀市浜町80番地1
 敷地面積 5,974.53㎡
 規模構造 鉄骨鉄筋コンクリート構造
 地下1階、地上3階
 最高高さ 20m
 建築面積 3,564.80㎡
 延床面積 11,948.14㎡
 仕上外壁 アルミ押出型材-Y(スパンドレル)
 石(パーリントンスレート)
 コンクリート打放し
 仕上内装 床：大理石、花崗岩、フローリングタイ
 ル、ライムストーン、カーペットタイル、ゴム
 タイル、塩ビシート
 壁：クロスステックス(展示室)ナブコホワ
 イト、ビニールクロス、布クロス
 天井：岩綿吸音ボード AEP、ボード塗
 装、アルミパネル
 設計 谷口建築設計研究所
 監理 丸亀市建築課
 谷口建築設計研究所
 施工 建築工事 (株)鹿島建設
 電気設備工事 (株)栗原工業
 機械設備工事 (株)川崎設備工業
 工期 平成元年11月21日着工
 平成3年6月20日竣工

3階 ● 展示室 C	642.74㎡
Gallery C	
カスケードプラザ	532.40㎡
Cascade Plaza	
カフェレスト MIMOCA	236.67㎡
Café MIMOCA	
会議室	
Conference Room	
2階 ● 展示室 A	285.66㎡
Gallery A	
展示室 B	286.96㎡
Gallery B	
ミュージアムホール	297.05㎡
Museum Hall	
170席(舞台照明・音響・映像設備完備)	
造形スタジオ	202.15㎡
Creative Studio	
ワークショップ	60.00㎡
Room for Workshop	
美術図書室	195.20㎡
Art Library	
ロッカー室	
Locker Room	
1階 ● 案内所	
Information	
ミュージアムショップ	
Museum Shop	
ロッカー室	
Locker Room	
BF ● 収蔵庫	373.64㎡
Storage	



IX

利用案内

開館時間	午前10時～午後6時（入館は5時30分まで）
休館日	年末12月25日～31日、他に展示替えのための臨時休館（会期中無休）
観覧料	常設展 一般 300円（団体240円） 大学生 200円（団体160円）
特別展	その都度料金設定
無料	高校生以下または18歳未満、丸亀市内に在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方
割引	20名以上の団体 2割引

交通案内

- 新幹線を利用する場合
東京～岡山 約3時間
 - ①特急を利用の場合
岡山～丸亀 特急 約40分
 - ②マリンライナー（坂出乗換）を利用の場合
岡山～坂出 マリンライナー 約40分
坂出～丸亀 普通 約10分
J R丸亀駅から徒歩約1分
- 飛行機を利用する場合
東京～高松空港 約1時間
 - ①空港からタクシーを利用の場合 約40分
 - ②空港からバス、高松からJ R利用の場合 バス 約40分
電車(快速) 約30分
- 高速道路を利用する場合
岡山～瀬戸中央自動車道 坂出北 I Cから約10分
松山から 松山・高松自動車道 善通寺 I Cから約15分
高知から 高知・高松自動車道 善通寺 I Cから約15分
徳島から 徳島自動車道 美馬 I Cから約40分

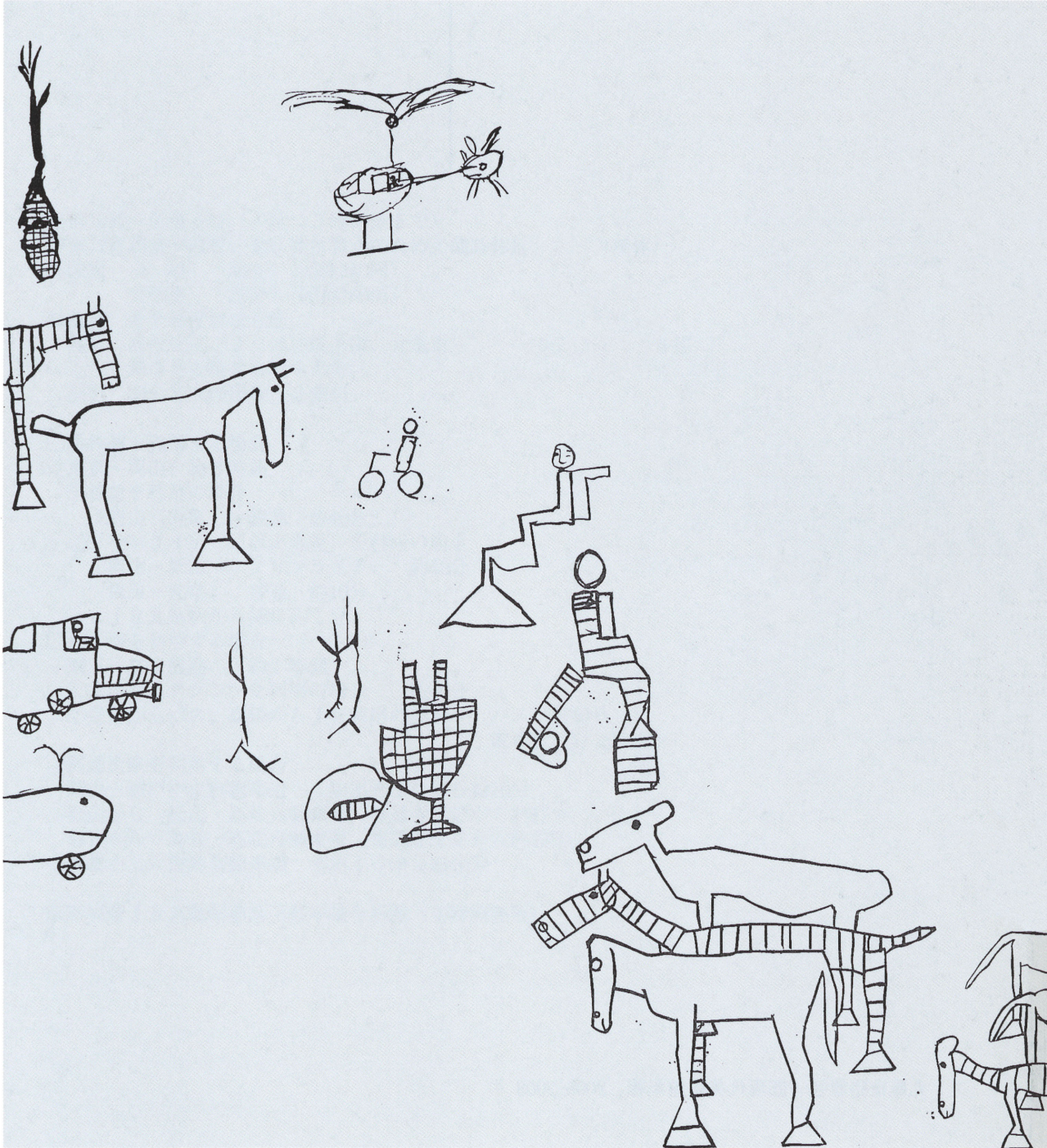
駐車場◆J R丸亀駅前地下駐車場を利用（1時間無料）

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館年報 2005-2008

平成23年3月 印刷・発行

編集・発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団
香川県丸亀市浜町80-1 TEL(0877)24-7755

印刷 平和写真印刷株式会社
香川県丸亀市土器町北1-18 TEL(0877)23-1300



Marugame Genichiro-Inokuma Museum Of Contemporary Art
Biennial Report 2005-2008